

川柳塔

創刊大正十三年 通卷一 二一六号



日川協加盟

第8回 春の川柳塔まつり誌上大会

No.1116

五月号

暑中見舞広告募集

本誌七月号に掲載する暑中見舞広告を募集いたします。同人・誌友ならびに各句会(川柳会)のアピール及び誌上名刺交換の場として、積極的にご利用をお願い申し上げます。

★個人 一口 1/9頁 二、〇〇〇円

1/6頁 三、〇〇〇円

(巻末の台紙に原稿を貼付または記入してお申込み下さい。)

★団体 次の四種といたします。

① 1/3頁 六、〇〇〇円

② 1/2頁 九、〇〇〇円

③ 2/3頁 一二、〇〇〇円

④ 1頁 一八、〇〇〇円

▼原稿締切 五月二〇日

川柳塔社

妻をころしてゆらりゆらりと訪ね来よ

今もなお多くの人を魅了し続ける時実新子の川柳と言葉―。

巨星・時実新子が二〇〇七年に

亡くなって十年を期に、彼女に最後

まで付き添いを許された平井美智

子氏が川柳作品をセレクト。そして

残された言葉の数々を一冊に凝縮。



時実新子の

川柳と慟哭

熱の舌しびれるように人を恋う

君は日の子われは月の子顔上げよ

こちらあなたの夫と死ぬる女です

菜の花の風はつめたし有夫恋

愛咬やはるかはるかにさくら散る

編 平井美智子

定価 1,320円 (本体 1,200円 + 税) 送料は4冊まで一律 ¥300
新書判ソフトカバー・98頁/発行・新葉館出版/ISBN978-4-86044-813-4
お求めは全国の主要書店、または新葉館出版 (06-4259-3777) まで。

家籠り

小島 蘭 幸

それは新家完司理事長の一本の電話から始まりました。川柳塔3月旬会の開催か中止かということでした。その時大阪では新型コロナウイルスの感染者は一人、鳥取、広島ではゼロでしたが、私は、もしものことを考えると中止も止むを得ないのではと答えました。

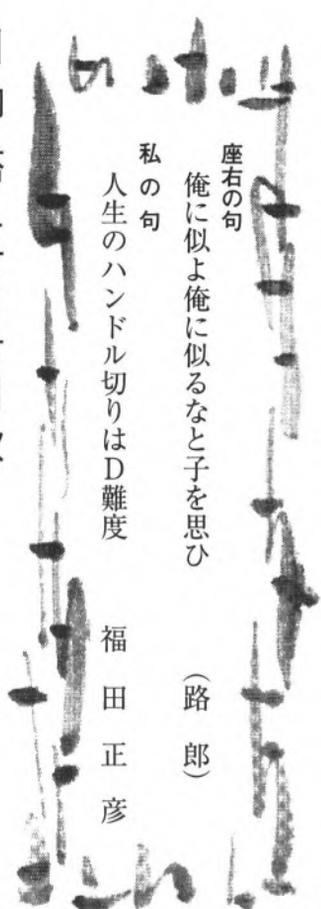
急遽中止を決めましたので、川柳塔3月号と一緒に急告!! のチラシを発送することが出来ました。今思えば中止は正解でした。その後、各地の大会、旬会が相次いで中止、延期、誌上大会に変更されたことは皆様もご存知のことと思います。

第44回全日本川柳2020秋田大会も10月11日に延期になりました。実は10月11日は第72回西日本川柳大会がすでに決まっています、秋田大会選者の3名と私が選者をする事になっていたので。私はす

ぐに主催者の光延弓削川柳会会長に電話をしました。すでに大会案内は印刷済みとのことでしたが、全日本が一番と了解をいただくことが出来ました。後日、担当者から西日本大会は、地元選者で何とか凌げそうですとメールをいただきました。

先日、木本朱夏編集長と電話で話をする事が出来ました。電話のあとでハッと気付かされたことがあります。それは旬会を中止しても編集はいつも通りしなければならぬということです。和歌山から天王寺の事務所まで行かれていますと思うと頭が下がるばかりです。編集、発送、事務所の皆様に心から御礼申し上げます。

4月7日、安倍首相は、7都府県に新型コロナウイルス急事態宣言をしました。広島県も土、日の外出自粛です。私は4月になってからNHKひるまえ川柳に出演しただけで、ずっと家籠りをしています。家籠りといっても選句、執筆、編集、発送と川柳のお陰で日々忙しく生活しています。川柳塔社同人、誌友の皆様、この機会に川柳塔を、川柳書を隅から隅まで読んで下さい。一冊の本が世に出るのは、多くの人の汗と努力の賜物なのです。



座右の句

俺に似よ俺に似るなと子を思ひ

(路郎)

私の句

人生のハンドル切りはD難度

福田正彦

川柳塔 五月号目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田 尋「大阪・城北菖蒲園」

■巻頭言 家籠り……………小島蘭幸 ……(1)

特殊詐欺譚……………西出楓楽 ……(2)

川柳塔(同人吟)……………小島蘭幸選 ……(4)

川柳塔の川柳讃歌 ⑧……………木津川 計 ……(40)

橘高薫風句抄……………(41)

自選集……………(42)

句集の森……………濱野奇童 ……(45)

温故知新……………(45)

水煙抄……………川上大輪選 ……(46)

英語 de Senryu ⑩……………吉村侑久代 ……(65)

誹風柳多留一二篇研究 83……………(66)

愛染帖……………新家完司選 ……(68)

檸檬抄「さすが」……………水野黒兎・鴨谷瑠美子共選 ……(72)

特殊詐欺譚

西出 楓 楽

つい先日、テレビで聞いたところによると昨年の特種詐欺被害は、我が大阪府下だけで1807件22億1千万円だそうです。あれだけメディアで報じられ、金融機関でも窓口などで注意を促しているのに……。

かれこれ1年ほど前、所轄の警察署と名乗る女性から電話がありました。

「あなたの名前が詐欺グループのリストに上がっています。もしお金に絡む電話がかかったら、ご家族か警察へ至急相談してください。」

それを合図のように、しばらくして電話がありました。

「そちらに白い大型封筒で、老人施設の案内が届いていませんか。」

不要なものは何でもすぐ処分する私、捨てたとも言えずまだだと言うと、

「もし届いたら取っておいて下さい。その施設を欲しがっておられる方がありませんから、戴きに行きます。」

その後男性から2、3回電話がありました



小島蘭幸選

大阪市 津村 志華子

うつらうつら仮眠の中に亡母が立つ

五月晴れここ病室はうすぐもり

MRI地獄の釜の音がする

救急病院ここは地獄の一丁目

往生はなかなか出来ぬものと知り

雑草は強いわたしも怯むまい

橿原市 居谷 真理子

きさらぎの風は鱗を光らせて

春らしく年寄りらしく転んだの

20分寄り道やわらかくなった

桜餅とふらんす堂の本買って

感嘆の付箋と溜め息の葉

目指すのは琥珀色した辞世の句

倉吉市 牧野 芳光

波の花満開冬の日本海

危ない話齋に力を入れて聞く

バッタリと出会う都会の片隅で

信じられるものがあるから飾らない

妄想をしてもどなたも叱らない

猫の目と妻の眼にかなわない

大阪市 古今堂 蕉子

昨日のように十年が過ぎていく

火と水の親からぬるま湯の子ら

コロナ禍の浪花の春の無観客

誰だっとうごめく鼻を持っている

菜の花のおしたし信楽とコラボ

湿布葉肩腰足に貼って雨

松江市 石橋 芳山

傷口は治らず口を開けた海

流れから察して笑うところだが

救命具大きな穴があいている

カタカナに負けて焼酎の水割り

もやもやを捨てに針路は夜空です

だとしてもレモンが甘いわけもない

土佐清水市 辻内次根

砂浜にわたしひとり足の跡

処分する費用遣して趣味の部屋

人の声聞きたい耳の毛が伸びる

窓辺からトンビを見たり見られたり

日脚伸ぶ早三月という焦り

集落を三つ過ぎて澄んだ水

羽曳野市 吉村久仁雄

ウイルスを恐れ君にも触れぬ春

黙つたら平和がすぐに遠ざかる

妻はバデイ互いに命分かち合う

生き様を音符にのせて駅ピアノ

夢洲へ波はチャリンと金の音

結論はすぐに出さない風見鶏

堺市坂上淳司

第三次世界大戦並みコロナ

コロナ禍に奪い取られた子年春

人見ればコロナ疑う嫌な春

受話器からもコロナ飛び出しそうな春

あこがれたクルーズ旅も色褪せて

コロナ禍に和風のお辞儀見直され

奈良市 大久保眞澄

この国の前途サイコロでも振るか

ウイルス騒ぎ人払いには咳ひとつ

ひまつぶしの数独に遊ばれている

恋人未満ですあの人もこの人も

お地藏さんのモデルは赤ちゃんの笑顔

釘を打たれた藁人形を見てしまふ

大阪市 平井美智子

たんぼの半音ずれた春の唄

三月が背中を向けたままの街

青空の端に残っている正義

再生の丘に優しき風が吹く

この国の水の旨さを信じよう

大丈夫桜の花が咲いている

鳥取県 細田裕花

ひとまずは握手と笑顔から入る

ラガーマンの鎧でしょうか筋肉美

テンポ良く自分の事は語れない

日本人の矜持を抱く桜の木

深呼吸してから相続の話

コロナ菌じたばたせずに亀でいる

貝塚市 石田ひろ子

桃咲いて暗いニュースを包み込む

雨の日の裁縫箱が喋り出す

朝刊を広げ世間の仲間入り

声かけてくれる人あり散歩道

食べるのが好きで感謝の歯を磨く

出来ぬ事増えて見上げる青い空

大阪市 小野 雅美

私なんかと言いつつ育つ虚栄心
偽りの涙がやっつ武器になる

丁寧^に書こうか私への手紙

人様と比較するのをやめてみる

叔母に会う母の欠片に触れたくて

交通費浮かせてパフェを食べている

尼崎市 山田 耕治

夜の闇があれやこれやと言うてくる

満州の父の話に出る夕陽

酒のこと言わねば父は語れない

打ったのはどの子と球を返される

まだこれを使ってるのと亡妻が言う

今年またホワイトデーを忘れてる

堺市 澤井 敏治

バレンタインもろて虫歯になりました

宇宙から飛んできたのかコロナ菌

類なでる風は仏かうイルスカ

くしゃみ三つマスクの人が逃げて行く

朝採れを配って歩くうわさ好き

聴いてないふりで聞いてた亡父の咳

鳥取市 中村 金祥

久方に飾る雛にも笑みが見え

啓蟄もコロナ恐くて出て行けぬ

孫は肉爺はメザシがあれば良い

春なのにため息ばかり出てしまう

観覧車喜怒哀楽が乗っている

前向きになれば一つも愚痴は出ぬ

藤井寺市 鴨谷 瑠美子

瞬間の手際と言える妻の朝

腕が上がって優しい眉を描いている

あっち向いてほしいのこの娘も二児の親

ベビーカーがぼつんと菜の花畑

残り福と言うてわたしを抱きしめる

マスクしてます隣座っていいですか

松江市 松本 知恵子

コロナの世知るか陽気に鳴く雀

便利になって世界の近き魔の近き

疫病が再びヒトは弱き者

空気澄みコロナを払う山の寺

休校の孫と楽しや出前ピザ

休校の孫のドリルへ加勢する

西宮市 亀岡 哲子

菜の花の土手へもやもや解き放つ

手作りのプリンぶるぶる家族の和

認めよう自分の生きた道だもの

ガラス鉢に光る七色春野菜

それぞれにみな生き下手で生き上手

花一輪ポツと開いた春の雨

大阪府 米澤 俣子

一生はスイッチバック繰り返しいかなこの釘煮が消えた漁師町磨かれて個性が光るホンマモンレンゲ畑広がっていた日は臚新コロナ節目の月の気を塞ぐ

大阪市 磯島 福貴子

世界中息苦しさに包まれて核もこわいが見えぬウイルス尚恐し甘い物苦手な私饅頭屋の娘九年経っても原風景はまだ彼方久しぶり布マスクをと針を持つ

大阪市 岩崎 玲子

老いふたり年金内で知恵絞り断捨離をすとなぜだかささま風昭和をちよつと覗きたい時サザエさん百均は散歩途中のオアシスに青い空ただ見るだけでパワー湧く

大阪市 内田 志津子

人生の吃水線を立ち泳ぐ訥訥と語る生き様胸をつく青かった無知を詫びてる万灯会喋りすぎましたボロが出てきました植樹して空がぐんぐん高くなる

大阪市 宇都 満知子

こうなると懐かしいいつもの句会川柳のノート振り返れば日記止まつてる時計何度も見えてしまうありがとう言つてる時の瞳が好きだひとりがいいなふたりがいいなやじろべえ

大阪市 江島谷 勝弘

ガンコだから背中押されたことがない1から9なのに手子ずる数独いい歳になりましたけど夢半ば裏の裏読みましたけどみなハズレおかげさまままだオベなしで生きてます

大阪市 榎本 日の出

粗大ゴミ電池変えればまだ動きいくらでも美味しく入る胃腸持ち自慢した孫が結婚してくれず駅から五分のはずが戻らないいい人と言われる内は平社員

大阪市 大川 桃花

病のおかげ退屈している暇がない総理よりSNSが信じられ振り返れば尻込みばかりの道だったいざの時マスクさえ無い危機管理とびきりの笑顔最期にとつておく

大阪市 大 治 重 信

めずらしく優しい顔に身構える
水鉄砲光となつて落ちてくる
還暦後財布はいつも妻が持ち
何となく思い出すのは昭和です
八方に桜が咲いて川の音

大阪市 奥 村 五 月

新薬でコロナ倒せばノーベル賞
事故するな三途の川の渡し船
腹八分酒は人並ハシゴ酒
長寿命命と預金反比例
コロナには世界のトップ手は打てず

大阪市 笠 嶋 恵 美

さあ大変学校休み困るひと
残つてた叔母の手紙は宝物
満八十四叔母の言葉を抱きしめる
無理出来ず身内の法事欠席に
諦めたら不思議な勇氣沸いて来た

大阪市 金 川 宣 子

またやっとうっかりミスが続く老い
絵手紙の桜餅見て買いに行く
ひよつとして中止になるかゴツホ展
喜びに緊張ほぐすサクラサク
少しづつ戸惑い見せるまだらボケ

大阪市 川 端 一 歩

大切な人のためにも手を洗う
句中中止友に会えないのが淋し
震災九年孤児の行方が気にかかる
感動で泣く川柳がまだ出来ぬ
終章へ僕には誇るものがない

大阪市 近 藤 正

原発禍背負いスタートする聖火
権力と金が辺野古に沈み込む
汚染水垂れ流す術模索する
検事長疑惑コロナで闇の中
新コロナ動機不純な特措法

大阪市 坂 裕 之

もう無理と思っていたが舵取れた
雰囲気が良くなるようにハイチーズ
無理ならば頑張らなくて一休み
お花見へ行つて会議は欠席に
寄り道をせずに帰って正解だ

大阪市 高 杉 力

ままごとのパパは夕食には戻り
収納の極意を屋台から学び
立ち飲み of 空気を変えた女連れ
高層の地下で働く人もいる
おまけだと思えるような歳になり

大阪市 高杉千歩

聖火リレー始まる期待と不安平和呆け

天気予報ばかり気にして車椅子

世界選手権中止反対も出来ぬ

新型コロナ見えない恐怖新世紀

戦友を歌う老人ホームカラオケ

大阪市 田中廣子

雪椿寒さに耐えて美しい

山の中星を眺めて夢を追う

石のよな頑固な義父に似てる彼

ノムさんの話した言葉オーラある

芸からは磨き抜かれた力ある

大阪市 田中ゆみ子

たんぽぽに再び会えた河川敷

パン種を叩く何にも考えず

シャワー全開昨夜のことは皆おぼろ

幸せに見える隣の窓明かり

月曜の顔をつくってマスクして

マスクはないがお米は売っている

一週間という区切りの中で泳いでる

退院日延長戦に入ります

お幾つになられましたか並びです

おばあさんのことはおばあさんにまかせ

大阪市 寺井弘子

子育ては後の祭りと悔やんでる

わたし流終活始め進まない

一行のさびしさ匂う花便り

スカーフはパステルカラー春へ向く

両隣マスクが睨む咳ひとつ

大阪市 寺本実

凄いなと言ってつまらぬ顔をする

お互いに賞味期限は切れたあと

指切りをした手しつかり洗われる

計算のできない国はキャッシュレス

腹立ちをギョウザの皮で包み込む

大阪市 栃尾奏子

こんな時だから大事なものの光る

ふんわりと優しい春は玉子焼き

どろんこがいいよねこどもなんだもん

軒先でツバメ待つてる三輪車

臨月も猫は涼しい貌をして

小器用な私の孫は左利き

テレビだけ喋り続けて二人居る

九十路姉は泣く事さえ忘れ

年寄りも出掛ける用があるのです

一昨日は何をしたっけ肩の凝り

大阪市 原田 すみ子

珍しい旧姓兄の死で終る
喜寿の足まだ頼りたく手術する
ただ夢中怖い痛みも過ぎてから
おぼろ月春の予定が定まらぬ
春ごぼう母の思い出ちらし寿し

大阪市 平賀 国和

自肅せよならば春眠たっぷりと
貧乏神コロナと共に日本へ
鎖国では日本経済なり行かず
お祓いが要るかも知れぬ令和の世
コロナ禍の騒ぎをよそに桜咲く

大阪市 藤田 武人

カッブ麺今日はおしゃれにふきのとう
コロナの牙狙い撃ちする喉仏
タンポポが僕に微笑む散歩道
ままごとのママ役僕の家内です
バーゲンを巡るベンツの燃料費

大阪市 山本 加お里

今までが健康すぎた老いの坂
最近は隣組とも会ってない
夫の服いつも身につけ満たされる
今のうち食べたい物は食べておく
屋上に洗濯物が干してある

大阪市 横山 里子

鯉のぼり満面笑みの鬼瓦
消灯後眠れぬ夜のあれやこれ
知らぬ人ばかり四人部屋の孤独
閻魔とは握手しかけて麻酔さめ
再びの命掌にして空青く

大阪市 若本 安代

踏み出してみようか春はもうそこに
何気ない優しさいつまでも残る
ストレスが溜まる家にも春は来る
春の陽とゆつくり歩く車椅子
花の宴逢いたい人が多すぎる

堺市 奥時 雄

山笑う花粉症ではないマスク
嘆きつつマスク外して花見酒
春場所は年に一度の贅なのに
豪栄道コールとうとう絶えました
徳勝龍フロックだっといういいじゃない

堺市 柿花 和夫

電子辞書で軽い海馬を補強する
抽象画逆さに見ても抽象画
期待から悟りに変わる夫婦仲
人間の造った神は戦好き
多少とも恩を返せたのか介護

堺市源田 八千代

新型に振り回される地球規模
コーラスもコロナ対策免れず
前歯抜けマスクブームにごまかせる
外出着その都度洗い干している
お祝も自粛ムードに追い遣られ

堺市齋藤 さくら

うっかりのくしゃみにちらり顔見られ
古希過ぎてあわてる癖が直らない
残り福信じて竹を踏んでいる
たっぷりと昼寝が出来た映画館
意地を張る若さ此の頃無くなった

堺市遠山 唯教

あたたかい恵みの春が活気づく
偶然が重なり運命が決まる
六十年も寄り添う妻が杖をつく
現状を維持するのにはいる努力
断捨離を決めて孤独の免許証

堺市内藤 憲彦

足と腰様子見ながら起床する
くやしくはない努力が少し足らぬだけ
大きな声でマイナンバーを書き写す
ほったらかしで育てた子らの世話になる
まだ少し伸びしろがある夢がある

堺市矢倉 五月

児が植えたいちごへ朝夕話しかけ
浪人を決めうつすらと娘のメイク
ホカホカに食事温め独り住む
手板のように全身麻酔を言いふらす
老友の気概にわたしも出ず元氣

池田市 太田 省三

ウクレレを習う前からアロハ買う
ゴンドラと会釈を交わす十五階
共稼ぎ電子レンジがフル稼働
定期券得した気分の日
目覚ましへ生きているよと返事する

河内長野市 大島 ともこ

ハザードマップ災害時まで見ぬ油断
有難や病知らずのDNA
大根の芝居じゃ妻を騙せない
スクリーンのマドンナになる帰り道
二千万タンスの奥で出番待つ

河内長野市 梶原 弘光

物腰のやさしい人が持つ魚眼
水たまり生兵法のひとつ跳び
師の叱咤激励明暗を分ける
爪楊枝持って淑女が席を立つ
常套句わたしひとり耐えてきた

河内長野市 木見谷 孝代

コロナ禍にパワーをもらう孫の世話
淋しさが吹き飛ぶ世話の忙しき

食べてくれる人あればこそあれやこれ

ボール蹴る孫の横顔夫に似て

孫台風去ってポツンと独り飯

河内長野市 黒岩 靖博

コロナ菌旅の楽しみ奪い去る

コロナ騒ぎも春の訪れ梅一輪

果てしない新ウィルスと知恵くらべ

天で祝杯ポツでやけ酒呑み仲間

諍いも耐一杯で仲直り

河内長野市 辻村 ヒロ

体験して人の痛みがわかります

突然に老婆になった背骨です

お正月の余波で二月は冬籠り

加齢だと自信も壊す骨密度

生活が腰痛ひとつみな転ける

河内長野市 中島 一彌

三時半朝刊の音目を覚ます

命日は父好きだったモカ淹れる

酒二合本音が零れ出る目安

100歳を視野にダンベルスクワット

老いの身がいつしか選ぶ女坂

河内長野市 藤塚 克三

なりゆきに任せしつとり老いてゆく
優しさに触れて真心取り戻す

やっと出た名前に夫婦Vサイン

気がつけば歩幅が揃う古い二人

あいつとは外で出合うと縄暖簾

河内長野市 村上 直樹

テレビから今日もコロナが溢れ出す

しつけ糸ばらり百寿も時の運

沈丁花しつとり香る亡母がいる

寿司折りが切り札だった佳き昭和

録画したテープを贈る嫁ぐ朝

河内長野市 森田 旅人

少年の顔に変身卒園児

春の陽のくれるみみうち大丈夫

病窓をときどき覗く神仏

手のひらに許すと書いて見得を切る

無観客 客の力の大きさよ

河内長野市 山岡 富美子

孔明に策はなかったウィルス禍

車内みなマスク美男にマスク美女

体力と齢は闘ぎ合いながら

指図する癖が抜けない亡父の書庫

頁繰るわたしの色が褪せぬよう

河内長野市 山室光弘

見えぬ敵大恐慌が見えてきた

コロナより恐いやっかい買い占めは

青い星崩すコロナと温暖化

人込みはマスク大事な免罪符

模様替え心に春の日差しくる

岸和田市 岩佐ダン吉

表から悪びれもせず助成金

ひと通りはやいて私らしくなる

良い人だ陰では褒めてくれている

本当は支えられていたんだね

大負けの人で成り立つカジノ法

岸和田市 雪本珠子

逆風が忘れた記憶呼び戻す

青春の夢の欠片もセピア色

心の中でつぶやく事が増えてきた

悲しみを海に流して春を待つ

ありがとうの言葉に元氣もらつてる

四條畷市 吉岡修

いい返事出来ずに胸が痛みます

いらぬ筈の介護保険のチラシ見る

栄転と言われた任地ただ一人

転々とボール明暗分けてゆく

酒のないドイツニーラントにはこりた

吹田市 野下之男

土曜日は息子がふっと消えるのだ

小さい部屋独占してる息子の服

新型コロナウイルスあつかれる

はいるのにつけた電気を注意され

クーラーが大きな腹で笑つてる

高槻市 指宿千枝子

ウィルスに運針縫いの家ごもり

八十の元氣よく食べよく動く

チューリップ抱いて乗車のおじいさん

迷惑をかけてすまない八十五

あと少し残りの日々を楽しまん

高槻市 片山かずお

お誘いもタタミの席はノーと言う

一度探した場所で見つかる探し物

予定表スカスカにしたのはコロナ

出たらアカンと言われてなったコロナ鬱

春なのにコロナに蟄居させられる

高槻市 島田千鶴子

寂しい日笑い袋を持ち歩く

新しい靴で門出を引き締める

ホワイトボード今日の予定を書いておく

震災九年時が止まった町がある

見えない敵マクスで守る頼りなさ

高槻市 初代 正彦

気がかりのテレビ朝からオンのまま

籠りきりも体に毒とウォーキング

ど忘れも老いの切り札かもしれぬ

その日までしゃんとしていた母でした

鳥谷のロツテ勇姿を見たいもの

高槻市 杉本 義昭

コロナウイルス神の怒りの暗示かも

一〇〇歳を目指して竹を踏む平和

妻の愚痴ハイハイハイと聞いておく

ジーンズの破れに若さ覗かせる

厳しかった父が今では懐かしい

高槻市 富田 美義

老いてなおナースに媚びる我が亭主

現総理ほめて入選至難なり

元氣[㊦]先行し過ぎ知恵との差

ウダウダを拾わぬ知恵が安眠法

明日への夢のかたちはマイプラン

高槻市 富田 保子

溜息もガラスに映るシヨッピン

穏やかな心に触れる一行詩

いたずらに時が過ぎゆく祈るのみ

ブランドに勝る心の洒落をする

傘立てにストンと今日の愚痴捨て

高槻市 原 洋志

倅せはスローライフで噛みしめる

オクターブ下げ年金にフィットする

今日もまた昨日と同じ絵で終わる

ゴミの日を忘れただけの認知症

占いを信じて今朝の軽い靴

高槻市 松岡 篤

人間の卒業未だと閻魔様

コロナ禍は卒業式も邪魔をして

卒業に手間取ったので友多く

恋は永遠卒業なんてものは無し

川柳に卒業なんてありません

高槻市 安田 忠子

ふと止まり何処へ行くのか考える

目覚しの鳴る前きつと目が覚める

露天風呂捻った腰を忘れさせ

怠け癖今日も一日ただ過ぎる

咲き誇る桜に私笑顔咲く

豊中市 池田 純子

ひたひたと正体知れぬ敵迫る

対ウイルス耳にもお経書いておく

青い空ウイルス何処にいるのやら

雛あられほくもわたしも食べている

遊び方動画配信する時代

豊中市 上 出 修

まさに古希さあこれからが黄金期
灯がともる本音こぼれる縄のれん
最良の薬は医者の大丈夫
大言も身のほど知って丸くなる
開花せず蕾のまままで定年日

豊中市 きとう こみつ

跡継ぎのいない医院の古い壁
結婚していなければできない不倫
たこ焼にたこがない時たまにある
ムカデには必要である百の足
お産以外入院なしの良い身体

豊中市 藤 井 則 彦

あやかってみたいリンクの名コンビ
左手で書いた色紙について見惚れ
AIにも情と勤があればなあ
ジャズダンスで舞う妻まさにユリカモメ
大らかに許す気持ちがあをを生む

豊中市 松 尾 美智代

ほんやり生きて今日の二人の米を研ぐ
うぐいすの声聴きたくて梅香る
花育て私も育てられている
キラッと光る無口な夫のほめ言葉
一日のノルマ果たした汗の量

豊中市 水 野 黒 兔

笛を吹け鐘を鳴らせよ生れたぞ
落武者のようにぼろりと歯が欠ける
謹呈の葉そのまま古本屋
全身麻酔の妻の手術の秒針よ
オペ室から妻の生還雨上がる

富田林市 片 岡 智恵子

耳鳴り続く鳩時計さわやか
目出度がられてまた歳をとる誕生日
お茶の席亭主も客もマスクして
新型コロナ正しく恐れ生きるべし
山奥で見られなくても咲くさくら

富田林市 中 村 恵

ときどきは私の空を塗り変える
掌の水に力を借りている
顔ぶれが揃って賑やかな祭り
子育てに愛の言葉が欠かせない
解るまで叱る言葉を選っている

富田林市 山 野 寿 之

感涙をエンドロールのリメンパ
孫笑い妻の笑顔はリフレッシュ
金毘羅の足湯寛ぐ絆の輪
風読んで空気を読んで風見鶏
食パンに並ぶながーい列平和

寝屋川市 伊達郁夫

長生きの秘訣と悟る物忘れ
嘘ひとつ隠して雪が降り止まぬ
席譲るのにも勇気が要るのです
私より目立つ男はみな狡い
ボランティア戻り飯粒残さない

寝屋川市 富山ルイ子

古い一人半壊の家今も住み
スマホに変える一月末に変える
用事あるけど掛けることまだ出来る
妹にメール出来れば楽しいな
娘婿と娘にメール稽古台

寝屋川市 平松かすみ

ときどきは自分の為に子守唄
コロナウイルスどなたが菌を持つてるの
靴二足ほかし一足買いました
片減りが直る値打ちのインソール
愚作だが上手く解説いただいた

寝屋川市 森茜

生返事またおこられて笑われて
ピンポン「はい」をためらうインターホン
昇りつめそしてそれからが始まる
にらめっこあの子は遠くへゆきました
艶ばなしさらに緊張はぐされる

羽曳野市 安芸田泰子

サングラスかけて若葉に背を向ける
粹の中で加減乗除する暮し
着こなしでそれとは見せぬ特価品
野良猫へ追う真似すれば逃げる真似
何もかも許し許され旅に立つ

羽曳野市 磯本洋一

三度目の婚約指輪子が五人
傘寿なり時の流れに愚直なり
清貧を貫き通す教皇様
卒寿なり手摺り踊り場優しくて
一徹の努力が生んだノーベル賞

羽曳野市 宇都宮ちづる

テレワークそろそろそろ人が恋しくて
コロナ休校孫が我が家に疎開する
亡兄知らぬコロナで延びる七回忌
三階なら歩いても良い膝と息
納豆をサブリののように食べる夫

羽曳野市 徳山みつこ

人波ができるか今年の通り抜け
飲み会を袖にデートの新社員
きのうまで達者な君の身に何が
介護して学び私も老いてゆく
コロナ蔓延手をつながねば国同士

羽曳野市 藤原 大子

無駄話わたしが育ついい時間

バイオリズム昼寝の時間長くなる

コロナウイルス感染源にならぬよう

薄化粧心のくもり見せぬよに

目標は小さく立てることにした

羽曳野市 三好 専平

できないとしないの違いほやけだし

悲しむとは愛することにほかならず

幕尻の涙にもらう明日の夢

遊んでるように首相はやじとばし

色と欲尽きぬ地獄のホスピタル

東大阪市 北村 賢子

蔓延のコロナ地球の一大事

行動をがんじがらめにするコロナ

閉ざされた春にも日日にふくらむ芽

きつと収まるきつとよくなる言い聞かす

東大阪市 佐々木 満作

3・11の追悼止まらない涙

被災地の今日も健気に花は咲く

ウイルスよお前はなんと罪深い

距離おいて話すも聞くもマスク越し

選挙戦握手もハグもノータッチ

枚方市 丹後屋 肇

いよいよの覚悟を乗せる救急車

人柄へシャツポを脱いでお辞儀する

見比べてスバートかけるタイミンク

新コロナマスクの俣に花粉症

無我夢中津波の坂を駆け抜けた

枚方市 山口 弘委智

福の神七人集い白羽の矢

酒少し嗜む宴梅の花

せり上る積乱雲に見る器量

春あけほの一部始終を見渡せる

千切り絵のごとく貼り付く父の愚痴

藤井寺市 太田 扶美代

父ははのその後を知っている銀河

振り返り人生熱きものと知る

シナリオにないほど淋し昨日今日

自尊心まだ少しだけ取つてある

霧閉気に気を付けながら泣きました

ピーポーで運ばれる身の情け無さ

すぐ切りましようと主治医は事も無げ

全身麻酔そこは正しく無の世界

胆のうひとり病院へ置いてきた

酒呑めぬ体となって承らえる

松原市 森 松 まつお

休会続出川柳も忘れそう

娘とのランチも延期ウイルスめ

外出も控え一日落語聴く

面白過ぎ枝雀落語は観る落語

恋話はかなり脚色して語る

箕面市 大 浦 初 音

遠慮なくゆずられた席坐る今

泣くという字泣いた後には立ちあがる

近すぎて見えないこともあるのです

優しさは返す言葉の温かさ

辞書に教えられた字はすぐに忘れ

箕面市 酒 井 紀 華

引き返す勇気を貰う歎異抄

生きる欲新芽若葉に気を貰う

逢いたい人みな天国で待ち合せ

泣き砂の過去は華やか波の音

少しずつ変化老化に気づかない

箕面市 出 口 セツ子

子供らにバラサイトして生きてます

川柳塔も旅もコロナで中止です

バイキングより会席と老いの舌

お遍路は四月以降と言う夫

迷いつつ参加で出した旅五月

箕面市 中 山 春 代

湯たんぽは今日でおしまいお水取り

目力化粧コロナマスクの顔作る

駅までをマスクの要らぬ畦の道

歩きスマホほらタンポポが咲いてるよ

草を抜く指先にあるえこひいき

箕面市 広 島 巴 子

白い月みすゞの詩を口ずさむ

知らぬまに弥生ぼつんと雛人形

外出は控え発散長電話

辛夷咲くコロナウイルス祓うよに

みずみずしい春野菜食べりフレッシュ

八尾市 内 海 幸 生

新緑の真っ只中の葉忌や

桜咲く去年の友は何処に居る

桜咲く去年と少し違うけど

倅せがどんでん返し船の旅

もう止めやそれでも船の旅は良い

八尾市 寺 川 はじむ

生きる知恵カラスが攻める主婦の裏

喜怒哀楽越えて傘寿へ歩を運ぶ

微温湯に慣れて悪知恵こびりつく

遊び心で始めた株に苛まれ

逆走のニュースに免許縮こまる

八尾市 宮崎 シマ子

拾い猫家長の顔で膳にいる
傷癒えてのんびりハビリの時間
そうれん屋に予約次は私の番だから
施設からわずかに見える木の若葉
呑まないが酒と肴はすぐ出せる

八尾市 村上 ミツ子

早咲きの桜テレビでみています
笑えないコロナ騒動山笑う
よく食べてよく寝てコロナお断り
春場所のお客コロナ菌にとられ
客席にだあれもない大相撲

八尾市 山根 妙子

カレンダー見事にバツが増えてくる
休会が続き太公望の列
休校を悔やむ子多し頼もしさ
さくら咲く通知も何故か曇りがち
過ぎ去った日は自分史に刻み込む

神戸市 上田 和宏

コロナ知らず雀は春の燥ぎよう
手洗いで身につけてきた自衛心
コロナばかり新聞テレビにうんざり
曲折を越えて息子が継ぐという
妻の寝息聞きながら焼く朝のパン

神戸市 奥澤 洋次郎

ウイルスに沈んだ街に早い春
ポジティブな話を聞いてから寝込む
ひとの知恵捨てられているゴミ置き場
一斉休校学童保育へゆくリュック
踏み出した一歩それから咲いた花

神戸市 敏森 廣光

マイク持てばいつも昭和に戻ります
食べて飲んで恋しています生きてます
本当の優しさだった父の喝
細腕も我が子を抱くと逞しい
温暖化少女に無策教えられ

神戸市 富永 恭子

私かてお世辞が欲しい時もある
世界中のドアノックするコロナ菌
歳十も上に見られた完熟度
友人をハラハラさせる正義感
豪華船ドレス無いからやめにする

神戸市 能勢 利子

不要不急の外出止めて老母の守り
コロナ菌に試されている世界地図
プロの手を借りて笑顔になる介護
断捨離のチャンスになったコロナ菌
句会がないと元気なくなる柳友ら

神戸市 山口 光久

似た者夫婦笑って泣いてずっこけて

二人して繕いながら五十年

老々介護響き合わない時もあり

お互いの人生干渉しないでよ

笑わせて皆たのしく川柳で

神戸市 山口 美穂

背伸びして笑っているよ露の蓋

亡母さんの笑顔想いつ雛飾る

見えないが近くにコロナ来てるよう

難関突破知らせるベルも弾んでた

あれもこれも駄目を笑っているコロナ

神戸市 山崎 武彦

反抗は覚悟で叱る子の躰

プライドを捨てると見える人の情

手に職があつて安売りしない自負

やばくなると外遊なさるのは何方

お安くないなあんな形で手を組んで

明石市 梶谷 和郎

枯れぬよう脳に水差す広辞苑

老いてなお熱いハートがまだ似合う

ゲームです何度でもできるやり直し

ちくつと突く妻の記憶は風化せず

用がないなら笑顔は次に取っておく

芦屋市 竹山 千賀子

例えばの話で本音探ってる

予定表程良くこなし明日も晴

親切が細やか過ぎて疲れます

毅然とした父によく似た庭の石

庭の花四季の約束どおり咲く

尼崎市 近兼 敦子

大家族今はひっそり夫婦箸

種明かし知らないほうが楽しくて

笑い声さえもだんだん歳をとり

あとほんの少しの勇氣だせたなら

いてくれるだけで充分意味がある

尼崎市 永田 紀恵

空手形信じて武器を買う愚か

過去の女想い出す夜のひとり酒

沈黙が雄弁に勝つ場の空気

才能も磨かなければ只の人

使わなくなったら溜りだすお金

尼崎市 藤井 宏造

春が来るちゅうちよしながらやってくる

鼻歌が春の小川になれば春

冗談が言えてるうちはボケてない

結婚も癌になるのも順不同

一人旅地酒にひかれ途中下車

尼崎市 藤岡りこ

拾ったが元に返した五円玉

老いては妻に従うことを認めます

もやもやした空気流れる遺産分け

やつと退院まずい飯から抜け出せる

子のサッカーコロナ菌など蹴っ飛ばせ

尼崎市 藤田雪菜

床柱孫の落書堪らない

米寿の義姉お祝い籠に感謝状

ピカピカの元氣印の顔の艶

マニユアルどおり種を抱えて春を待つ

またひとつこだわりの店消えていく

加西市 山端なつみ

マスク不足コロナショックが来る予感

三月は中止延期の報ばかり

今日行く中止今日用延期惚けてくる

ゴホン咳白い視線が突き刺さる

休校になれば行きたくなる学校

川西市 山口不動

相続の話など出て冴返る

兩戸操るいまだ春暁暗きなり

冬枯れや流行病はやりやまいのピーク来る

癌の友見舞の礼の涸れた声

トイレ紙マスクマスクと巡礼す

三田市 足立つな子

梅の香の入試の孫に春よ来い

貸す物はない譲る物あればいい

肩こらぬ道徳心の絆なり

おはようと挨拶できて気分いい

臥す母へ駆けて帰った参観日

三田市 上田ひとみ

試されている今あなたも私も

まだ強くなれると風は言うのです

元氣出る美味しいご飯作ります

時間割り私に任せよく眠る

リーダーはただ揺るぎなく揺るぎなく

三田市 大西重男

ウイルスで×が蔓延ばっ予定表

誰か来ておしゃべりしたい外は雨

目が覚めたどっこい今日も息してる

焼香の煙の向こうに友がいた

傘寿越えついでに米寿目指したろ

三田市 尾崎一子

ホーホケキヨ思わぬ試練待つ令和

身を守る普段のマナーエチケット

震災忌九年の月日に黙祷

春行事こころふさいでいるさくら

孫の旅スマホで見せる春ゴタツ

盃に本音注げば溢れ出す

三田市 九村 義徳

性善説世間そんなに甘くない

金婚に我慢強いとルビを振る

不都合は聞こえないふり老いの知恵

若者は義理人情もゴミに出す

三田市 多田 雅尚

挨拶にハゲと握手は止めました

外出を止めて一日数百歩

呼出しの声だけ響く無観客

花粉症辛い季節も無いマスク

老人の趣味まで奪う感染症

三田市 谷口 修平

憧れのベンツに乗れる霊柩車

五十年やっと分かった車間距離

うっかりもちやつかりも居る保育園

才能と言えるだろうか子沢山

ご先祖の土地を守れば嫁が無い

三田市 野口 真桜子

散り時にプライド隠す桜花

投げキッス彼の隣の人が照れ

諭す父聞きかじったか平和論

かじられるスネに棲んでる自尊心

ランドセルいっぱい希望名札揺れ

年金がオシドリ夫婦演じさす

三田市 福田 好文

番号で呼ばれ何度も名を聞かれ

四季おりおりの異常気象は天の声

高台を選んだつけが老いてくる

言い訳は一呼吸おく処世術

三田市 堀 正和

北斎の波へと春がやってくる

咳ひとつジロリ睨まれてる車内

液体の石鹸どうも頼りない

ピカピカの靴にハッパをかけられる

時計など見ずに過ごした春一日

三田市 松本 ゆかり

いつとなく花柄の杖無二の友

あの人はケアハウスでも女王様

孫子からブーケ華やぐ喜寿の宴

貸し農園隅に水仙群れている

掃除機のごみは生きている証

三田市 村田 博

ユーモアとウフフで渡るこの浮き世

ランキング無くせばこの世天国だ

人の真似してから入る習い事

イカナゴが消えて寂しい酒の肴

迂闊にも嘔出来ない世が怖い

高砂市 松尾 柳石子

温泉に誘ってくれる娘も六十路
少子化へますます元氣喜寿傘寿

休校の子等を励ます鯉のぼり

エアコンを消せぬコロナの予防策

送迎も嬉しいデイの週4日

宝塚市 丸山 孔一

鍋料理これも料理のうちなのか

月二曲新曲持ってカラオケへ

水仙とコスモス庭で立ち話

テレビ面ここ行つたねと妻笑顔

空つ風なのに路傍に緑の芽

丹波篠山市 北澤 稠民

ウイルス禍酒の消毒効きますか

病む国も綺麗な月が出ています

やりくりの財布小銭の音が好き

ウイルスで病んでる国に燕くる

源泉を探りあててはみたものの

丹波篠山市 久保木 剛

酒好きを一手に受けたDNA

農閑期時間たっぷり句が出来ぬ

息子には煙たい親父演じてる

もうあかん糸通すにもひと苦労

日本遺産風土に似合うデカンショ節

丹波篠山市 酒井 健二

出来立ての空気を吸いに途中下車

アホアホと滑舌の良いカラス飛ぶ

枯れススキ揺れて揺らいだ影となる

権力はレッドカードを突っ走る

無駄やろか腕立て伏せを始めても

丹波篠山市 長谷川 善輔

啓蟄という季語忘るぬくい春

温い啓蟄睡眠不足の蛙出る

年毎に暦と時候がずれてくる

子の暮し親が気にする歳でなし

無為無駄に空気を吸って吐く暮し

西宮市 秋元 てる

青年は大志を老いは財布抱く

大船が安全だったのはむかし

着ぶかれて老いの重さを重ねてた

成人式虹の七色まだ足りぬ

ねーばあちゃん鏡は嘘をつかないね

西宮市 緒方 美津子

ちぎれ雲北の四島いつかえる

蝶の羽化見守る夫の目のやさし

いかなご不漁砂糖と生姜スタンバイ

休校で地産地消が崩れ出し

ウイルスに軟禁されて萎えてくる

西宮市 西口 いわゑ

奈良県 安福和夫

食卓の菜の花漬けが春にする

花屋さんの前でしばらく気をもらう

再びの人生ならば切り開く

夕焼けに故郷がある歌がある

諺どおりあつと言う間に二月尽

西宮市 福島弘子

奈良県 谷川 憲

暖冬の証チヨウチヨが早や庭に

自分でも老いを認めるへまばかり

クラス会最後と決めてひとしおに

小京都人を呼んでる雛人形

津波にも負けぬ過疎地の祭り笛

西宮市 福田正彦

奈良県 中原比呂志

昼の月地球の憂い御見通し

細くても切れない糸で支え合う

未来志向手柄話は外方向く

苦笑には存在感が滲んでる

過ちも身の処し方で明と暗

南あわじ市 萩原 狸月

奈良県 中堀 優

ゆっくりとアナログの日日よき余生

便利さに副作用あり心病む

雑壇も兜も主の居ない里

退屈を知らぬ五体の好奇心

コロナ奴が行事中止にした無聊

明るさを保ち続ける老い上手

団地内川柳の会立ち上げる

先ずは句を作ってみよう合言葉

おかしみが物憂いムード消して行く

終章はみんな柳道突き進む

古里は離れた今も目に浮かぶ

里人の暮らし見守る石地蔵

無観客で呼び出し行司声冴える

ウイルスの変異がヒト科苦しめる

千年の匠の技が生きる古寺

妖怪の網にもがいている地球

バイキンマン倒す英知を待つ世界

青空にマスクをかけた鯉のぼり

眼がものを言う戒厳令の街の角

経済もメディアもマスク息苦し

有終の美を飾るまでまだ生きる

大河とて元は小川の集まりだ

好きなのは社長ではなくあの社訓

なら町の風にあなたの声を聞く

はくの心君の心に春が来た

奈良県 長谷川 崇明

廃校の理由知らずに咲く桜
人は皆花の挨拶散歩道

まだ飛ぶと決めて翼をまた伸ばす
阿と畔があつてこの世はうまくいき
ふるさとの原画は永久に額の中

奈良県 渡 辺 富 子

雲百態ああ父がいる母がいる
行く先には老いの樹海が待つ気配
想い出を藤色に染め母を恋う
ラストステージぬくぬくの人そばにいる
背負うものすつきり捨てるつもりだが

奈良市 宇 賀 史 郎

本心を隠し厳しく父の愛
再会のひれ酒の酔いふぐの味
雨の日の裸足登校想う雨
カヌー漕ぐ淵の静けさ鳥の声
あの義母に尽くす背を見て育った娘

奈良市 加 藤 江 里 子

温度差が医療現場と政治家に
コロナ菌家族の絆試される
鈍感になり生き辛さ消えてゆく
雑音をしばし遠ざけピアノ弾く
誕生日さらに頑固になる私

奈良市 高 橋 敬 子

豪華客船でごわい菌も乗せてくる
受験生試験練倍加のコロナの禍
検査の早さつい隣国と比べてる

値下げの肉たらふく食べて憂さ晴らし
梅花散りゆくいつになったら日本晴れ

奈良市 辻 内 げんえい

感染が恐く散歩も裏通り
高齢者感染避けて家で呑む
世界一の日本品質揺らいでる
孫みんな短所それぞれ俺の筋
あどけなさ抜ける頃には知らん顔

奈良市 山 本 昌 代

持て余す誰も尋ねて来ない今日
ひとり言テレビに意見しています
ご満悦今日もきっちり晴れている
ご近所の赤児と和む陽の温み
回覧板侘しくなるなあお引越し

奈良市 米 田 恭 昌

五年日記三年日記になる気弱
付度しつつ探りあつてる飲み屋
逃げ得のグリーンたつぷり吸った甘い汁
大金星座布団舞わぬなにわ場所
ウイルスも寄せつけぬボク引きこもり

生駒市 飛 永 ぶりこ

やわらかい体操今日のスタートに

コロナ菌自粛自粛で軽い鬱

お手玉をひいーふうーみいーと春の陽に

地道にと魚の澄んだ目が諭す

さまよえる私に出合う絵画展

香芝市 大 内 朝 子

終章をコロナウイルス脅かす

ふる里の春へ少女の頃忍ぶ

たんぼが閉じたよ雨になりそうだ

やさしさに触れてここに開く華

目覚しは小鳥の声のラブコール

香芝市 山 下 純 子

古希迎えこんなものとまだ余裕

シュレッターにかけてしまおう過去の恋

腕がなる息子帰省の晩ごはん

寄りそってくれる人いて羽ばたける

七回忌母の想いをやっと思

桜井市 安 土 理 恵

改札を出てもだあれも居やしない

括弧の中うわさ話の意味ありげ

誰が逝ったか白木蓮ひらく

泣かせてよ青いグラスとスロージャズ

デキシード派手に送ってほしいって

和歌山市 上 田 紀 子

守るものあって男の顔締まる

お陽様の温もり欲しいつくしの子

姐に今日のワルツを刻んでる

駆け引きも出来ず計算にも弱い

男同士悪友と呼ぶいい仲間

和歌山市 喜 田 准 一

列島がコロナ地震に脅される

致死率の高さが怖い高齢者

人生一〇〇年ここからが正念場

阪神が勝って解説止まらない

いい女言葉仕事草に艶を出す

和歌山市 坂 部 紀 久 子

日々老いてある日がたとえ老いがくる

ひなあられポリポリ午後のおあま福

走り寄り抱き合って今生きている

もう不用と思えど今だ捨てられず

チャンネルを変えてもコロナばかり出る

和歌山市 土 屋 起 世 子

春なのにマスク売り場に列でできる

することが多くて若さとり戻す

褒める人無くて賄い重労働

踏ん張って健康寿命延ばしてる

ルビつけてやっと思孫の名を覚え

和歌山市 福井 菜摘

掴みとれない陽炎の中の夢

いつからか飾りボタンになつていた

疑えば踏み出す一歩重くなる

どうせなら明るく描こう四コマ目

明日使う面をやさしく拭いておく

和歌山市 古久保 和子

春だから和菓子好きなのと逢う

どこに行こだれと行こうか春うらら

二十四時間使い切る日と切れない日

寝返りは昨日と今日の境目で

指先が乾いて明日が捲れない

和歌山市 堀 富美子

いくつかの壁越えて来た幸せ度

陰湿な大人のいじめ寒くする

三人の曾孫見せたい夫の忌に

老舗から今年も届くパースデー

籠もらせて食意地だけが付いて来る

岩出市 藤原 ほのか

ゆつくりと歩いて景色焼き付ける

ぴつたりと息を合わせて乗り切ろう

色合いをぴつたり合わせ若返る

ちぐはぐな色を繋いで蘇る

個性だと思えることで頷ける

海南市 小谷 小雪

ウィルスのずるさ誰にも入り込む

親鳥の羽の温さか飛び出せぬ

散歩道立ち止まらせたのは椿

遠方の友のたよりに小休止

白煙が上がるほんやりしてられぬ

紀の川市 山東 日出男

満腹のライオンごろ寝ばかりする

三脚を据えてじっくり春を撮る

表向き清いウグイス嬢の声

充滿中花粉ウィルスエストトラ

三角がやはり食べよい握り飯

橋本市 石田 隆彦

食い盛りの孫と寿司屋に行く覚悟

父母には真面目に生きて恩返す

生きている限り一日無駄にせず

子の巣立ち送って妻と無言の夜

決意した男の視線動かない

京都市 清水 英旺

ポリープを切除お腹が軽くなる

京都からまた書店消え文化消ゆ

臘梅がお待とうさん花つける

カミさんがお茶にしましよと冬日向

パースデー何がめでたい妻はやく

京都市 藤井文代

相槌を打つから噂咲き誇る
ラジオ体操お遊戯になる喜寿の今
無理通せるように涙が出てくれた
深い哀しみ心の奥で出る涙
まあいいか自分に甘く今日の締め

長岡京市 山田葉子

ランクアップのランチで挑むひきこもり
春なのにいつまで続くこもる日日
丁寧掃除済ませて春ごもり
第三幕孫が結婚するという
蓄えに合わせてほしい寿命です

八幡市 今井万紗子

老いの春不整脈ですほどほどに
昔昔手と手が振れただけのこと
生きる為やっぱりでかい方選ぶ
適当に選んでばいと捨てられた
勇気があればきつとあの人選んでた

島根県 伊藤寿美

昭和一桁林住期は疾うに越え
鳥帰る届けてほしい文がある
柏手も独りだったねお元日
白寿を生きた祖母の道のり歩めとや
長生きのDNAが怖くなる

松江市 榎瀬みちを

布団の左右妻と換えたら寝付かれぬ
図書館は凄い無料の貸本屋
酒と意思残念ながら酒の勝ち
偉そうに孫に説教我が息子
あきらめの悪い女とルビー婚

松江市 藤井寿代

花びらが散るまで探す私色
リセットも出来なくなつた前頭葉
黄昏れて思い出だけじゃ暮らせない
マドンナもヒアルロン酸打つらしい
人間をモニタリングしてるトンビ

出雲市 伊藤玲峰

雪止んで春の兆しの風馨る
休校にせず見守る過疎のいい空気
流行病^{はやりかぜ}精力つけて寄せつけぬ
春場所も観客なしじゃ様ならぬ
美味しいもの食べてテレビで世界旅

出雲市 岸桂子

妥協して気持は未だ揺れている
ストレスがゆっくり解けていく夜半
笑い足りない話し足りない友が逝く
雲のない空は平凡過ぎないか
逆らつた分だけ恋し亡母の胸

雲南市 菅 田 かつ子

初恋にひよっこり出会う道の駅
嫁さんに伝えておきたい隠し味
気ままです早寝早起きして昼寝
夢に見る亡夫が背なをそつと押す
ティータイム亡夫とおしゃべりしてひとり

岡山県 大 杉 敏 夫

片言の曾孫が抱ける至福かな
越せなんだ稜線眺め老い給う
真実は秘めて齢の下り坂
瀬戸際になって慌てる市民です
トップにはなれぬ男で居て平和

岡山県 高 岡 茂 子

メジロのつがい梅の小枝で隠れん坊
孫受験胸モヤモヤの二週間
コタツで登る百名山とエベレスト
テレビを消して「みずゞの世界」入りこむ
ほめ上手その気にさせる友が居る

岡山県 田 中 恵

思い切り吐いて帰れと山は言う
輝いてみた日もあつた登山靴
世の乱れ黄門さまを呼んで来る
金運は薄いが友に恵まれる
悩むより開き直っているカボチャ

岡山県 藤 澤 照 代

探梅のほほ刺す風も快い
菜の花の海を泳いでいる日傘
満ち足りて菜花茹でれば陽の匂い
許し合いながら絆を深くする
跋扈するデマにもシュツと消毒を

岡山県 山 縣 のぶ子

見付ければなんだかんだと大笑い
川柳と四つに組んでいる土俵
地球上陽はあふれてる布団干す
どう生きる運命線はしわくちやだ
寒椿やさしい人に包まれる

岡山市 大 石 洋 子

咳すれば遠巻きになる白マスク
悲しみをぶらさげたまま三月十一日
色白の雛を飾りて命惜し
微笑まれ始末ができぬ御雛様
ターニングポイント知らず桜咲く

岡山市 工 藤 千代子

月からのメールだろうか流れ星
菜の花も自慢話も今盛り
鮎一コもらい拍手をさせられる
わたくしを齧るときつとすっぱいぞ
無人の部屋でケータイが吠えている

岡山市 丹下 凱夫

ここですよ乙女椿がここですよ

おおいぬふぐり空を見上げているんだね

歳時記をめくると春があふれ出す

ぺんぺん草ちよつとさみしい友だちさ

お茶をしてゆつくり時を考える

岡山市 永見 心咲

閉じられた夜の扉を抱いたまま

いつからか首輪がグイと食い込んで

揺さ振られ続けて自由律になる

笑おうと決めた 泉が枯れるまで

棘なしのサボテンなんて薔薇啜う

岡山市 前田 恵美子

自分流気ままに生きた粹もある

お金とはほどほどがよし春の風

菜の花や食べても見ても春気分

路の臺口の中まで春運ぶ

今日の日を大事に生きて明日を待つ

笠岡市 藤井 智史

最愛の人と今年は暖冬だ

永遠の愛を育むカプトガニ

壮大な愛に寝返り仕放題

わたくしをバージョニアアップする既婚

平日はライオン 休日にはコアラ

広島市 岸本 清

私にもきつと有るはず良いところ

すぐく楽万年床にしてごらん

惚けるなと鏡の僕に言いきかす

語ろうよみんなスマホを置きなさい

中国が病めば日本に直ぐ飛び火

竹原市 石原 淑子

九年を奇蹟の一本松凜と

悲喜こもごも溶かして昇華するハート

こぼれ生え花壇の花を押し退けて

お味見の係可愛い手がのびる

天網恢恢防犯カメラがする告訴

竹原市 岩本 笑子

哀しみをたくさん畳む卒業式

飼猫の思い出ばかりテレビ切る

薬まだ飲まねばならぬ春である

この足も手も病いの中にある

リハビリの手です足です薬飲む

三原市 鴨田 昭紀

幸せを零さぬように掬い取る

ゴタゴタを招くわたしの軽い口

ささやかな抵抗一票を入れる

昭和から令和へ脳を切り替える

小説を読んで睡眠薬にする

岩国市 上村 夢香

丸九年避難者ゼロは程遠い
青葉城恋唄ひとり聴いている
田舎煮の母の味にはまだまだで
いい人ね恋人未満の旅続く
突然のいちご農家に鶴瓶さん

宇部市 平田 実男

昭和一桁がだんだん稀少価値
カミソリと言われた人が呆け始め
建前の視察背広でヘルメット
七人の敵がサブリの一つかも
川柳はまだ白帯と言う米寿

下松市 有海 静枝

待っているイライラ消そう句を練ろう
揺るがない背骨が発する諸問題
今は別人格産んだのは私
脱力が出来ず尖ってきた眼
優しさのオブラートにも在る欺瞞

防府市 坂本 加代

食べっぷりいいねといつも褒められる
努力する姿は見せぬ鶴になる
行く道を浄化しているいい笑顔
デジカメに今の私を閉じ込める
誉め言葉すなおに受けて伸びてゆく

鳥取県 門村 幸彦

雪景色みんな包んでみな眩し
雀の群舞見上げて温い散歩道
足運ぶ気分いい日の映画館
おしゃべりに花を咲かせて鬱払う
しみじみと桜待つのも歳のせい

鳥取県 斉尾 くにこ

不安しか感じない雪のない冬
はぐらかすゆらす空気は読まぬもの
早春の野を駆け回る風の足音
それとなく重なっていく他人事
散歩より強めで競歩より弱め

鳥取県 竹信 照彦

テレビ見るたびにコロナが攻めて来る
無観客試合負けるな加勢する
煩惱も即菩提なり迷いなし
研いだ歯で昨夜の悪夢噛み砕く
歯切れ良い言葉が欲しい散る桜

鳥取県 山下 節子

頼もしく見えるスーツの息子です
バレンタイン仏様にもチョコレート
瀬戸際を助けてくれたのは夫
あー無念拉致の再会待たず逝く
窓の灯じゃわからぬ人の暮しむき

鳥取市 池澤大鯨

胸に目を集めて誇り女性です
天位を貰い束の間胸がすく思
胸突き八丁他の道問うて笑われる
らーめんを汁まで啜り妻に叱られ
伸びないうちにラーメン汁もたいらげる

鳥取市 奥田由美

ご近所が離脱を誘う過疎暮らし
価値観が違う二人にきた別離
優しさのかたまりだけど子はニート
お彼岸の読経に背すじ伸ばされる
供えると遺影が笑う木の芽和え

鳥取市 加藤茶人

上を向くだから未来が見えて来る
野次馬で見てる不倫の視聴率
なまじつか喋っていらぬ敵が出来
異次元の景色鍵穴から覗く
鬼よりも怖い無言の妻は夜叉

鳥取市 岸本宏章

桜待つ恋しい人を待つように
絵本一冊暗記している三歳児
百人が百の味出すカレー鍋
通院へ川柳塔を持って行く
アウトセーフカメラは有無を言わせない

鳥取市 岸本孝子

おひなさま孫はお嫁に行きました
孫の巣立ち空けてもらった隠居部屋
行き届くもてなし受けてつい長居
にこやかな笑顔持ち寄る趣味の会
会うたびにとろける笑顔みせる友

鳥取市 倉益一瑤

あれ以来逆立ちが出来なくなつた
ひと言が水流変える事もある
ひと呼吸おこう答が見つからぬ
恋とは違うこの切なさは何だろう
振り向くな過去は未来の足枷だ

鳥取市 田賀八千代

とりあえずお金送っておめでとう
春うらら恋でもせよと雲雀鳴く
うれしくて踵弾んで止まらない
人間とコロナと知恵の競い合い
姉ちゃんの言うことだから聞けと喝

鳥取市 田中天翔

名取式典コロナウイルス押して行く
またとない付け下げまとうチャンス来る
師匠よりちよつと地味にと貸衣裳
丹田を引つ込めハイといい返事
旬景の名前いただき辞書を引く

鳥取市 棚田 大

現代っ子スマホにはまり俺を無視
得意技雪道づくりだができぬ

瀬戸際に立たされたのに知らん顔
瀬戸際の体験重ね強くなり
幼児もコロナウイルス注視する

鳥取市 谷口 回春子

古い語る節博立った指五本

美人の湯余裕を持ってやり過ごす

紅葉の手夫婦喧嘩を裁きます

掘炬燵横着箱という昭和

北極星よシベリアの亡父宜しくね

鳥取市 永原 昌 鼓

月下美人咲いてひと夜の命閉じ

冷たい手包んでくれる主もなく

隣国と揉めて友情途切れ出す

ウイルスが飛んでマスクが売り切れる

目に見えぬウイルス相手ギブアップ

鳥取市 夏目 一 粹

久しぶり会った孫だが一気呑み

しみじみと酔って歌って夜が更ける

ふところを夢の欠片が出たがるの

いたずらな雪が自信をくれました

老人へ無情な雪が降り積もる

鳥取市 副井 ゆたか

止め時に迷う免許と年賀状

コロナ禍に出るか否かを決めるドア

句会終え一人静かに飲む湯割り

AIに誘導されて向かう黄泉

ビールから芋の湯割りへ手順踏む

鳥取市 福西 茶子

悲しいと涙が出ますヒト科です

ダメなこと駄目だと覚るのもヒト科

コンビニが二分で行ける場所に来た

コンビニの明かり防犯灯になる

いつ寝ても何時目覚めても春の風

鳥取市 前田 楓 花

採れたてのキャベツパリンと春を噛む

答弁は紙を読むだけがっかりだ

観客の無いスタンドにホームラン

ジャンケンに負けた夫が皿洗い

メンタルの弱さ時々顔を出す

鳥取市 山下 凱 柳

挨拶の話聞き飽きコロナ菌

咳にクシャミするも周りに気を使う

宮仕え終えて我が世に春が来る

やる気満々見せてやるぞと太い文字

請われたら一節舞える人目指す

鳥取市 吉田 孔美子

まあ元氣時の刻みに逆らわず
探してた父の時計が焚火から
食材の目利き鑑定団見たい
鑑定団を今8Kで見たい
おはよう二十回園児たち通過

鳥取市 吉田 弘子

さみしさはふと目が覚める午前二時
良き事は仏の加護と思いたし
睡眠時間今日の機嫌を支配する
冬枯れを知らぬ雑草抜いている
永田町削る予算はたんとある

倉吉市 猪川 由美子

新型コロナ未曾有な事でパニックだ
緊急事態五輪も中止危ぶまれ
欲いろいろ取捨選択で上手く生き
臓器の声を聴いて調整生活す
イヤな事は引きずらず早よ切り換える

倉吉市 岡崎 美知江

財宝だと漫画の山を自慢する
小ぢやな夢抱いて大きな空へ飛ぶ
病い抱き生きてみせると決めた冬
一〇〇歳の天下一品笑い皺
耐えているその静けさが答です

倉吉市 田中 紀美恵

孫巢立ち振り向きもせず都会へと
晴れ舞台昔昔を振り返る
あれこれと悩み止まらぬ老いの坂
太陽を抱き青空と話そうか
幸せの虹を抱き生き米寿まで

倉吉市 山中 康子

還暦に見えぬ陛下の若いこと
上皇后どうしてなさる日々おもう
メニエルで唸った過去がうそのよう
老いの知恵試すプレバト見えます
大事な眼完治するまで六ヶ月

米子市 池田 美穂

楽園へ向かった船は死出の旅
映画館一度の咳でまわり空く
外出を自粛し酒量増えた夫
半額に慣れ二割ではもの足りぬ
福島にバベルの塔は許されぬ

米子市 伊塚 美枝子

気まぐれな神様春の雪降らす
存在感示す水仙庭で呼ぶ
あわてんぼうの開花桜に雪積もる
風に舞う花びら遊ぶ子のように
ウイルスに花見の宴奪われた

米子市 後藤 宏之

のんびり屋だから長生きできるはず
内緒だよ一言言えばよく洩れる
きらわれているのがなんとなく解る
てなずけた孫にきらわれたら終り
アドリブをたまには入れて変化球

米子市 後藤 美恵子

弾む声コロナに消える通学路
門を開け去る人帰り易くする
電話口相手次第でトーン変え
交通過疎村が冷めたくなつてゆく
脳活と雀卓囲む老姉妹

米子市 竹村 紀の治

肩凝りの湿布貼るたび肩が凝る
診察順何度も訊いて嫌われる
買い溜めはもつたいたいという余命
爆笑をすれば血圧苦笑い
死神と甘い約束してしまふ

米子市 中原 章子

追い風が吹いてやる気が湧いてくる
試すような腕はないけど応募する
迷わずに選んだ道が根っこ張る
過ぎ去ったあなたを偲ぶ動画見る
明日よりも今日を生き抜く懸念に

米子市 成田 雨奇

ふくらんだ胸に昔はときめいた
モラルって日本の古い心です
あちこちに残した恥は消えるだろう
目も鼻も頼らず賞味期限見る
ハンカチを落とす手口はもう古い

米子市 野川 宣子

残すもの無くて身軽に飛び立てる
爺婆が取り残されたキャッシュレス
結び目を緩め互いに好きなこと
仲人口素直に乗ってゴールイン
先生にこんこんと説く人の道

米子市 吉田 陽子

一勢にマスク疑い深くなる
祈るしかない現状は皆おなじ
花が咲き鳥啼き句碑を喜ばす
紙雛を飾り余生を軽く生き
切り変えて行く振り捨てて行く女坂

東かがわ市 川崎 ひかり

国訛り母待つ駅が近くなる
巣立つ子に夢は無限の春の駅
各駅停車自分見つめる旅に出る
風だけがふわりと乗った無人駅
栄枯盛衰喜怒哀楽を知る駅舎

松山市 栗田忠士

月明りピアノソナタに濡れている
踏み切りの向こうに老いた母がいる
お静かにただいま開化準備中
冬眠もせずにせつせと働いた
ためらいはもう捨てました歩きます

松山市 古手川 光

予算使い切る工事忙しい年度末
歳重ね時の流れが加速する
まだ其所へ急いで行きたくありません
ウイルスが画面紙面を独り占め
ウイルスに掻き回されている地球

松山市 宮尾みのり

万華鏡だった少女の頃の夢
兄ちゃんの手作りだった万華鏡
思い出がいつばいあって忘れ下手
胸さわぎまだ埋み火があるらしい
自尊心踊る阿呆になりきれぬ

松山市 柳田かおる

タイムスリップみんな貧乏だったころ
マスクして私マスクの列にいる
星占いすてきな出会いあるらしい
姿無き敵ほど怖いものはない
哀しみは心の紐が硬くなる

西予市 黒田茂代

枯れ葉ほどの軽さでつないでる命
夫の命つなぐ一椀の重湯
手洗いに一人で行けるまで癒える
少しづつ食欲春の来る予感
夫病んであつという間の一ヶ月

西予市 西田美恵子

誰にでも優しすぎるのあなたつて
水中で溶けず火中では燃えず
あの時の重い一步を忘れない
熱湯で戻すか水で戻そうか
仲直り妻が磨いた今朝の靴

熊本県 岩切康子

疼痛が増して血圧上がりだす
脚のしびれ初回のリハで消えました
杖つけば同じ距離の歩数減る
あの庭に亡母の面影桃の花
買溜めを勧める夫に慌てない

北九州市 小松紀子

北九州海の夜景がきれいです
老いを生きるボランティアの軽い足
私の杖は川柳生きる甲斐
年金の枠で身の丈不満なし
バランスが悪くて困る歩が緩む

唐津市 坂本蜂朗

この春も枯れ木に花の咲く気配
年長者の席あてがわれ後がない

六十年振りの初恋息を飲む

退院をして家の飯囃み締める

妻の知恵当然みたいに借りている

唐津市 山口高明

閣僚のメモ読むだけのご答弁

一遍も怒った事の無いあなた

罰せねば成らぬお方は逃げ上手

医者だつて感染恐い診たくない

恩赦だと寒い世間に出は出たが

熊本市 杉野羅天

コロナコロナ世に暗雲の立ち込めて

グロリーバル感染症もまた共に

日一日パンデミックの黒い霧

グロリーバル化病も付いて来るクシャミ

コロナ風邪疑心暗鬼の人の世か

札幌市 小沢淳

雪とけて春やって来ぬウイルスよ

勝ち負けに必ず残る副作用

生きるとや友と銚子の五六本

丸ビルで勤めていたと祖父自慢

嘘つけず世辞が仲仲出て来ない

塩竈市 木田比呂朗

ほどほどの制御ラインを越すお酒

血糖値はしゃぐ余生を黙らせる

おトイレで思い切りする咳くしゃみ

だとしてもテレビに感謝大相撲

老人を標的にするウイルス禍

男鹿市 伊藤のぶよし

大吉の嘘つき一目惚れおわる

作法は作法お茶一服があればいい

土壇場のシナリオやつと光りだす

茜雲きょうの微笑み母の貌

蟠り捨てた枝から春になる

弘前市 稲見則彦

自主返納したのはいいが愚痴る脚

危機管理我が家はどうか老い二人

画像見る主治医の顔を読んでいる

平均点ぎりぎり維持し今にいる

頼まれて吊った棚です。だがしかし

弘前市 今愁女

コロナウイルス魔の手をのばしける恐さ

弥生三日雛の軸にも掌を合わす

ドラマは視ないテレビはニュースだけを視る

独り居は出歩くことも趣味とする

太陽のもと土弄りもいいものよ

東京都 川本真理子

思い出のそこにしゃがんでいる私
春の嵐戦うものが多すぎる

じつと見ているウイルスの顔写真

自分の事を願ったことのない神社

練習のし直しハローグッドバイ

八王子市 川名洋子

団欒を食べてスマホの一人勝ち

許したいのにノーと言う鬼が住む

お隣の窓が開いてホッとする

散歩する園児にふわり春の風

平熱にホッとすると朝練り返す

横浜市 川島良子

菓ごもりの中で大人の遊び方

誤解から誤解連鎖が止まらない

善人のころスマホが手に戻る

決心が揺るがぬように咲くサクラ

大好きな人とリセットする時間

横浜市 菊地政勝

世間体気にせず桜咲いている

憧れの気持ち失せた船の旅

生きている消印にする日記帳

薬効は一番と知る卵酒

偶然の出会いへ少し背伸びする

さいたま市 星野育子

ウイルスが経済も人も蝕む

助言者に断りひとり生きんとす

ライバルの背が大きくも小さくも

鼻歌で家事片付けて趣味の会

いい湯だなカビバラの親子ほっこり

上尾市 中村伸子

人混みで少し身構えている春

鍵はどうする独り暮しの救急車

クリスマスローズここよと咲いている

決心をして病院に行く時代

誤字誤用やはり気付かぬふりをする

朝霞市 前田洋子

父は居士母も大姉になり給う

四元号生き抜き母は父の元

女優のようなほめられ遺影微笑んだ

四角い炬達は丸いはなしが好き

熱の孫新型コロナよぎる宵

越谷市 久保田千代

再手術への意欲コロナが萎えさせる

名医の手にかかれる幸せ再手術

再びの炎症じて時を待つ

どの花も見事に咲いている命

素適な街だここに根を張る第二章

千葉市 海老池 洋

寒鴉翼休める枝もなし
小鳥らの集まり憩う森も消え
雑音の中で育った人間味
人生の夕焼けこやけ木守柿
ゆつくりと墨をすつてる遺言書

可児市 板山 まみ子

桜咲く予想ちらほらひな祭り
暖房がいらなくなると庭の草
最期まで食べて笑ってすごしたい
捨てられずまた着はじめると古い服
コロナ禍におしゃべりの場はみな中止

愛知県 早川 遡行

出不精の妻を連れだす花だより
運が良ければ買えていたのにマスク
もう妻に無理はさせない台所
朝食の用意整い妻を呼び
昨年まで妻がしていた草筆り

犬山市 金子 美千代

やる事がいっぱい有り難いことに
オブラートに包めば分かってもらえない
路味噌が旨い田舎はいいもんだ
干からびてしまいうべんとみな中止
そう言えばヒアリはその後どうなった

犬山市 関本 かつ子

楽しげにすると楽しさやっつて来る
体力と気力が合わぬ坂の道
春の歌うたうと春になる私
やり切った顔で出て来る受験生
夫には見せることない夫の句

鈴鹿市 小河 柳女

田舎家はどこもかしこも無口である
夕焼けに縄飛びの輪が輝いた
自己中の風ばかり吹く日本だな
机の上の本がほがかに遊んでいる
逃亡もできぬ一本の木の哀

富山市 島 ひかる

突然の休校命令泣く弱者
粛粛と進む声援ない国技
人前で咳かみ殺し噛み殺す
青い地球ウイルスなどに負けられぬ
新しい時代を餌にする詐欺師

(海老池洋さん、伊藤のぶよしさんは64頁にあります)

小島蘭幸川柳句集

『再 会Ⅱ』 領価 千円(送料共)

ご希望の方は川柳塔事務局まで

TEL 06-6779-3490

川柳塔の

川柳讃歌

㊦

上方芸能評論家 木津川 計

お兄ちゃん私妹たよらんで

伊 塚 美枝子

フーテンの寅さんは腹違いの妹・さくらを頼りにしている。風の吹くままの旅鳥にさくらはよく意見をする。「今日だつて工場に行つて、工具さんが真面目に働いているのをひやかしたりしたんでしょ」。その通りで、工場に入つていった寅さんは、「日本の労働者諸君、君たちは貧しいなあ」と言い、工具たちを苦笑いさせる。意見しながらもさくらは寅さんをかばい、案じる。美枝子さん、兄はしっかりした妹を頼るのです。どうかよろしく。

爺さんは風 婆さんは樹になつた

居 谷 真理子

いくつになつても男はフーテンだから、爺さんになつても風まかせで居場所が定まらない。しかし、女は腰を据え、どつしりと動かない。映画「幸福の黄色いハンカチ」のラストシーンを思い出そう。彼女は刑務所を出所

する男をじつと待つ。約束した黄色いハンカチをいっばい列ね、風にはためかせ続けて待つ。出所して帰る、もの言わぬ高倉健の不安。待つてくれているかどうか…。真理子さん、男はそんな倍賞千恵子に憧れているのです。

我が娘父さんこえて爺と呼ぶ

大 西 重 男

孫ができる息子も娘も両親を爺、婆と呼ぶ。私もそうで「お爺ちゃん」「お婆ちゃん」になつた。娘に初めて「お爺ちゃん」と言われたとき、何いっつ!?、と思つた。「お婆ちゃん」になつた妻はもつとシヨックで頭をかかえた。年格好に応じて呼び方は変わる。ネオン街のキャッチボーイは私を「兄ちゃん、兄ちゃん」と呼んだのに、やがて「社長」になり「会長へと出世させてくれた。今は声もかからない。重男さん、好々爺になつてください。

楚々と咲く水仙 辛苦の跡もなし

内 海 幸 生

「花の命は短くて苦しきことのみ多かりき」と林美美子は嘆いた。品のある黄色の水仙も辛苦を越えて楚々と咲いた。朝日歌壇（20年3月29日）でこう詠んだ歌人がいた。「辛くとも」「ふんばり」になる励ましは病床中だという。幸生さん、今号にさらに

詠まれた「裸木の耐えるが如く生きよ君」は自身への励ましの句でもあったのですね。そうです。もう「ふんばり」で辛がやっつてきます。

歯と脚を大事にしたら百歳に

能 勢 利 子

人生五十年の時代に百年生きた人もいた。梅原竜三郎は九十八歳で大往生した。「葬式無用／弔問供物固辞する事／生者は死者の為に煩わさるべからず」と遺書にしたためた。「大漢和辞典」を完成させた諸橋轍次は「仙人の境に入った」と九十九歳で逝つた。野上弥生子は丁度百歳で他界したが、細く澄んで明晰な声を失わなかつた。利子さん、人生百年が目標になりました。歯と脚を大事にしたら叶うのです。どうかお大事にされて下さい。

欲呆けの大人へグレタちゃんの囁

丹 後 屋 肇

私が続けている「一人語り劇場」16作目は「かぐや姫」である。彼女は月よりの美しい使者であつた。いったい何を伝えにきたのかを説明するのがポイントだ。実に、グレタちゃんこそかぐや姫の化身であつた、が私の解釈である。地球温暖化がもたらす人類の終末を食い止めるために「気候ストライキ」を世界に広げたグレタちゃんだ。肇さん、どこかのホールで私の「かぐや姫」をお聴きください。

橘高薫風句抄

〔橘高薫風川柳句集〕平成十三年発刊

生きざまも縞馬のしま虎の縞

万愚節万民を愚に消費税

三十六塚さくらが咲いた桜塚

幻花一閃自転車は赤だったな

桃菖蒲めでたく育つ姉弟

証明書お辞儀の数をわびしがる

八月母の十七回忌

眼を閉じて見え眼を開けて見えぬ母

考える人なかなかの痩せ我慢

なんとなく河馬の母子もこどもの日

阿か吽か混濁の世に処する身は

協力はしますが彼の処世術

水濁り火も汚れ行く世紀末

嫁姑カーネーションは日の蔭

羊羹を切るにもふたりぼっちなり

古稀も生きてか孫の気韻にさえ劣り

無口なる人でありしが今日の旅

うれしがることも老人めいてきた

卒寿翁淡淡として淡ならず

あじさいのふっくらさんとてんと虫

三歳の浴衣も処女ほうずき市

隠れ家は日暮里鶯谷あたり

誕生日マシマロ二つ掌に至福

見返りにたましいの秋しのび寄り

旅に出て迷いは深くなるばかり

稲妻に竖穴住居跡遺跡

母十七回忌

仏恋数珠持つことの多い年

親不孝者も七十一になり

秋ふたりまるで果物静物画

世紀末絵巻暗澹ダイアナ妃

杯を持つより志野が手に馴染む

昼の闇 青蓮院も知恩院も

捕らないでくださいと言う螢狩り

戎橋恋も朝飯前のように

自選集

小島 蘭 幸

板尾 岳 人

食材は持ち寄り母の一周忌
一周忌母の笑顔が降りてくる
母の遺品の刺し子布巾はまだ未完
刺し子布巾妻が挑戦すると言う
鶯が鳴いた墓参を喜んだ

落着きません

八木 千 代

川 上 大 輪

正体不明 伏兵さえも見えはせぬ
地球儀も落着けなくて揺れ止まぬ
門番として毒消しを置く出入り口
浮ついで運び人にはならぬよう
負けるものかよ唯手を洗う眼を洗う

山 本 希 久 子

北 野 哲 男

八十路半ばさてこれからをどう生きる
これからが八十路パワーの見せどころ
春を探して白いブラウス蝶になる
暗い世を照らして桜バツと咲く
ウィルス正しく怖れひきこもる

戴いた枝に心が咲いている
抽斗に父から母へラブレター
鯛が腐るのは頭からですへえ
人生に儂いものになる命
麒麟来る首ながくして待っている
息継ぎが下手でピリオドばかり打つ
脳の皺伸ばして記憶整理する
石ひとつ積むと聞こえる父の声
書いて消し書いて消して現在地
体重の半分程は税である
米寿過ぎ時間の足りぬ果報者
煩惱も歓喜も同じ影法師
金の要るアイディアばかり浮いて来る
過去形で幸せ語るのは余生
ハウツーに浸ると余生コクがない

木本朱夏

金魚にも春が来ている水の音
春の夜の不意に鳴りだすオルゴール
コロナ禍の街へ手作りマスクして
シナリオは悪魔が書いたのかコロナ
ぐらついた奥歯ほろりと抜けて 春

新家完司

くつしたの匂いも春の気配なり
ポイントカードこそ探す負け戦
タコヤキの丸み温みをお手本に
行きたいね大槌駅の屋台村
才能はないが粘着力はある

高瀬霜石

鯉のぼり個人情報吹き流す
出すよりも来るのが多い請求書
シルバーと名前が付けばよくの席
会費だけ払い抜け出す祝賀会
しあわせってなあに こたえなんてあるか

竹治ちかし

草野球よりも淋しい無観客
人間の弱さウイルスから学ぶ
ナツメロの中に昔の僕が居る
所作一つ心くばりのおもてなし
もうとまだ連れて元気を問うてみる

津守柳伸

ヒレ酒に心あそばす新年会
感染を押さえるマスク忘れがち
お松明人出が怖くなる修二会
手洗いとうがい除菌の指荒れる
カス汁に亡母がだぶる雪模様

都倉求芽

元気そうな雲飛んでゆく病窓を
また横になるほかはない五体
コロナウイルスの真つただ中に退院す
退院によるこびはない数値
なににするにしても眠気がついてくる

土橋螢

薫風にわが人生の岸見えず
春暁を新聞少年走り去る
起こすまい妻うたたねの春炬燵
音のするつつかけはいて春隣
笹鳴きやここのお寺も浄土門

西出楓楽

自分との戦いだろう生きるとは
ど忘れが多くて会話成り立たぬ
最高の贅落語聴きつつ舟を漕ぐ
魂を迷子にさせる春霞
コロナ籠もりのお陰じっくり塔誌読む

仁部 四郎

シンタイハップ意味は知ってる八十路坂

節約はやはり美德か八十路坂

残ってる夢を探して八十路坂

相棒と労り合って八十路坂

淡淡と令和を祈る八十路坂

三宅 保州

聞き立ての噂を早く喋りたい

これが俺だよ詰襟の美少年

自販機で甘酒売っているお寺

お早うで消える昨夜のわだかまり

挨拶もせず飛び込んでくる訃報

福士 慕情

弘前の桜笑顔のおもてなし

輪になって手拍子が出る花の下

春風に目を細めてる寒立馬

つり馬鹿が潮目を読んで磯に立つ

故郷の野山を変えた住宅地

松本文子

令和も耐える桜の下で泣けばいい

亡姉よ 亡友よ 一人芝居がまだ続く

邪魔になった イヤリング ネットクレス

私も独り お月さまも一人

津軽のふるさと唄いながら抱くりんご

三浦 強一

情報過多振り回される老いの日々

ウエルカム五輪と北の雪水

たつぷりの時間に足りぬ軍資金

やりくりをしても晩酌欠かさない

嫌なこと忘れ良いことまで忘れ

宮西 弥生

いい話大きすぎて香が抜ける

三遊の香り高く空に舞う

人の世に包まれ傷が浅くなる

果てるまで花は迷いのないドラマ

青春の本気導く旅に出る

村上 玄也

咳き込めば周囲に誰も居なくなる

吊り革を持たぬ脚力鍛えてる

世界中脅かすのは咳ウイルス

甘く見て後手に回った防護策

ウイルスも逐次新型つくりだす

森山 盛桜

オムニバスでしようか生きて行く秘訣

引き摺って行く雑学の塵芥

先細りしている二十歳からの道

草書ほど個性を崩したくはない

じっくりと人情断聞いてみる



森の集句

『川柳塔誌寿古希記念句集』

濱野奇童

残り火を掻き立てにくる南風
窓際にいて故郷の青を恋う
刃こぼれの鈍刀を研ぐ抵抗さ
見栄はもう止せと年金証書くる
蟻よアリ働く時代過ぎたとさ
みんなして主役を乗せた泥の舟
お通夜へ はしやぐ九官鳥がいる
月下美人 今ひとときを炎えつくす
まだ奥があるぞと鍾乳洞の水
小さな嘘一つを攻める夜の雨
一人居の老母がまだ吹く火吹竹
束ね髪 亡夫の力 母が持つ
続編へ確かに刻む母の唄
追いつ越してからは一人の道を行く
万歩計 白寿の夢を見て歩く

(平成6年7月27日 発行)

温故知新

小出智子川柳集『露の臺』から

真実があふれる秋の果物屋
それは他人でメロンが一つ届けられ
行末を夫婦で決めることはない
思い出がプツンと切れて秋から冬
だからトイレの花は萎れていられない
真新しい五重の塔に雨降っている
夫の知らぬ楽しさがある物干場
網棚にころっと心忘れてくる
桔梗咲くもう生き方は変えられぬ
小説のように目刺しを焼いています
旅は道連れ飴玉一つ如何です
自転車に油を差して思うこと
丁度よい所に珈琲店がある
大屋根に一度は昇ってみるものだ
門閉じたお寺の梅が咲き始め
その気になれば その気になれば春
風の日流されてゆく川を見に

水煙砂

川上大輪選

神戸市 田本古鈴

公園のハトもカラスも消した雨
フーテンになつたじいちゃんどこへ行く
待ち人は来ないつもりだ日が暮れる

ため息を吐いたら終わる夢ばかり
もう一度考えてみる床の中
お砂糖を撒けば呼ばない蟻もくる

豊中市 貝塚正子

持てあますほどに暇あり風を聞く
猟犬のようにパトカーうなり声
妻が出すイエローカード朝帰り
私にはほどほどの量大ジョッキ
ラーメンの三分を待つ砂時計
愛用の辞書も私もポロポロに

広島市 常國喜好

売り言葉よく聞き取れず知らんぶり
快く迎えてくれる自動ドア
迷わない妻がいるから強い家

用のない時はうれしい長電話

混浴でちよつとドキドキした足湯
あなたにはあなたの時が流れてる

大洲市 花岡順子

周波数が合わずガードが固くなる
たつぷりと嘘ついてきた紅い爪
道連れは肩の力を抜いた人
究極の味おふくろにたどり着く
何があつたかカナリアが歌わない
ふて寝していると余計に腹が立つ

大阪市 阪本秀子

新型のコロナが一步閉じこめる
夕ばえが今日のページを加そくさせ
あときはなんて言いっこなしですよ
スーパリーのクーポン家計かるくする
砂のしろ不協和音でくずれさる
父母の星がちかくてあんどする

大阪市 柴 本 一 ばつは

何はともあれ五月のわが家チューリップ
回れ右ばかりさせます忘れもの
行き違いばかりお世話をかけてます
いつも無理言ってるわたしすみません
偲ぶ方います淋しくないわたし
ほどほどにしておきましょう孫のこと

倉吉市 若 松 由 紀 子

古い独り浮き世の風に逆らわず
物忘れ記憶の糸を手繰る日々
火種などなくても噂立つ世間
気が付けばヨタヨタ歩く老いた影
墓洗うご先祖さまの笑い声
父母逝きて気楽に帰る里がない

堺 市 楠 井 輝 子

深酒で転けんといてや放つとくで
危険球ボツケに隠し共白髪
あかん事鬼の居ぬまにしたくなり
酒いいなきよう一日の愚を溶かす
酔えばうるさく飲まねば妻につきまとい
一呼吸すれば許せることばかり

境港市 藤 原 久 直

友達の仲はゆる結びがいい
気配りの上手な人は空気読む
八十路坂衰え知らぬ爪と髭

四季の花部屋に飾ってリズムとる
絵心は無いがピカソは知っている
目覚ましのベルが煩い寒い朝

三原市 笹 重 耕 三

寒い時にはじつと温めておく本音
お隣の入れ菌に気を遣う土産
トリードに出される気の抜けたビール
トリックに気づいていますマニフェスト
まん丸い地球を削る温暖化
へソクリも隠し口座もない独り

尾道市 小 川 道 子

手火花が似合う私の暮らし向き
喉元を過ぎたのだらう高笑い
寂しんぼこよなく晴れた空が好き
われ先を競う人間さまの列
どの街も人情のある裏通り
いちにちを染めて夕陽が美しい

和歌山県 三 枝 眞 智 子

消しごむが効かない嘘は笑えない
舌の刃は心を知らず人を切る
止まり木で政治を語る北の果て
ヘルパーの笑顔で明日も生きられる
口下手な父の背中が暖かい
木の家に住んで日本の四季を知る

大阪府 奥野 健一郎

ハイハイと二つ返事で上の空
グルメになつてから美味いものが減り
誘つたらなんと子連れで奥座敷
振られること無くて幸せ片想い
冗談も出尽くしたのでいざ本題

大阪市 中村 民子

一呼吸おけば聴く耳持てたのに
遠回りした人生に花咲かす
痛む腰宥めて向かう趣味の会
意地を捨て互いに譲る和の心
欠点も個性のひとつ目を瞑る

大阪市 中村 峰子

目が覚めた生まれ変わったような気が
ガラクタに囲まれうれしわが暮らし
テレビ欄マルで囲んで予定でき
癒される緩い繋がりが増やしたい
眠るのも修業のうちと思う時

大阪市 樋口 眞

よく動きビールのうまさ殊のほか
今のことばかり八十路のクラス会
卒寿まで大丈夫だと若い医師
ないようで小さな故障七つ八つ
余生細り力に欠ける日が增える

大阪市 降幡 弘美

器用ならマスク自分で作るのに
こんなにも寂しいものか無観客
新生活期待と不安混じる部屋
寝室が物置きになる来客時
子供らがキャンパスにする窓ガラス

大阪市 松田 聰

鳴りやまぬナースコールに手を合わす
看護師の献身頭下がるのみ
入院しベンケーシーを想い出す
初孫のあやしてもただ哭くばかり
リーダーシップと独裁安倍は間違える

池田市 上山 堅坊

炊けたよと叫んでくれる炊飯器
飲み仲間ニコツと笑う飲むサイン
互角だと言われ一層磨く技
東京五輪祝つてくれるわが米寿
お蕎麦屋でこころ豊かになる二人

池田市 倉本 一弥

大好きと心で叫びハグをする
リハビリ中焦るなスロースローだよ
孝行もろくに出来ずと泣いた通夜
笑うこと多い一年折る朝
ほめ上手人との間合いうまく詰め

貝塚市 吉道 あかね

人影もまばらコロナで寒い春
おひとりさまひとつの列に並んでる
オバシヤツをそろそろ脱ごう春が来る
春めいて半音高くなる私
年金で清く正しく生きている

河内長野市 原熊 知津子

正論より寄りそう言葉あればいい
一步譲る優しい風が吹いてくる
湖底に沈む実らなかった恋ひとつ
冬眠から目覚めてやつと匂が動く
チューニングいまだ合わずにルビー婚

河内長野市 穂口 正子

へこんでるソフトタッチで願います
このへんで自慢話に変わるはず
私より子がどきどきの認知症
トンネル抜け海を肴に缶ビール
恋しきは猫だきしめる柔らかさ

河内長野市 渡邊 修

朝ドラで信楽狸上機嫌
すねる孫親に似てると母笑う
二千万毎晩夢で使ってる
絶叫で尾崎歌った子も演歌
グレイヘアー誉めた途端に毛染め断つ

豊中市 荒木 郁子

ポランテシア公園飾る春の花
美脚自慢ショートパンツの若いママ
歳と共にリュックスタイル板に着く
ラッシュ時のガラ空き電車不気味だよ
散る準備出来ましたかね安倍総理

豊中市 齋藤 奈津子

結論は決めているのに聞く女房
水くさいと言われながらもいい間合い
白髪染め見た目の老化くいとめる
婦人科は喜寿を過ぎてても女医さがつ
コロナ騒ぎ手抜きメイクで済むマスク

寝屋川市 川本 信子

気が付けば誰も歌わぬ春の歌
少しでも元気になつてと桜咲く
お節介も嬉し嬉しの独り者
私より私知ってる友が逝く
涙腺が弱くて猫に笑われる

寝屋川市 廣田 和織

ロボットのボヤキは人が聞いてやる
ロボットが要らぬ付度してしまふ
道草の楽しさロボに分らない
ロボットにおふくろの味真似られる
サボる事覚えてロボはヒトになる

神戸市 大頭 としお

妻ルンルン荷台一杯春の苗
楽しみはアンカを探る冷えた脚
歳ですと医師にかあるく去なされて
犬掻きで頑張ってます無様でも
冬蠅を眺め終日日向ほこ

神戸市 輿水 弘

時流には乗っていないが平気です
朝の叫びやる気の油一滴を
長生きは聞き流すすべ秘めている
けんか腰なつかし今は及び腰
いくら吠えても今日はダメ酒あきらめて

神戸市 米田 利恵子

づけづけと言うて心の通う人
親孝行少しは期待してる母
身に覚えあるからしますお説教
言うべきか此処は大人になるべきか
生きている証の髭が嫌われる

神戸市 近藤 勝正

迷ったら杖より半歩後を行く
初鳴きは自信ないのかそつと鳴く
近道は知っているけどまわり道
春の芽を摘んだコロナが憎らしい
悲しげな五百羅漢に母を見る

神戸市 斎藤 隆浩

アラームより先に目が覚め眠られず
開けゴマ幸せ掴む第二幕
我が家でも時短営業風呂とめし
何食わぬ顔して帰る25時
バスの中咳する人と目が合うた

神戸市 松倉 正美

コロナ禍で家に籠もって句を捻る
パプリカを聞いて曲がった腰伸ばす
ミシユランが隠れた名店嗅ぎ付ける
リタイヤ後買った衣類は下着だけ
ネクタイは黒一本で事足りる

神戸市 山根 弘華

川柳で指折りつづけ早や卒寿
ストレスがはじめて愛が散りました
白寿の夢一ぱいのせた花いかだ
優しいがあの一言が気にかかり
数かずの話題つきない友の愚痴

小野市 藤原 泰宏

気遣いを分かってくれてありがとう
惚れたのか悪いところが見当らず
ただ五枚マスク貰いに長い列
マスクして声かけられてはてどなた
旅準備急にコロナが邪魔をする

三田市 稲角優子

目指すものあれば人生揺るぎない
光るものないが苦勞の手が味方
片時雨花の蕾にある祈り
病癒えのぼる太陽新しい
目をとじて小さな春をひき寄せる

三田市 木村 マユミ

しゃぼん玉夢儂さを七色に
デザートが葉に変わる夕食後
好々爺笑い皺にも味がある
マイホームローン終つてマイホーム
ゆうパック詰め詰めたの母の愛

三田市 中山寅男

焼け人形震災跡に得た宝
独り酒やけに明るい杯の月
竿出して気配を釣つて陽は落ちた
星空に啜るラーメン夜勤味
一日で五百歩やつと病み上がり

宝塚市 岸田万彩

濃厚に接触できぬ老いの恋
返らぬと知つて金を貸す辛さ
年賀状来ぬと思えば喪の知らせ
ウイルスが禁止命令出す句会
異議なしの拍手に乗って役が来る

西宮市 高橋千賀子

妹にけんかは負けるお兄ちゃん
できる事少なくなつて老いていく
ウイルスに足止めされて春がくる
マスクでは太刀打ちできぬコロナ菌
ニューモードマスク姿のおひな様

奈良県 室田行久

欲しい物やつと揃つて興が醒め
冗談を本気にされて尻拭い
あなたからあなたになつて気が付かぬ
陰口を隠語で話す女子トイレ
為政者の度量がわかる危機管理

生駒市 児玉規雄

テレビから感染しそう新型コロナ
おすすめのコロナ対策引きこもり
忘れぬよう日記に書いたパンデミック
戦わずコロナに敗けたセンバツ校
五輪には計算外の新型コロナ

和歌山市 倉橋悦子

好奇心少し疲れて前のめり
百までの余生小まめに食いつぶす
されど夢寝でも覚めてもすぐ消える
伸び代を楽しく埋めてゆく日課
南極の水が押しした非常べル

和歌山市 西川 千鶴

イリユージョンなんかじゃないよそれ老化

午前様隣家の犬と視線合う

内裏様夫婦喧嘩はしませんか

形見分け猫も杓子もしやしやしり出る

ウイルスが手桎足枷春の鬱

和歌山市 まつもと もとこ

モノクロの写真の中の若き母

大輪のフグの花びら咲く宴

純白の雪に溶けこむ鶴の舞

がむしゃらに働く父のコップ酒

無気力なタッチパネルの指紋跡

岩出市 村中 悦男

未来スイッチ押して気力をつけている

娘通訳診察受ける遠い耳

ハードル下げて辛せ探しする後期

体調は自然歩幅を変えて来る

コロコロ笑うつられて笑うデイケア

京都府 北野 クニオ

五大陸バンデミックで大騒ぎ

細菌が世界の動き止めている

爺さんを泣かす孫への祝金

プライドを捨てた男は隙だらけ

申告を終えて今夜は手酌酒

八幡市 武田 悦寛

辛い日も絶好調と書く日記

子供等のあれこれ背負い逝った母

悩みごと知らんふりして掛時計

神棚無く手を合わせるのは貯金箱

ちっぽけなプライド捨てて途中下車

松江市 山根 邦代

正座して三度の食事ひざ感謝

目を閉じりゃおいでおいでと友の顔

ふるさとに心踊らす写真集

咳ひとつ誰も心配せぬひとり

卒業式想い出作りうばわれて

松江市 中筋 弘充

ドーナツがドーナツであるための穴

合掌してからいただきましよう活き造り

よっぽどのことで昼から飲んでいる

人間を信じていない予約金

反抗をするためにある反抗期

出雲市 黒目 ひでお

新しい風仲間を信じ果報待つ

運命のいたずらにただ呆れている

マイペース創造力を働かせ

さもしいと他人の振り見て振り直す

年重ね徳を積むこと覚えたり

安来市 原 德利

来世の話咲かせて待つ医院

蝶を待つ雄しべ離しべの日向ぼこ

マシンガントーク封じるイチゴパフェ

やさしさを褒められ尻尾赤くする

やがてくるネットで葬儀する時代

美作市 岡 本 余 光

丁寧に過去を畳んで再起動

無の境地体験成るか坐禅堂

人生観確固とあるか自問する

色メガネ使いたくない隠し持つ

鈍根が続ける日々的一句二句

竹原市 若 年 幸 子

ナース帽白衣の似合う娘の育ち

声変り恋の芽生えを知りました

芽吹くもの皆空仰ぐ春の筆

娘の行く末孫の行く末頑張ろう

森林浴コロナ菌など寄せつけぬ

竹原市 土 井 輝 恵

孫達に老いの頑固が嫌われる

戦時中生きてきたんじゃこれぐらい

リハビリの一つ一つに芽吹きあり

事務服とチャリが似合った我が昭和

仏壇を買いたい人と仕舞う人

府中市 岸 田 武

啓蟄やひいじいさんになりました

性格はのんびりですが鉛は嘔む

くすぐっても笑わぬ人だ離れよう

小便小僧絶妙のフォルムだな

僕が好きだと言った娘の墓がある

倉吉市 堀 かずこ

叱るより論す言葉がじんとする

離さない転ばぬ先の杖だもの

あの時のやさしい言葉ほしかった

ハートチョコ食べたら胸がホツカホカ

高齢者値上げで先が見えてこぬ

倉吉市 宮 田 風 露

八十路の皺笑顔皺だと胸を張る

バス待ちに覗いた店で無駄遣い

どっこいしょ動くたんびに声がでる

ゴーストタウンの如くにしたコロナ

露の臺春を食べてるいい香り

米子市 妹 能 令 位子

見た夢と破れた夢とやや同じ

固結びしたばつかりにあがいてる

手に触れぬ金がスマホに吸い込まれ

もう揺れぬはずだと舟に乗っている

守るものあるから今朝もごはん炊く

松山市 郷田 みや

予定変更ほっかり空いた穴と穴

塩をまく音も微かに無観客

コロナから増えてきましたカタカナ語

日向ぼっこしながら指を折っている

さり気ない視線感じた日の不安

松山市 大内 せつ子

おじぎ草のすなお素直に生きてます

ごめんねが僕に絡んで拒めない

さよならを言わねばならぬレモンティー

あせっても心の鍵は出てこない

机の上のリングはなぜかお喋りで

今治市 永井 松柏

エリートofレールは都合よく曲がる

谷折りの底に声なき声がある

あみだくじ当たらないのが庶民です

揚げ足はとるが自説は持つてない

密閉空間避けてひろびろ過疎に住む

阿南市 小畑 定弘

恋多き老人だとして許されよ

春へ跳ぶネクタイ一本引き抜いて

味噌汁を生きるベースにしています

うぬぼれが一つあるから生きられる

日替りの恋の相手はナースさん

唐津市 前田 廣幸

犬までも雨の散歩は寝たふりで

歓声もコロナに吸われ無観客

柎も棘丸くして終活期

感染は御免蒙る大相撲

ストレスのピークマグマが目覚ます

佐賀県 真島 久美子

新しい靴今日じゃない明日じゃない

赤い靴は無理だがピンクならいける

ムカデには負けぬ我が家の靴の数

靴だけが光っていてもしょうがない

然もありなん四十代のシンデレラ

仙台市 月波 与生

龍が出るまで水切りする少年

連絡もなしで家族がみな揃う

わたしだけ残してコピーされていく

独り遊び転がる石を追いかける

真つ白な方が遺言書と思う

五所川原市 むらの ひとり

床屋にて噂話も刈ってくる

父さんの紙飛行機は定期便

効きすぎの鼻が居場所を狭くして

優しさを職場で使い切る男

初心者は足し熟練は引く仕上げ

黒石市 石澤 はる子

車座で確認してる合言葉
掌の中の藁一本が抛り所

闇を踏む明日へ辿り着くために
言い訳をしたことがないサングラス
長すぎるトンネル内の自問自答

黒石市 北山 まみどり

コーヒーが冷めても席は離れない
男って自分の負けを押し通す
あいづちを減らして対抗策にでる
少しだけすねてみたいとティーカップ
なるように慣らされていく角砂糖

横浜市 加藤 佳子

水際の甘さを突かれ臍を噬む
クルーズ船地獄も見せた夢の旅
雪祭りコロナ残して去るお客
開店前マスク求めて同じ顔
長びく風邪にコロナ疑う目が刺さる

横浜市 長島 亜希子

ひとつの物だからスパッと捨てられる
どうでも良い事は聞こえるヘンな耳
老人も行き場なくなり長電話
外出自粛晴耕雨読といきましょう
花便りコロナニュースが引き止める

富士見市 中島 通則

ウイルスに強いボツンと一軒家
外出自粛潤うテレビショッピング
便乗詐欺も蔓延り出した感染症

人名辞典引くにも名前出てこない
ハーモニカ一度は吹いた赤とんぼ

名古屋市 富田 末男

何もかも許して海になるころ
ちゃんとすることで信頼ついてくる
ペン先に答を持っているドラマ
山里で対話がしたい冬銀河
自販機がノルマ気にする待ち惚け

豊橋市 西郷 紀美代

忘れたい過去押し寄せて眠らせぬ
孫からの弔辞微笑むおばあちゃん
三日目にカレーの鍋がやつとあく
揚げ足も取って食わせる鍋奉行
愚痴っぽい酒が余生を暗くする

石川県 堀本 のりひろ

爪を噛み奥歯かみしめカタツムリ
忘れても気にも留めないDNA
あの窓の向こうに幸がありますか
後ろ髪曳かれて過ぎる赤のれん
歩け歩け長寿時代がすぐそこに

大阪府 大浦 福子

ああ蚕なんと聖なる糸を吐く
初恋が喪中はがきで終わり告げ
人知れず燃えて散りゆくやぶ椿
爪の土母が励んだ野良仕事

大阪府 高木 道子

これ以上堪忍どすえウイルスは
この星の火照り冷まして神仏
さあと言いまあええやんかでギアチェンジ
よく回る舌にも飴ちゃん回らせる

大阪府 石田 孝純

春の陽にウインクしてる梅の花
恙無く春刻々と犬ふぐり
顎上げて春告鳥の青き声
山の宿零れる星のかけ流し

大阪府 前川 善之

コロナウイルス世界経済崩れ落ち
何故だろう咲いた桜も早く散る
世の為も自分に返るブーメラン
賭け事は病氣の様に治らない

大阪府 宮本 千恵子

コロナがなんだ新芽次々春告げる
うっかりと咳も出来ない電車内
押し入れのミシン取り出しマスク縫う
亡母の着物たたまれたまま七回忌

大阪府 森 廣子

愛されて捨てられてゆく雛人形
彼岸団子でご先祖さんに媚を売る
不発弾抱いて三月花曇り
春の河浚漉船がゆるゆらり

堺市 羽田野 洋介

大丈夫やるべきことはやつてある
招かざる客には固い椅子がいい
朝イチに妻の雲行き確かめる
耳障りどこかで何か鳴っている

堺市 古川 光雄

延命を期待して行くフィットネス
夕暮になれば胃袋酒を呼ぶ
待合室コロナコロナで人無口
如月の寒さとコロナに脅えてる

泉大津市 助川 和美

歳重ね母に似て来た好きなもの
温暖化コアラの火傷見るシヨック
ネクタイを緩めて覗く子の寝顔
本棚の整理しばしば手が止まる

四條畷市 西川 ひろし

ウイルスで孫は休校親休業
早春もウイルスニュース曇り空
八十路なりや添乗員に頼る旅
免許証返せ攻勢くぐり抜け

吹田市 岩 口 のぞみ

長男の帰省で増える米の量

言わずともお風呂洗いに皿洗い

テレビ見てタブレット見てスマホ見て

花つけた桜の枝に手を伸ばす

高槻市 三 谷 白 黒

我がゴルフ道具の進化効きめなし

コロナ来て退屈してる爺と孫

医者により薬の量が違います

便利だが故障をしたらパニックだ

寝屋川市 坂 本 ミヨノ

杉花粉鼻せきリズムやかましい

背中懐炉白寿も越してまだ元気

枯草に春花まだと聞いてみる

肌寒いコンビニまでの十五分

東大阪市 秀 爷

たっぷりと懐メロ聞きにOB会

孫来るな土日はほくの時間だよ

失恋の痛みに耐えて五十年

退院後心身ともに丸くなり

枚方市 谷 英 也

陰口の何時かは帰るプーメラン

黄泉の国近くなつたか母の夢

加齢かな釣った魚がいとおいしい

時が過ぎ記憶のノート穏やかに

八尾市 田 邊 浩 三

三代に手作りさせたチョコレート

花粉からマスク奪ったコロナ菌

返杯は禁止と部長嬉しそう

どちらかな花粉とコロナのご挨拶

八尾市 山 川 寧

悲喜こもごも振り向くことが多くなり

青空だ雲にも雲の家族ある

トイレ休憩花に見とれて遠廻り

バスツアーもと来た道に戻れない

神戸市 青 山 ひろし

会釈して目と目で笑うマスク越し

ご在宅ゴルフシューズが干してある

賛成へ暇かかります墓仕舞い

二次会を呑んべ喫茶と言ってくれ

神戸市 石 川 克 美

限られた人しか検査出来ません

何かしら得体知れないこの怖さ

毎日がコロナコロナで日が暮れる

花ニラが青くパッチリ春を告ぐ

神戸市 玄 番 美 恵 子

口への字言いたい事は解つてる

痛みから開放されたやさしい目

数知れぬ苦勞も今は語り草

もう一度握り返してほしかった

芦屋市 新阜 義明

難関の志望校バスマウ鳴咽

初めての馬券を買って万馬券

ベット死に寝込んだつらさわかり出す

似て来たな寝姿までも似るベット

尼崎市 山田 厚江

携帯の亡父の名まえを消せれない

バツサリと切った花梨が芽を出した

メガネとり金額ランを確かめる

清水の葺き替え屋根の曲線美

尼崎市 清水 久美子

山茶花は散ったコロナは根を下ろす

咳ひとつはばかる時世 悩ましい

国難へなくてはならぬワンチーム

ガセネタが右へ倣えの糸を引く

尼崎市 寺嶋 恵美子

竿いっぱい洗たく物を干せる幸

青空と程良い風に笑みが出る

鼻歌も出ないウイルス気がかりだ

肅肅と句作りします日日努力

伊丹市 延寿庵 野 鶴

五線譜を飛び出す春のありったけ

山門を出れば始まる嘘まこと

泥団子食べて人間しゃんとする

咀嚼音笑みがこぼれる夕餉の灯

伊丹市 岡村 風琴

葉脈が波打つ春の息遣い

ベン先へ命を燃やす一行詩

知恵の海泳いで育つヒト科ヒト

一呼吸置けば気にすることもない

伊丹市 平井 富夫

あれ中止これも中止よ風邪ひきで

繰り返す褒める批判の裏表

嘘嬉し真実言われ腹立てる

バス時刻ビールの酔いが飛んで行く

三田市 生田 えい子

迷う心しつかりせよと風が押す

グレーヘア負けず嫌いのハイヒール

棒グラフ営業マンの首評価

子の脱線修正液で直す母

三田市 幸田 厚子

愛用のサブリ振り掛け褒め言葉

ケアハウスチラシ気になる年となる

迷い箸明治の父にシツベされ

振り返る嫁のバックで酔い覚めた

三田市 住吉 美和子

マスク掛け帽子に眼鏡どちらさま

春よ来いおしゃれ心が騒ぎだす

前歯抜けぶつと吹き出す間抜け顔

野の野菜戸惑いながら育ち過ぎ

三田市 辻 開子

高齢だ免許更新ゆれにゆれ
老老のつくり笑顔も疲れ気味
ウグイスが梅のつぼみを急がせる
電話口愛犬の死で声も出ず

三田市 馬場 貴美江

棺花念仏唱え極楽へ
低気圧体調管理むつかしい
暖冬で豊作野菜廃棄する
嘯み合わぬ話の主はだれだっけ

三田市 東内 美智子

戻れない日解つてるのに戻りたい
なめくじも存在示す光る道
取り合えずまあまあとなだめられ
あの世にはいい女居ても許します

三田市 森 玲子

叱つてもそつと我が子にハグをする
幸せですわくわく感はないけれど
ああイライラ縫うよりかかる糸通し
着ない服もかしらと捨てられぬ

宝塚市 太田 としお

ありがたい贅沢言えばきりがいい
コロナより人間こわい恐ろしい
何しても自分自身はごまかせぬ
気ばつても水は油になれませぬ

丹波篠山市 澤 良子

大道芸失敗しても笑顔湧く
髪カットいつも気になる夫婦仲
真心が後にじんわり効いてくる
表札が大家族でも今ふたり

丹波篠山市 藤井 美智子

趣味講座別の自分をみつけ出す
許し合う今日の暮らしへ温い風
老いの道案内くれる五七五
暖冬の大根びつくりスリール

丹波篠山市 横溝 安子

孫ばなれまといつুকのは小犬だけ
関東煮昔のままの味つたえ
古女房ハイとなかなか言えませぬ
ウィルスで曾孫あずかり家庭塾

三木市 山口 ヨシエ

振り向いて起伏あれこれ懐かしむ
七彩の風の音聴く曲り角
少しだけ贅沢します春の膳
路の臺届いて里の野辺を恋う

奈良市 尾畑 なを江

にぎり飯わたし三角母は丸
気にいった梅干し連れて旅に出る
現在地確かめ後は振りむかぬ
淋しい夜一杯飲んで床の中

奈良市 仲西賛郎

崩れ土塀残されている古都らしき
不器用でバソコン打つも右手だけ
一輪の桃の花から春匂う
英会話進歩はないがほけ防止

和歌山県 森下よりこ

みかん葱たくさん食べて風邪予防
年寄りになって私が世帯主
ラジオつけ一人の家を賑やかす
暖冬が老いのくらしの応援歌

和歌山市 北原昭枝

思い出の花が心の中で咲く
クローバー見つけあなたを信じた日
支えてるそれだけでいいカスミ草
出合いにも別れにもある贈る花

和歌山市 定松宏枝

金儲けそれは外出しないこと
病気ケガ無くて子らにも感謝され
水温み洗車する手もリズムミカル
三ツ星のレストランより母の味

和歌山市 佐藤まき

健診はコロナ収束してからに
友の絵を飾る独りの雛祭り
絵手紙のお内裏様は癒し顔
お松明の火の粉被って息災を

和歌山市 鍋嶋澄子

貸した本帰らず迷子待ちぼうけ
ゲームやり辞めない気持よくわかり
室生寺で朱い欄干ハイチーズ
昔話コーヒー二杯まだつづく

和歌山市 福島一雄

朝一番無事の目覚めに手を合わす
朝日浴びやる気スイッチオンにする
和歌山の梅の力に育まれ
腹の虫冬場も元気またメタバ

松江市 相見柳歩

少しずつ心に城を築きます
冷たいと逆に好かれるみたいだね
冷たいと言われるヒトに親がいる
別れても親子の糸は永遠に

雲南市 永見安子

義理チョコをもらって嬉し倍返し
おもいきり泣いてみました寂しくて
久しぶり孫が笑顔を持って来る
脇役も時々主より前に出て

益田市 篠原紋次郎

災害のたびに人間強くなる
忘れない忘れられない戦時中
怖いのは豪華な船と屋形船
元気ならそれでいいのだ電話口

笠岡市 小野 美那子

これで良い負けてわたしが救われる

いい風だこころの窓も開けてみる

生きている限りいちばん若い「今」

服装は整ったけど顔立ちが

広島市 松尾 信彦

うすうすの事情は承知踏み込まず

ふたりとも以下同文の枠の中

靴紐が緩んだ気持締めあげる

年賀やめ四季折々に踊るペン

広島市 田桑 恵子

霜柱春の音して溶けていく

仏壇の花を切らすと落ちつかず

薄味に慣れた舌には出汁効かせ

コロナなし胸に一杯山の風

尾道市 小畑 宣之

幼馴染みみんな粗忽で涙脆い

老境にあらず傘寿は青春さ

誰にでも好きだ惚れたは罪作り

幼き日汽車の窓から乗り降りし

三次市 伊藤 寿子

まだ女送り迎えを疑われ

タクシー券渡すかわりと踏むペダル

番頭の病名分からぬ七不思議

女オナーの意地をのれんが笑ってる

小野市 田中 辰夫

俺よりも孫が知ってる預金高

復活を信じて上がる手術台

悪人は仮面の紳士人騙す

清貧を崩して過ごす三ヶ日

鳥取県 下田 茂登子

生きたい人死にたい人と湯の仲間

低額の年金だけど食べて寝る

孫の顔忘れるくらい逢ってない

自由とは布団の中に居る時だ

鳥取県 西谷 悦子

国会の中継聴いて世間知る

ゴミ袋プラすぐ溜まる世になつて

高校の時の友達逢いたいナ

家の庭草取りをした気持良さ

鳥取県 橋谷 静江

外出も儘ならぬ日々コロナ菌

贅沢はゆるさぬ夫と住んでいる

夫介護犬の介護と疲れます

疲れてもなかなか眠気こない夜

鳥取市 大前 安子

顔の無いマスクが喋る立ち話

ふいと出た案へ春風拍手する

チャレンジを忘れていたねスタートだ

身の丈の暮らしへ朝の湯気が立つ

鳥取市 上山一平

マスク族追い打ちかける杉花粉
おとつとと躓くおやじの口癖
削るほど川柳豊かに生き返る
健やかに百まで笑顔いい夫婦

倉吉市 伊藤嘉昭

パソコンが生きる証しを教える
喜びをラインで知らず喜寿の顔
ラインするライン待てずに電話かけ
友見舞ういずれ我が身か憂う年

倉吉市 大羽雄大

春まつりボンボリなしという役割
ご近所は性善説でおつき合い
お隣の子供の声は春休み
慎ましき二人の食のゴミ袋

境港市 中井虎尾

ああマスクこれじゃイケメンだいなしや
テレビロケ鳴き声発しカラス去る
本堂に背を向けながむ銀閣寺
評論家資格試験があるんかな

米子市 川本美津子

ウイルスの色に染まった日本地図
瀬戸際で慌てる孫の朝支度
何かしら今日は気分が乗っている
お断りしても老化はついて来る

今治市 渡邊伊津志

天高く此の世に義理の多すぎる
糸蜻蛉思案の羽根を閉じ開き
話し合う心に笑顔零れ出る
紫陽花と語り合ってる蝸牛

高知市 三谷松太郎

濃厚な接触なんと懐かしき
休校だみんな揃ってカラオケへ
延々と議論百出菜種梅雨
何のそのコロナウイルス竹槍で

沖繩県 あらさくら

脱ぎすてて子に従ってついで行く
同期会元氣出る出る島ことは
夫逝く字のクセなぞり懐かしむ
反省を繰り返す連れ絶好調

沖繩県 宮モモト

出迎えた消毒液が座り込み
休校のコロナストレス脳停止
選抜の高校球児涙のみ
絵手紙は一期一会の旅好き

沖繩県 宮すみれ

咲き誇る風と香りを嗅ぎ当てる
白足袋が見え隠れする色つぼさ
追肥した春のキャベツがシャキシャキと
わがままに肥料与えて枯れたバラ

福岡県 本田 さくら

一歳の餅ふみわが家賑やかに
向かいの猫ことわりもなく二階から
20分昼寝をしますお静かに

あやふやな記憶あの人誰だっけ

唐津市 岩崎 實

ガランドウ席がみている土俵入り
訪問看護しっかり歩いた足を揉み
風呂あがりワセリンぬってお休みと
もっと良い顔がほしいと今更に

宮崎県 黒木 栄子

バスツアー時間時間と迫られる
ジョギングのつもりも只の早歩き
里の山いつしか消えて分譲地
発火する私の火元いつも夫

弘前市 高森 一呑

チャンネルを一人占めして妻昼寝
チャンネルの何処を押してもコロナだけ
3・11チャンネル変えて黙禱す
ゲームする児等はコタツで天下取る

神奈川県 小田 幸子

とりこわす庭の片すみ山すみれ
亡き父と一人二役会話する
真夜中も母を見守る犬の息
主なき庭に白梅咲きほこり

横浜市 巖田 かず枝

建て付けが悪くて換気いらずです
温暖化地球元気でいておくれ
ウイルスに地球丸ごと犯されて
世界中見えない敵と戦って

栃木県 廣瀬 良磨

春なのかいや冬なのか桜咲く
にわか雪春の匂いを連れてくる
春だから旅の準備をしておくか
縁側でふわりふわりと浮いている

南アルプス市 小林 金剛

多飲してジンゾウこわす一歩前
水虫にやられっぱなしの魔の峠
こんこんと蝶をされて男生き
妻からのオシカリ受けるハカナキ世

静岡市 渡辺 芳子

九十年生きてこんなコロナに出遭うとは
太陽に毎朝願う幸せを
地球人イガミアッテル時でなし
花つぼみ春のイブキの友の庭

名古屋市 山本 三樹夫

年季明け税を上げる暖簾分け
民主主義公文書から崩れだす
好物に食い意地が張るバイキング
気まぐれが人の気持を弄ぶ

江南市 脇田雅美
ジエラシーでテンション上がる喫茶店

空元気頑張りすぎて腰痛症
まだ元氣夫婦介護はどっちやら
買物にメモ書きどおり買えませぬ

(前月分) 黒石市 石澤 はる子

正論にがんじがらめにされている
真っ白になるまで僕を晒します
怒るまい見損なつてただけのこと
レンゲ草いつも立ち位置確める
負けん氣へスイッチ入る向かい風

(前月分) 黒石市 北山 まみどり

口げんか笑い話になる日まで
修復に時間のかかる意地っ張り
知らんぷり一週間の荒療治
ごめんの代わりか花の揺れ加減
思い出を増やして明日の種にする

★ 7月7日 (火) 路郎忌句会は

中止。誌上投句句会の予定です。

詳細は6月号掲載。



(つづき)

(前月分) 千葉市 海老池 洋

キャツシユレス現ナマ主義を置き去りに
百舌鳥ほどに本音を吐いてみたくなる
野荒しのことなど誹りボタン鍋
足腰が言うこと聞かぬ避難指示
波の花奈落の花とみる詩人

(前月分) 男鹿市 伊藤 のぶよし

重くても軽くても脚は友達
一歩ずつ春が近づく松葉杖
雪国の空暖冬が物足りぬ
ナマハゲの貌泣く子も黙る北の鬼
早咲きの椿やつぱりそつが無い

川柳塔本社事務所へのご連絡は、

土曜、日曜、祝日を除く平日の10

時から14時までにお問い合わせします。

英語 de Senryu ⑩

麻生路郎句集 『旅 人』

英 訳 吉村 侑久代 Kim Horne

母と子の 蚤が 互ひに入れかわり

pesky flea

jumps back-and-forth

between mother and child

障子張ることを 夫婦で ゆづりあひ

to repaper shoji

husband and wife

give way to each other

pesky やっかいな *flea* 蚤 *jump* 跳びはねる *back-and-forth* 行ったり戻ったり
between ~の間 *repaper* 紙を張り替える *give way* 譲り合う *each other* 互いに

～リパーウィローのため息～世界の川柳・俳句④ 英語ハイク・センリユウが盛況

今回から海外で人気の日本生れの短詩、ハイクとセンリユウの状況を紹介します。特に俳句は、鎖国時代に長崎出島の阿蘭陀商館長ヘンドリック・ヅーフが、ローマ字の日本語俳句を詠むほど外国人を魅了しました。明治時代には在日外交官やお雇い外国人が俳句の短さに興味をもち翻訳しました。日本人の中には、「外国人の翻訳は気に入らん」と『英訳古今俳句一千吟』を出した宮森麻太郎もいますが……。戦後は英国人で俳句・川柳の研究者で、以前も紹介した R.H. ブライスや外国人研究者が海外へ紹介しました。

こうして海外のハイク・センリユウは日本語の俳句川柳の翻訳をもとにして生まれました。1960年代にアメリカの小学校では音節の数を教える際に5-7-5のハイク形式を利用しました。その結果、ハイク受容のすそ野が広がりました。またアレン・ギンズバーグなど現代詩人が、禅仏教に影響を受けたブライスの俳句解釈に魅了されました。彼らの詠むハイクは世界各地の詩人に影響を与えたのです。今やインターネットでハイク・センリユウ交信の時代です。海外の詩人による「ハイク」や「センリユウ」のブログやインターネット結社が世界各地で生まれています。彼らはハイクを「日本語俳句から生まれた自然を詠む無韻の三行短詩」、センリユウを「喜怒哀楽を中心に据えた無韻三行短詩」と捉えて発信します。俳句・川柳からハイク・センリユウへの伝播を考える時、「俳句・川柳は世界文学」と言い切ったブライスの仕事がよぎります。日本文学の輸出という点では、俳句が一番成功し、次に川柳、短歌と並んでいます。

誹風柳多留——二篇研究 83

小栗 清 吾・細井 龍 夫
伊 吹 和 男・山 田 昭 夫
石 川 道 子
清 博 美

714 となりからほしいハわけの有義也

小栗 訳有るは、①色恋に関係がある。②身分が高い。③事情がある。特に情交関係がある〔日国〕。

②情交関係がある〔日国〕。
訳が有るは、①事情がある。理由がある。

隣から「欲しい」と言ってきたのは、何か訳の有ることだというのであるが、どういう状況を設定すればいいか。「訳が有る」の意味から考えて、息子が隣の娘と訳有り状態になって妊娠させてしまったので、仕方なく「嫁に欲しい」と言ってきたというようなことを考えればよいか。

清 隣から腹帯をした娘が来る
翫 三 5

715 気の知れた事盃をとんでさし

小栗「気が知れる」は辞書に見えないが、「気が知れない」(こちらに相手の気持ちからわからない。わけがわからない)の反対で、「気持ちがよくわかる」の意であろうか。また「飛んで差す」もよく分らない。「順番通りではなく、その人を飛ばして別の人に差す」という意だろうか。

それでもよくわからないが、駄労解として大一座の句としておく。大一座の相方を決めるにはいろいろの方法があっただろうが、対座した順というのもあったに違いない。その際に、自分と対座した遊女が不服で別の人の前の遊女に盃をさして相方に所望するという

ような奴もいただろう。ルール違反ではあるが、その気持ちもよく分かるよ、というのではなからうか。

大一座美へさすおしのつよいやつ 二〇三
山田 そんなところなのでしよう。

清 賛。大一座でよろしいかと思う。

716 喰ひものをはさむとやりて不人相

小栗 不人相は、無愛想な顔つき〔江〕。

遣り手の行動を詠んだ句であるが、「食い物を挟む」がわからない。客が食い物を挟む(箸で挟む、酒の間に物を食う)という意も考えられるが、それでなぜ遣り手が「無愛想な顔つき」なのかわからない。

ただ、この句は柳雨「吉原志」に採られており、

齒に当る看を遣り手嬉しかり 二七 8

の次に掲載されている。そこで推測だが、柳雨先生は主題句の「食い物」を二七篇の句の「看」と同義と考えられたのではないか。仮にそうだとすると、この二つの句は、いずれも遣り手が祝儀に貰った一分金の真贋を見るために噛んでみる動作を詠んだもので、二七篇の句は、一分金を齒に当てて嬉しがっているとストレートに表現したのに対し、主題句

は、祝儀を貰うまでは愛想良くしていたのだが、祝儀を貰い部屋を出て一分金を齒に挟む頃には普段の無愛想な顔つきに戻っていると、一捻りして表現した句と考えられるように思う。差し当たり、この解をお示ししておく。

折ふしハ小粒もあたる遣り手の齒 初42
細井 巾着へ入れる前に確認。礎賛。

清 一分金を食い物と表現……今一つ納得出来ず。

遣り手対客、遣り手対遊女。初会の遊女不作法をみて、遣り手が客の手前叱りも出来ず、不人相、……これも駄目か。わからず。

717 雪に四ツ手をおよがせていそぐ也

小栗 雪の吉原へもてたい一心で四つ手駕籠を急がせる遊客。雪で足場の悪い中を、まるで泳ぐように前傾姿勢で突っ走るといふことであろう。

雪中にさげぶをきけハ四ツ手也 一〇23
清 賛。

718 羅生門綱おれが行べいとひ

小栗 謡曲「羅生門」の句。

源頼光が四天王と酒宴をしているとき、保昌が「羅生門に鬼が住んでいる」と言いだして口論となり、渡辺綱が「俺が行って確かめてくる」ということになる。主題句はこのことを詠んだものだが、四天王の内渡辺綱だけが江戸生まれということになっているので、関東の「べいべい言葉」で「俺が行くべい」と言っただろうと。

夜はなしがこうじて札を立に行 一一30
清 賛。

719 落て来たのでこし帯ハほうられる

小栗 腰帯は、婦人の和服の付属品。下締め。の帯。衣服を身長に合わせて着て、そのあまりの腰にためた部分を帯の内側に整えるため、腰に結ぶ幅の狭いひも（「日国」）。類句から見て、お花見延引の句のようである。

おしそうちにこし帯を解タ御延引 五12
にくらしひそらとこし帯ほとくなり 明五宮3

こし帯をメツゆるめつ花ぐもり 安五宮1
花見の朝、普段は引きずりにしている着物を、外出用に腰帯で裾を上げて用意したところへ、ぱつぱつと雨が落ちてきた。残念

ながら花見は延期ということになり、腰帯を解いて放りだしたという図。

細井 賛。そつと置くのではなく、放る心情がよくわかる。

山田「日国」の腰帯の解説は腰紐のことで、腰帯は、抱帯、あるいはしごきの事。抱帯は「女性の歩行の際に着物の身ごろをしごき帯でかかえたところから」江戸時代、腰帯をいう。引きしごき。しごき。かかえ「日国」。つまりむすんだ帯の上にするもの。紐と違い、中があるから、

こし帯を雛の幕とは嫁の作 五13
という句がある所以。なお、腰帯については『柳多留輪講初篇』173頁以下に詳しい。句意は賛。

清 賛。

720 江戸の土ふまずに戻るおし送り

小栗 押送りは、押送舟の略。江戸には漁場から生鮮魚を運び込むために漕いで来る

近海で採れた魚を江戸橋辺りの河岸へ送りつけた押送舟が、次の魚を運ぶためにとんぼ返りで帰って行く様子であろう。

おしおくりたつた七十五本つミ 天八12 15
清 賛。

愛染帖

新家 完司選

(投句274名)

三田市 谷口 修平
ナチュラルなメイクの意味がわからない

(評) ナチュラルとは「自然のまま」であり、メイクアップとは「化粧すること」。技術的にも至難！ カタカナ語偏重へ蜂の一刺し。

江南市 脇田 雅美
日本人のハグどことなくぎこちない

(評) 我が国の伝統的な挨拶は「お辞儀」であり、握手やハグは異国の風習。ぎこちなくて結構。奥床しさや恥じらいは純情の証。

奈良県 長谷川崇明
ランキング二位です二人家族です

(評) 世界ランキングではない。日本ランキングでもない。我が家の中だけのランキング。退職してから二位になって、それっきり。

鳥取市 田賀八千代
言いたいこと言って血圧正常値

(評) 田満を気取ってガマンしているのは血圧に悪い。こころと身体のためには時々「ガス抜き」をしてやらなければならない。

岡山県 山縣のお子
いい日だな鮎も団子も寄って来る

(評) 鮎を提げて来た友人と駄弁っていたらご近所から団子が届いた。そのようない日稀にある。人生捨てたものではない。

伊丹市 延寿庵野鶴
付箋貼るこの世は知らぬことばかり

(評) 「成程、そういうことか」と新しく得たことも直ぐに忘れるので付箋を貼る。考えてみれば、知っていることなどごく僅か。

米子市 成田 雨奇
食べ終えてごころうさまと言ってしまふ

(評) 「ごちそうさま」と言うつもりだったがのだが…。ボケはじめたのではなく、奥さまを労わる気持が自然に出てしまったのだ。

香芝市 山下 純子
ひからびた臍の緒4つまだ宝

(評) 男性から見れば、「何やら汚らしい」という感じの臍の緒。母となった女性には、「自分と子供を繋いでいた命の綱」である。

神戸市 近藤 勝正
お湯割りは妻が作ると薄くなる

(評) ケチャや節約ではなく、身体を気遣ってくれていることは分かる。だが、ほんわか夢心地になるにはいささか物足りないのだ。

防府市 坂本 加代
ぼっかりと時間をくれたコロナ菌

(評) コロナ騒ぎの所為で、ほとんどの行

事が中止。だが、何事も前向きに「時間的な余裕をくれた」と捉えると元氣も出てくる。

大阪市 奥村 五月
雑祭りコロナ恐くて孫呼べず

河内長野市 木見谷孝代
コロナ禍を避けて野原で日向ぼこ

高槻市 平賀 国和
春眠を貪りコロナ遠ざける

大阪府 松岡 篤
コロナ菌家に夫婦を縛り付け

長野県 丸山 健三
手洗いうがい除菌しましたさて次は

神戸市 松倉 正美
目に見えぬ菌にテレビも休めない

八尾市 山川 寧
コロナめはライブハウスが好きらしい

羽曳野市 吉村久仁雄
握手ハグやめておじぎでハウドゥユードゥ

三田市 福田 好文
エアハグエア握手をして触れず

濃厚な接触ないが風邪もらう

大阪市 磯島福貴子
鳥悠悠とコロナも知らず木から木へ

箕面市 中山 春代
コロナ禍で淋しがつてる予定表
飲み会も取りやめになり一人酒
大阪市 坂 裕之

目に見えぬ魔手に脅えているマスク
河内長野市 穂口 正子

残りわずかマスクお金に見えてくる
鳥取市 倉益 一瑤

人の弱さよマスクごときにくらたえる
貝塚市 石田ひろ子

ゴミの日のマスク無言で会釈だけ
鳥取県 山下 節子

街中がマスク人証出来兼ねる
徳島市 川本 信子

マスクには花粉症でと書いておく
鳥取市 岸本 宏章

低い鼻マスクが顔によく馴染む
尼崎市 清水久美子

マスクして出好きの夫と会話する
仙台市 月波 与生

クラス会中止でマスクだけ届く
高槻市 片山かずお

禁煙をすれども空の貯金箱
大阪府 榎尾 奏子

不急ではあるが不要じゃない句会
大阪府 榎尾 奏子

マスクが増えて美人が増えた街の中
大阪府 榎尾 奏子

従順な長女の月の首飾り
岡山県 藤澤 照代

AIが増え考えぬ葦も増え
生身より信頼される免許証

大相撲悪玉菌に寄り切られ
塩竈市 木田比呂朗

無観客場所いつもの席にいぬ女
奈良市 米田 恭昌

無観客無気力試合無表情
三田市 多田 雅尚

不意打ちに妻にクシャミをかけられる
堺市 内藤 憲彦

店頭にティッシュ当たり前の暮らし
横浜市 川島 良子

個性派をまとめおでんのワンチーム
鳥取県 斉尾くにこ

隠れ処のように図書館映画館
弘前市 稲見 則彦

純喫茶昭和ロマンの中にいる
札幌市 居谷真理子

運転免許なければ暮らせます
二キロほどありそう百円玉貯金

見慣れればキリンはキリン象は象
三田市 堀 正和

へそくりがちよっぴり増える還付金
逆走を三途の川でしてみるか

色と艶すっかり猫に負けました
ほめ言葉嫌い寒いほどできます

三田市 上田ひとみ

ちからです優しいことも頑固さも
最近では退屈なんてありません

切り捨ての娘と切り上げの母と
佐賀県 真島久美子

寝転んでテレビ体操見えています
広島市 岸本 清

ひらがなのように生きたい極めたい
生駒市 飛水ふりこ

人間でいようと思っではいるが
松江市 石橋 芳山

綻びに塗れたらいいねクリームを
五所川原市 むらのひとり

ガス室へいそいそタバコ吸いに行く
宝塚市 岸田 万彩

菓ごもりが続く会えない日が続く
青森市 守田 啓子

ジェラシーで読めば有益立志伝
唐津市 仁部 四郎

JISマーク付いたAI選びます
和歌山市 まつもととむ

イントロで分かる昭和の歌謡曲
富士見市 中島 通則

歌聴けば流行った頃にひとつ飛び
長岡京市 山田 葉子

反骨で生きてきて骨粗鬆症
大阪市 石田 孝純

気をつけていても減ってる骨密度
豊橋市 西郷紀美代

あれやこれ万事昼寝のあとのこと
三田市 北野 哲男

締め切りの順に並べておく葉書
松山 郷田 みや

横文字や擬音を入れて逃がっている
倉吉 牧野 芳光

暖冬で雪になれない雨が降る
堺市 村上 玄也

お待ちどうさまと初雪初氷
鳥取市 田中 天翔

大寒に春が来たよとフキノトウ
大阪府 森 廣子

タンポポはまだ寒そうに震えてる
熊本市 杉野 羅天

土根性教ゆる如く野草咲く
丹波篠山市 長谷川善輔

やれ嬉しリシリゲンゲの鉢に芽が
和歌山市 土屋起世子

ワインカー左へ春が待っている
鳥取市 山下 凱柳

鶯が遠慮しいしい鳴いている
米子市 吉田 陽子

膝治療半分残し春が来る
河内長野市 中島 一彌

斥候の蟻がキョロキョロ探る春
大阪府 高木 道子

恋猫の浄瑠璃のごとらブコール
尼崎市 寺嶋恵美子

ブラウスはバステルカラー春意識
尼崎市 寺嶋恵美子

ケーキバイキング12個食べた記録持つ
豊中市 きとうこみつ

おいしいものは二文字
大阪府 古今堂薫子

腹八分と言われストレス溜めている
大阪府 平井美智子

女傑にパワー美人にオーラいただこう
堺市 矢倉 五月

仔猫にも揃えてあげるおひな様
西宮市 高橋千賀子

母が私に見立てた雛を孫飾る
尼崎市 藤田 雪菜

ご近所の桜見る会割り勘で
富田林市 山野 寿之

山桜自分で決めた場所で咲く
川西市 大坪 一徳

木洩れ日のシャワーで五感リラックス
岸和田市 雪本 珠子

シャボン玉以外シャボンの語は消えた
豊中市 水野 黒兎

「マジ」と「ヤバ」で会話が終わる若い人
河内長野市 原熊知津子

下手な字は読めるが達筆は読めぬ
土佐清水市 辻内 次根

ふり返る今日笑ったかしゃべったか
鳥取県 門村 幸子

都会の中で心ポツンと一軒家
京都市 都倉 求芽

わくわくを探して街を徘徊す
豊中市 上出 修

曇天に直撃される偏頭痛
黒石市 石澤はる子

エヘンエヘン僕はずうっとリーガル派
大阪市 江島谷勝弘

罰として百回好きと言いなさい
西子市 西田美恵子

腰据えてイラチの風をやり過ごす
奈良県 安福 和夫

大根足とても丈夫な足である
貝塚市 吉道あかね

追い込んで捻ると知恵も未だ出ます
神戸市 大頭としお

繰り返す豆腐に釘の脳天気
沖繩県 禰 モモト

ネクタイも白黒だけの身の整理
広島市 松尾 信彦

他府県のナンバー並ぶ連休日
高槻市 富田 保子

無駄金かどうかを我に問うてみる
大阪市 藤田 武人

夫婦喧嘩投げたい鍋が重過ぎる
河内長野市 大島ともこ

信楽のタヌキに紛れ込む夫
奈良市 大久保眞澄

仕事よりまず会得した処世術
三原市 鴨田 昭紀

卵酒新型コロナナ迎え撃つ
岡山県 岡本 余光

大丈夫ビールで嗽しています
三田市 村田 博

花に水僕は焼酎カキノタネ
米子市 竹村紀の治

今夜は禁酒喉まで出るが勇氣出ず
松江市 梅瀬みちを

招待状来ぬが自前の花の宴
堺市 澤井 敏治

セレブ感ほしい記念日ロゼワイン
三田市 野口真枝子

ワンチーム言われ飲み会逃げられず
寝屋川市 伊達 郁夫

人間が好きで赤提灯が好き
三原市 笹重 耕三

飲み放題元は取れぬがいい気持ち
米子市 伊塚美枝子

酒呑んでいるのか呑まれているのか
大阪市 小野 雅美

きみはクタクタぼくはポロポロ飲み仲間
弘前市 高瀬 霜石

酔っぱらい誰の靴でも合わせます
西宮市 緒方美津子

どんなに酔っても笑顔は忘れない
鳥取市 夏目 一粋

悪友と遊ぶ勉強なら得意
笠岡市 藤井 智史

病床で思うは酒のことばかり
藤井寺市 鈴木いさお

この土に埋まる覚悟の異郷の灯
越谷市 久保田千代

冬眠を旅のチラシに起こされる
和歌山市 古久保和子

恋をする姪の瞳が万華鏡
沖繩県 宮 すみれ

忙しい身には病も近づかぬ
橋本市 石田 隆彦

しあわせを形にしたら玉子焼き
大阪府 米澤 俣子

小脳と小腸割を食っている
河内長野市 梶原 弘光

うさぎ小屋も孫の巣立ちで広くなり
鳥取市 岸本 孝子

傘十本忘れ物市まとめ買い
池田市 太田 省三

剃り残した髭一本で落ち着かず
京都市 清水 英旺

健診に見栄はり腹をひっこめる
岡山市 大石 洋子

女房がした日もあつた耳掃除
寝屋川市 廣田 和織

老春のベッドにぬいぐるみ三つ
河内長野市 森田 旅人

寝て起きる時間が機械的になる
鳥取県 竹信 照彦

靴下に古い欠片が落ちている
岡山県 田中 恵

定年後二人三脚紐緩む
八幡市 武田 悦寛

妻と僕近づき過ぎず遠すぎず
神戸市 敏森 廣光

聞こえるように聞こえぬように愚痴つとく
大阪市 宇都満知子

居れば出よ出たら歩けと妻の鞭
宝塚市 丸山 孔一

ひたすらに雑踏を行く腹すえて
笠岡市 小野美那子

強いこと言えるのはもう家内だけ
奈良県 中堀 優

ホクロまでコピーされてる親子だね
沖繩県 あらさくら

冬場にはのんびりしてる冷蔵庫
豊中市 齋藤奈津子

冷蔵庫の残り物からフルコース
松山市 柳田かおる

これも縁ひよっこり迷いこむ仔猫
四条畷市 吉岡 修

ヘアピース帽子がわりで暖かい
米子市 池田 美穂

肩の荷がストンと下りた無駄はなし
大阪市 津守 柳伸

戦争をかついで生きた昭和の子
益田市 篠原紋次郎

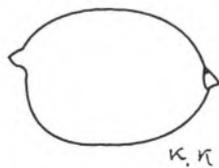
共選欄

檸檬

抄

(薫風書、カットとも)

(投句353名)



「さすが」 水野 黒 兎 選

『路郎読本』さすがさすがの読み応え
 大坂市 古今堂蕉子
 さすがウイルス奢るヒト科を巴投げ
 河内長野市 村上 直樹
 手柄は部下にさすが社長になる器
 札幌市 小沢 淳
 たまたまと謙虚なセルフチャンピオン
 三田市 堀 正和
 不言実行目立たぬ位置に居るけれど
 松山市 宮尾みのり
 さすがが妻この材料でこの料理
 八幡市 武田 悦寛
 広島市 岸本 清
 電話詐欺妻が一喝それっきり
 奈良県 渡辺 富子
 さすが妻笑みと涙を使い分け
 大阪府 坂 裕之
 私には捨てられないが妻はポイ
 松山市 大内せつ子
 やっぱりあなたわたしの心盗むのは
 大坂府 降幡 弘美
 色々な遊びを作る子供たち
 西宮市 緒方美津子
 文句などつけようのない日本晴れ
 豊中市 齋藤奈津子
 こそ泥を追って捕らえる元婦警
 米子市 中原 章子
 好きな道さすがに疲れ感じない

「さすが」 鴨 谷 留美子 選

さすがが塔社コロナ対策俊敏に
 西宮市 亀岡 哲子
 良い句です直し一切要りません
 奈良県 長谷川崇明
 同じ題後光さしての特選句
 三田市 松本ゆかり
 赤門を二代もくぐる嬉しい日
 横浜市 菊地 政勝
 さすがやとつい声がでる課題吟
 奈良市 中堀 優
 茄子の花さすがひとつのあだもない
 鳥取市 岸本 孝子
 昔から綺麗な花だ百合の花
 安来市 原 徳利
 こぼれ種春の出番を知っている
 貝塚市 吉道あかね
 へりコプターさすが現場にもう来てる
 四條畷市 吉岡 修
 さすが妻ビールはいつも冷えている
 尼崎市 近兼 敦子
 ニューヨーク手をつなぎたる妻でした
 唐津市 岩崎 實
 ウエディング白あざやかな勝ちっぷり
 橿原市 居谷真理子
 勝つことはなかった兄とした相撲
 尼崎市 藤井 宏造
 地味を着て光るさすがにいいセンス
 西子市 黒田 茂代

さすが三月風もほんのり桜色	貝塚市	石田ひろ子
日本の四季さすが春です桜咲く	泉大津市	助川 和美
添えた葉も季節を知らず和食膳	出雲市	竹治ちかし
三ツ星の味のさすがは値もさすが	富田林市	中村 恵
さすがには少し嫌みも混ぜてあり	上尾市	中村 伸子
さすがやね褒めたわけではないらしい	大阪市	大川 桃花
死んだかのように死ぬふりする殺陣師	明石市	梶谷 和郎
流石さすが収支決算ゼロにする	松山市	柳田おおる
さすが商人きつちり元は取ってある	和歌山市	福井 菜摘
坊さまの声に合わせて経揃う	四條畷市	吉岡 修
耐え抜いてさすがに膝がゆらいでる	和歌山市	北原 昭枝
カラオケで鍛えたのどは誤嚥せず	香芝市	山下 純子
先生の一つの指摘句が生きる	豊中市	上出 修
母の大きさがさすが戦火を越えた人	羽曳野市	宇都宮ちづる
疲れても笑顔見せてるポランティア	奈良市	高橋 敬子
二位なのにさすがと言われむず痒い	高槻市	松岡 篤
聞き上手笑顔で介護さすがプロ	堺市	楠井 輝子
地味を着て光るさすがにいいセンス	西予市	黒田 茂代
スクープを掴むベテラン記者の冴え	三原市	笹重 耕三
さすががゴッホ目に勢いがほとばしる	海南市	小谷 小雪
さすがです豪快ですと素振り褒め	大阪市	高杉 力
ホールインワン決めたボールがよく喋る	伊丹市	岡村 風琴

さすがですお目が高いと買わされる	大阪市	原田すみ子
フランス産のパターさすがにいい香り	豊中市	きとつこみつ
ここと言う時の男にあるさすが	藤井寺市	太田扶美代
親子です離れていても通じあう	三田市	辻 開子
名人の捨て石あとで効いてくる	鳥取市	岸本 宏章
ノムさんの言葉さすがと死後のこと	河内長野市	森田 旅人
さすががだねって言われまた木に登る	青森市	守田 啓子
さすががだなー浮気をしない夫婦岩	松江市	中筋 弘充
完封へさすがエースの仁王立ち	三原市	笹重 耕三
ピンクシューズ五輪切符を掴み取る	鳥取県	細田 裕花
このところがさすがの人の現れず	神戸市	石川 克美
瞬発力さすがに老いは隠せない	堺市	遠山 唯教
この景気株がどんどん下つてる	宝塚市	太田としお
どう攻めても鋒先かわす安倍総理	丹波篠山市	久保木 剛
会見もさすが安倍さん舌かまらず	東大阪市	秀 伶
気焰万丈さすがの女史も老いに負け	大阪府	米澤 俣子
船旅の夢妻もさすがに口を閉じ	奈良市	高橋 敬子
さすががだな相手チームを称えてる	大山市	関本かつ子
お土産におカネさすがに親である	唐津市	仁部 四郎
さすががドン自らの手は汚さない	鳥取県	斉尾くにこ
水際で水際立ったトランプ氏	横浜市	加藤 佳子
国会答弁鋭く突かれするり逃げ	奈良市	仲西 賛郎

故郷の空気がただが軽くなる

久遠の塔さすが名人宮大工

匠の技向こうが透ける鉋くず

震度8にびくともしれない芯柱

災害で見せた日本の礼儀良さ

さすが日本忘れた財布まで戻る

それから何も聞かずに居てくれる

勝つことはなかった兄とした相撲

ひと言に重みがあつて苦勞人

さすがだと褒めて殺した赤い舌

小振りでも凜と真鯛の姿焼き

汚れてはいるが白には白の自負

賞味期限も消費期限もない私

名人の捨て石あとで効いてくる

負け越しが紙面の見出し羽生九段

地蔵尊さすがだマスクしてない

邪気すべて読経の数珠に包まれる

生きるチエ矢面よりも二番手で

さすがだなと言われヤル気が倍になり

貧乏くじ「さすが」と言われ断れず

ガヤガヤを黙らせた鶴の一声

全方位照らす浮標は母でした

箕面市 中山 春代

和歌山市 佐藤 まき

箕面市 大浦 初音

松山市 栗田 忠士

三田市 九村 義徳

鳥取市 前田 楓花

三田市 上田ひとみ

尼崎市 藤井 宏造

南あわじ市 萩原 裡月

寝屋川市 伊達 郁夫

高槻市 初代 正彦

大阪市 平井美智子

佐賀県 真島久美子

鳥取市 岸本 安章

池田市 太田 省三

堺市 柿花 和夫

生駒市 飛永ふりこ

男鹿市 伊藤のぶよし

豊中市 藤井 則彦

大阪市 大浦 福子

三原市 鴨田 昭紀

岡山市 永見 心咲

名人の腕はさすがを驕らない

板さんのほんに見事な桂剥き

さすがです豪快ですと素振り褒め

さすがだね筆を持ったら震わない

さすがが神社手洗水は惜し気なく

仏前で僧はさすがにマスク取り

ガヤガヤを黙らせた鶴の一声

何しても流石にまでは至らない

行儀のいい鹿だ頭をさげている

さすがは年の功などと喜べず

褒めるとき上司に「さすが」とは言わぬ

母の大きさがさすがが戦火を越えた人

指が離れぬさすが瞬間接着剤

泣きながらでも言うだけのことは言う

さすがに歳だみんな忘れちまった

これだけの食欲さすがが医者いらす

さすがが母ひな飾りには一家言

父のこと全てを母は知っていた

さすがが妻笑みと涙を使い分け

寒梅のさすがを思う口あたり

盃がまわるとさすがが和の一字

吝嗇もすぐに満腹食いだおれ

千葉市 海老池 洋

藤井寺市 鈴木いさお

大阪市 高杉 力

大阪市 高杉 千歩

熊本県 岩切 康子

大阪府 高木 道子

三原市 鴨田 昭紀

鳥取県 竹信 照彦

奈良市 大久保眞澄

堺市 奥 時雄

岡山市 永見 心咲

羽曳野市 宇都宮ちづる

宝塚市 岸田 万彩

大阪市 谷口 義

鳥取市 池澤 大鯨

羽曳野市 磯本 洋一

堺市 澤井 敏治

大阪市 栃尾 奏子

奈良県 渡辺 富子

松原市 森松まつお

八尾市 宮西 弥生

海南市 小谷 小雪

年季ものですねとまずはお賞めておく

嬰鑠と百歳めざす骨密度

力点はさすがなるほど作用点

さすがだな立振舞に出る育ち

タイミンク計り涙を零す美女

継続はさすがに力万歩計

親ツバメ餌の順番間違わず

職人の手は職人の顔をする

さすが真打ち枕の振りで唸らせる

嘶家の扇子の蕎麦に腹が鳴る

金メダル候補が金を獲るすこさ

名人の腕はさすがを驕らない

ミスしてもミスに見せないプロの腕

立行司腰に短刀さすがです

名優の父も名優鷹は鷹

妹の不始末姉の後始末

悪友となら越えられる針の山

リーダーの決断力が物を言う

ベテランの決断さすがが下山する

さすがに歳だみんな忘れちゃった

激昂の風ぐまで聴いて聴いて母

さすがが漁師海を憎んだりしない

岡山市 丹下 凱夫

弘前市 福士 慕情

大阪市 高木 道子

鳥取市 岸本 孝子

大阪市 小野 雅美

鳥取市 上山 一平

岡山市 藤澤 照代

和歌山市 古久保和子

今治市 永井 松柏

大阪市 若本 安代

羽曳野市 吉村久仁雄

千葉市 海老池 洋

堺市 村上 玄也

河内長野市 中島 一彌

富田林市 山野 寿之

枚方市 山口弘委智

弘前市 高瀬 霜石

尼崎市 清水久美子

橋本市 石田 隆彦

鳥取市 池澤 大鯨

下松市 有海 静枝

藤井寺市 太田扶美代

さすが日本忘れた財布まで戻る

鷹の子やさすが合格志望校

さすががウィルス奢るヒト科を巴投げ

さすががだとコロナ対策褒めたいね

立て板に水で斬り込む隙がない

さすがに独りは不便で寂しくて

さすがが母口きかずとも十を知る

ダムに沈んだ村の逸話をおじいちゃん

さすが僧読経のどが持つマイク

さすがが宰相支援の額も桁違い

手柄は部下にさすが社長になる器

アメちゃんてみんな友だち豹の柄

くじけそうになると発破をかける妻

真打は座っただけで笑いとる

アンコールちゃんと準備はしています

ハードルを上げて男が会いに来る

悪友となら越えられる針の山

大先輩すこいと思う鬼百句

遺言のつもりで川柳を書いている

死んだかのように死ぬふりする殺陣師

人間の指先A Iに勝る

金メダル候補が金を獲るすこさ

鳥取市 前田 楓花

大阪市 奥村 五月

河内長野市 村上 直樹

三田市 中山 寅男

札幌市 三浦 強一

羽曳野市 徳山みつこ

堺市 柿花 和夫

大阪市 田中ゆみ子

奈良市 米田 恭昌

唐津市 山口 高明

札幌市 小沢 淳

箕面市 中山 春代

羽曳野市 藤原 大子

大阪市 近藤 正

三原市 堀 正和

佐賀県 真島久美子

弘前市 高瀬 霜石

大阪市 川端 一步

仙台市 月波 与生

明石市 梶谷 和郎

大阪市 藤田 武人

羽曳野市 吉村久仁雄

秀句

秀句

「まぐれ」

(投句 220名)

谷 口 修 平 選



コロナ菌まぐれ訪問ごめんです
夕立の雨宿りからウエディング
知らぬ間に癌を消してる能天気
シャッターを切ったら撮れた流れ星
まぐれではない遠からず来る地震
ツーンアウト代打満塁ホームラン
まぐれとは言わせぬ汗が光ってる
あの弾を避けて私の今がある
運不運まぐれ当たりもあるこの世
ビギナーズラックそのまま抜けぬ足
まぐれでも抜けた句じわり光だす
たまたまの出会いさだめとなる絆
合格はまぐれ卒業見込みなし
五〇億たったひとりに逢うまぐれ
気紛れに恋などしては罪になる
三子ともんぴはとんぴまぐれなし
まぐれでも盗んでならぬ人の恋
六十年前一度だけ百点
マラソンにまぐれなどない新記録
はんなりと悲しみつつむ夕まぐれ

鳥取市 大前 安子
八王子市 川名 洋子
神戸市 奥澤洋次郎
堺市 澤井 敏治
犬山市 関本かつ子
三田市 九村 義徳
和歌山市 福井 菜摘
宝塚市 丸山 孔一
男鹿市 伊藤のぶよし
河内長野市 大島ともこ
河内長野市 穂口 正子
堺市 遠山 唯教
札幌市 小沢 淳
神戸市 山崎 武彦
鳥取県 竹信 照彦
米子市 池田 美穂
三田市 福田 好文
大阪市 江島谷勝弘
神戸市 富永 恭子
池田市 上山 堅坊

こんな所鳥の気まぐれ植えてある
紛れでも纏る気持ちの百度石
竹とんぼ狙い通りの着地点
手術成功まぐれだと言う執刀医
気まぐれな女神試合をもつれさす
まぐれではできないギネス新記録
まぐれじゃない一途だったと青い道
まぐれでは出来ぬと褒めて育て上げ
まぐれ当たりを怖れて買わぬ宝くじ
大臣のポストまぐれで当たったが
気紛れをモナリザの目に咎められ
まぐれでも褒められ殻を破る意気

住 句

まぐれでも勝てば自信が湧いてくる
まぐれでも頂いた賞返さない
こぼれ種きれいな花が咲きました
ビギナーズラック無欲にやってくる
まぐれだと謙遜すれば頷かれ

豊中市 藤井 則彦
神戸市 上田 和宏
西宮市 高橋千賀子
鳥取県 門村 幸子
大阪市 小野 雅美

気まぐれな風とワルツを踊る蝶

河内長野市 中島 一彌

まぐれではないぞと父は儀打を打つ

大阪市 平井美智子

天

四御代の激動生きてきた命

和歌山市 土屋起世子

軸

気まぐれな旅で見つけた青い鳥

「ペット」

(投句 225名)

米澤 俣子 選



散歩するペットの名だけ知る仲間
 増えるのはペットの医者と家族葬
 愛敬が決め手です僕もペットも
 三人の孫の馬にもなつてやり
 柴犬もマスクをつけて散歩道
 僕よりも医者代かかろうちの犬
 医療費控除ほしいペットの手術代
 母親のペットのままで独り者
 老犬がだっこをねだる立ち話
 独り居におしゃべり相手オウム飼う
 わたくしにとつて孫娘はペット
 険悪な空気読む猫家を出る
 父ちゃんの食事は犬が済んでから
 五歳児のペットはなんとだんご虫
 双方の愚痴を黙って聞くペット
 ご時世か人間並みのペット葬
 叱られたねこ横着な大欠伸
 飼い主に似て番犬がよく吠える
 過去帳にポチの名も書く愛犬家
 ペット化の妻はゴロゴロ胡猫となる

河内長野市	坂野 澄子
三田市	北野 哲男
海南市	小谷 小雪
鳥取市	岸本 宏章
八尾市	山根 妙子
三田市	堀 正和
犬山市	金子美千代
岡山市	大石 洋子
熊本県	岩切 康子
八幡市	今井万紗子
藤井寺市	鈴木いさお
三田市	福田 好文
大阪市	坂 裕之
大阪市	江島谷勝弘
弘前市	高瀬 霜石
東大阪市	佐々木満作
堺市	遠山 唯教
大阪市	田中ゆみ子
堺市	坂上 淳司
岡山市	永見 心咲

何事も無かった顔のブルドッグ
 野良ネコの自由奔放乞うペット
 散歩して犬友出来て広がる輪
 靴音に座り直して待つペット
 人間と同じ病気をするペット
 おかしいなあ俺の悪口言うインコ
 愛犬と長生きくらべしています
 マンションの最上階で亀と住む
 ええとこの猫わたしよりグルメ通
 なりゆきで飼ってる猫のでかい顔
 アニメからブームにされたアライグマ
 さすがいが子からペットの老いふたり

住 句

ブランドの服着た犬に譲る道
 めすに生まれかわいそうだねブルドッグ
 貰い手がついた小犬が惜しくなる
 老猫が涙の訳を聞きに来る
 向き合うと猫の視線に負けている

人

去勢した猫と聴いてる春風
 人間をにやあ一声で手なずける
 妻という大型ペット飼っている
 年の差婚若い夫はペット並み

堺市	内藤 憲彦
富田林市	山野 寿之
大阪市	原田すみ子
犬山市	関本かつ子
堺市	村上 玄也
河内長野市	藤塚 克三
香芝市	大内 朝子
奈良県	渡辺 富子
羽曳野市	徳山みつこ
大阪市	古今堂蕉子
松原市	森松まつお
堺市	澤井 敏治
大阪市	平井美智子
富土見市	中島 通則
横浜市	菊地 政勝
三田市	上田ひとみ
土佐清水市	辻内 次根
橿原市	居谷真理子
豊中市	水野 黒兎
堺市	奥 時雄

初歩教室

題一坂

高瀬霜石

これを書いているのが、3月上旬。

この時点で、まだ青森県に新型コロナウィルスは上陸していない。していないが、都会に合わせて、会合はほとんど、中止か延期。

コレが活字になって、皆様の手に届くのは5月の頭ですよ。実は僕、4月5日の「春はくろぼこ大会」で選者に指名されていたので、鳥取に行くつもりだったのですよ。

そして、その帰り道。大阪に寄って、7日の「本社4月旬会」にお邪魔する予定だったのですよ。前から、居谷真理子さんから誘われていたこともあってね。11日には、東京で「きやり100周年記念大会」もある。結構長い旅になるなあ——なんて思っていたところに、このコロナ騒ぎでした。

鳥取は怖くないけど、新幹線が怖くてね。結局、全部キャンセルしたのでした。

今回の題は「坂」。「坂上がり」が何句かあった。当たり前だが「逆上がり」が正しい。

生命保険会社の宣伝文句「まさか」も、結構あった。残念ながら「コロナ」と「まさか」の組み合わせはなかったのが、チト残念。

①まずは、初歩の初歩。上と下を入れ替えてみる。(▼が原句。▽が参考句)

▼マイホーム五十の坂こえ登り着く 嘉昭
上と下を入れ替える第1の目的は、下五に落ち(落語の落ちと一緒)を持って来て、報告書から一転、ドラマチックな句にする。こと。これに尽きる。分かっただけ。

▼五十坂越え手に入れるマイホーム
▼老いの坂エンジンブレーキかけて行く 令位子
この句の肝は、勿論、エンジンブレーキ。だから、こは、あえて、上に持ってきて。

▼エンジンブレーキ上手にかけて老いの坂
▼古稀の坂登る踊り場ストレッツチ 睦子

▼踊り場でストレッツチする古稀の坂
▼富士登山なしとげたなら御来光 ゆき

▼御来光目指して挑む富士登山
▼八十路坂のぼる天国すぐそこに 由紀子

▼天国はすぐそこらしい八十路坂

▼最終章ギアをローにし下る坂 通則

この句の肝は「ギアをロー」。これを、どこに持ってくるかが鍵だ。落ちは、下五と、何度も言ってきたが、こはあえて、上五に持ってきた。勿論、異論は大いにある。

▼ギアはローゆつくり下る最終章

▼八十路坂百歳迄の通過点 正美

「百歳(ももとせ)」という語感もいいし、もっと効果的に使いたいの、頭が重くなるが。

▼百歳迄の通過点たる八十路坂

▼柿の木坂懐かしく瀬戸想う過去 眞智子
リズムがよくない。「過去」はカット。

▼瀬戸想う柿の木坂が懐かしい

▼二階への昇り降り息きれぬ 英也

この句も一緒。リズムが悪い。「息きれぬ」あまりに当たり前。せめてこれくらいに。

▼筋トレになる二階への昇り降り

②余分な言葉をカットして、なるだけシンプルな五・七・五にまとめる。

▼坂道が身体丈夫にしてくれる 泰宏

▼坂道がほくを丈夫にしてくれる

▼心臓の鼓動坂道耐えている 一平

▼わたくしの心臓坂によく耐える

▼米寿から目前卒寿ころび坂 貴美江

面白い句。しかし、ここはあえて「ころび坂」をカット。「坂」の字が、句の中になくても大丈夫。米寿から卒寿は、坂道です。

▼米寿からすぐ目の前にある卒寿

▼思いよう上り下りも坂に夢 一 弥

▼思いよう下り坂にも夢がある

▼亡父母も越えたこの坂卒寿坂 勝正

勝正さんちは、長生き家系でいいですね。

▼亡父母と一緒に越えた卒寿坂

ここは「亡」を取ってもいいと、僕は思う。なぜなら、作者が高齢なんだから、当然のこと、作者のご両親は他界している。

▼キャッシュユレス八十路の私現生で (東美智子)

ここは頭が重くなつてしまふけれども、

▼八十路の私と肌の合わないキャッシュユレス

③この言葉でいいのか、もう一度考えてみる。

▼坂道を転げる様にデブくなる 厚 江

自分のことだからいいとも思うが、やはり

「デブくなる」は美しくない。素直に。

▼坂道を転げる様に太り出す

▼喜寿の坂よくぞここまで生きてきた ひでお

「生きてきた」を、使つてはイケマセン。

というのは——下五を「生きている」とか

「生きてきた」にすると、みんないい句に見えるってしまうのだなあ。騙されるんだなあ。

だから、ここは「生きてきた」にすると、いい句になるぞと思つても、あえて我慢。

▼喜寿の坂よくぞここまで頑張つた

④シンプルな句に仕上げるために、時には、

リフレインを。

▼浄土への坂開き直つてマイペース (川信子)

「開き直つて」を、あえてスツパリ切つて。

▼浄土への坂マイペース・マイペース

▼八十路坂まだまだ登る元気ある 風 露

▼八十路坂まだまだ元気まだ登る

▼苦渋坂登りつめ令和の春 マユミ

苦渋か苦汁かはさておいて、リズムがねえ。

▼苦渋坂登り登つて令和の春

▼登り坂また登り坂だんまりで (高道子)

リフレインはいいのだが、下五がねえ。

▼あなたも無口わたしも無口登り坂

○は佳句。○は優秀句。

○ひとつずつ肩の荷下ろす老いの坂 民子

○参詣の母の手を引く女坂 行久

○登り坂見上げも一度深呼吸 (藤廣子)

○天満宮お礼まいりはおんな坂 閑

○憧れの家が建つてる坂の上 紀美代

○自分史への自問自答の坂登る (澤良子)

○この坂をのぼれば景色変わるはず のぞみ

○人間も兎も亀も登る坂 もとこ

○坂の上雲があるなら掴みたい マキコ

○神参り坂道登る汗も神 ミヨノ

今回の卒業生は2人。1人目は、横浜の長

島亜希子さん。おめでとう。

○頂上からの景色見たくて坂登る 亜希子

○山坂も越えてゆっくり下山中 亜希子

○急な坂越えればゴール待つている 亜希子

これでお分かりですか。○がないでしょ。

つまり、亜希子さんはそつがない優等生タイプ。欲を言うと、イマイチ個性に欠ける

か。亜希子さんのこれからの課題は、もつ

と積極的に冒険をすること。十分にお上手

もう1人の卒業生は、富山の伴よしおさん。

○おしゃべりが長く続かぬ坂の町 よしお

○絶好調坂が平地に見えてきた よしお

○石段を登り切つたら明日が見え よしお

○「省略」がピリツと効いていて、上手い。

卒業が遅すぎた。これからは「水煙抄」や

「二路集」で、大いに活躍ください。

川柳塔鑑賞

同人吟 早川 遡行

— 4月号から

クルーズ船を幽霊船にするコロナ

伊藤 寿美

横浜大黒ふ頭に停泊した「ダイヤモンド・プリンセス」号の三千七百人は、どんな気持ちだったか想像すると、密室のなかの幽霊船であったのかも。

お気の毒らしいはずの船の旅

平賀 国和

普通の人では乗船できない、恵まれた人たちだけの豪華客船、きつと豪華な食事をして至れり尽くせりの接待の中で、贅沢を満喫していたことだろう。

目に見えぬ菌に脅えているマスク

松尾 柳右子

ウイルスは目に見えないだけに恐ろしい。マスクしないで電車に乗り咳をした男性が暴行を受けた事件も報道され、世間を驚かせた。

コロナ菌で泣くに泣けない観光地

山下 凱柳

入国禁止で世界からの観光客が激減、観光地はガラガラ、温泉地は勿論、学校も休校。スポーツ、イベントがすべて延期ないし中止となり今年の花見も自粛傾向に。終息する気配が全く見られない。

クルーズ船新型コロナ騒然と

七反田 順子

香港保健所から「船内の消毒をしたほうがいい」と警告を受けた。にも係わらず清掃だけして、パーティーやオペラ鑑賞など何の制限もなく、船内を自由に楽しんでいたというから驚きだ。初期感染のこの時に厳しく対処していれば、日本への侵入は防げていたかもしれない。

憧れのクルーズ船がプリズンに

山端 なつみ

乗船者の半数以上が日本人であったため、入港を認めないわけにはいかなかったのだろう。その後停泊したまま船内に監禁状態となり、防護服の検査官に監視され、あたかも果鴨プリズンのようであったのだろうか。

はやばやと武漢へとんだチャーター機

まえで とよこ

日本人救出のためいち早く武漢へ。

中国湖北省で発生した「新型コロナウイルス」の拡散で、世界は今大変なことになっている。川柳塔三月句会も取り止めとなり、高校野球が中止、大相撲春場所も無観客で行われている。

人類の歴史は細菌との戦いである

目に見えぬウイルス地球儀を回す

山岡 富美子

日に日に拡大していく感染国。世界的な規模で拡散し、今やヨーロッパがその中心になっている。特に中国と「一带一路」で協調していたイタリアは、爆発的な感染により中国を追い越す勢いで増加、今や危機的な状態に陥っている。

歓迎できぬウイルス海越えやつて来て

山口 美穂

一月二十日横浜を出港したダイヤモンド・プリンセス号。途中香港で下船した八十代の男性（死亡）が新型コロナウイルスに感染していたことが判明。

どの国もマスク姿のすさまじさ

榎本 日の出

マスク、手洗い、を推奨していたのは、中国、韓国、日本が主だったのが、今では世界中の人がマスクを着用するようになり、特にヨーロッパでは日本と同じ、マスクもトイレットペーパーも手に入らないという状態が起こっている。

目で物言うマスクの群れに紛れ込む

大石 洋子

マスクをしなさい、一メートル以上離れなさい、握手してはいけません。手で目、口、鼻を触ってはいけません。手洗いを入念にしなさい、と繰り返し要請。

買えぬマスク布団に潜るしかないか

中村 金 祥

「十万円を払えばコロナ感染が終息するまで、毎月市から一定のマスクを配布する」と、市の職員を名乗る男の詐欺未遂事件も発覚している。

右往左往世界に遊ぶ細菌よ

坂部 紀久子

各国が、ウイルスを遮断しようとし必死である。日本も三十八か国のビザを無効とし、入国を制限する処置をとっている。

新ウイルス威張りマスクは品不足

近藤 正

コンビニでは、一箱六十枚入りのマスクが、一万六千九百円で売られ、浜松では市の議員が、手持ちのマスク二百枚入り一箱を十七万円でネット販売し、八百八十万を手にしていたと分かり、市民から怒りの批判が集まっている。

感染が二次も三次もある怖さ

多田 雅 尚

愛知県蒲郡市で、ウイルスに感染して自宅待機の指導を受けていた五十代男性（死亡）が、「ウイルスをばらまいてくる」とパブへ出かけ、三十代女性に感染させる非人道的な事件も起こっている。

ウイルスが世界を蓋い世も末か

長谷川 善 輔

ドイツのメルケル首相は、人口の60%以上が感染する恐れがある。これは第三次世界大戦である、と驚きの発言をして国内の引き締めを強化している。

コロナウイルス世界が一つになれる敵

敏 森 廣 光

今こそ世界が一つになって、新型コロナウイルスと戦う時である。

世界を股にあばれまわっているコロナ

村上 ミツ子

健康システムが脆弱なアフリカの国々に拡散して、爆発的に増加することも懸念される。そんなことにでもなったら人類滅亡の危機である。

ウイルスでヒト科絶滅する予感

福田 好 文

世界百三十か国以上、三十万人以上が感染、死者も一万三千人を超え、ヨーロッパは手の付けられない爆発的狀態にある。WHOがやっと「パンデミック」を宣言。世界中が国家非常宣言を発表。

コロナウイルスで右往左往の五輪前

奥田 由 美

日本はあくまでも開催の方向で、聖火もすでに到着している。日本の態勢が整っていたとしても、世界が危機的な状態の中では開催は難しいのでは。

オリンピックをウイルスが脅かす

奥澤 洋次郎

今のところIOCバツハ会長は「開催に向け全力で頑張っている」と言うが、各国からは延期の声が増しに高まってきている。（以上三月二十三日現在）

水煙抄鑑賞

—4月号から

西田 美恵子

萎んだら空気を入れてあげるから

吉道 あかね

この所すつかり萎んでしまった笑い袋、夢をいっぱい詰め込んでいた袋、おまけに財布代りに使っているあの中着まで、ペシヤンコ。お願いあかねさん、空気と言わずお金もたっぷり入れて下さらないかしら。

嬉しい日いつも赤飯たいした亡母

若松 由紀子

私の亡母もそうでした。春は菜の花のちらし寿司、山菜おこわ、秋は栗たつぷりのおこわ、嬉しい日は勿論赤飯よ。

「えっ今日は何の日、何の日」と尋ねたものです。ちょっと塩の効いた亡母の赤飯は、今も真似の出来ない一品です。

焼芋が甘くなります新聞紙

郷田 みや

え！ 焼き芋って、新聞で包むと甘くなるですって！ 知らなかったわ。

それじゃあうちの主人も、風呂上りのホカホカの身体を、新聞でくるんでやるうかな。今でも私に甘いのに、もつと甘くなるかも知れない。楽しみ楽しみ。

ゴミ置場山と積まれた学術書

中島 道則

安い給料の中から月賦で買った、重くて大きい百科事典、あれ幾らしたかな。

洋間を造って飾りのように並べて、我慢だった本が、今では邪魔で仕方が無い。今は広辞苑一冊、パソコン一つあれば事足りる時代。学術書も用済みとなると、哀れなものですね。

川柳は我が人生の日記帳

篠原 紋次郎

何をしていてもリズムは五七五

常國 喜好

今までの私の作句帳を開いてみると、まるで日記を読んでいる様な気がする。

辛かった時、悲しかった時、嬉しかったり悩んだり全てを川柳にして来た。紋次郎さんも同じなんです。散歩してもお茶を飲んでも、五七五のリズムで動い

ているのよね。ちなみにこっそり教えましょうか、私の愛車ナンバーはね五七五なのよ。どう喜好きさん参ったかしら。

君を引つこぬく溶けそうだったから

大内 せつ子

せつ子さんが手を出してくれなかったら、私はきつとダメになっていた。あきらめと絶望の中で、心が溶けそうになっていたわ。引き抜かれてハツとしたの。もう一度やり直そうと。ありがとう。

おもちゃ箱巢立っていった広い部屋

花岡 順子

一番良く分かるのがピアノ。あの一台のお陰で、どれだけ部屋を狭くしていたか。嫁ぐ時一緒に持って行ってくれたから、本当に助かったわ。今は主人がパソコン置いて我が物顔で使っている。

誕生日はがす鱗もあと少し

小畑 定弘

子供の頃は、早く大人になりたいと思っただわ。何回も誕生日を重ねてくると、一抹の淋しさを感じるのには私だけか。残りの鱗がいぶし銀のように光っていて、愛おしく切ない。



追悼

中川ひろ介さん

吉村 久仁雄

ベントツ飽き次は電動車椅子
棺に釘じたばたしてももう遅い

ひろ介さんのこの二句は、「川柳あまがさき」の句会で昨冬、二カ月連続で得た最優秀句です。おかしみの中に寂しさがただよ、彼岸への覚悟を語っているように……。

多くの句会に参加して、川柳を楽しみながら学んできたひろ介さん。これからの活躍を期待し楽しみにしていたのに残念でなりません。同じ居住市、同じ団塊世代の僕にとって哀しさが募るばかりです。ひろ介さんは、寡黙で口下手です。思いが先走るのは、意味のとりにくい発言もありました。でも本人は平気です。これはもう、誰はばかることのない個性、人懐っこい笑顔とともにひろ介さんの特徴でした。

ひろ介さんはむかし黒門市場で食材店を営んでいました。大阪人からは一目お

かれるあの黒門です。機会があり、市場を二人で歩いたことがあります。柄の大きいひろ介さんはなるほどこの場所が似合う男だと妙に合点したものです。

料理、習字、絵、カラオケなど多才な人でした。昨年の川柳塔まつりの懇親会では、最初の歌「まつり」をひろ介さんが買って出て熱唱しました。

また、兼題・選者などの墨書を二つの句会で引き受けており、私達はびきの市民川柳会もその恩恵に預かっていました。次の句は「川柳塔誌」に最近掲載されたひろ介さんの句です。

古梅咲くここに都があつたころ
冬ざれたビル谷間に鳴る第九

中村医師に続げ平和を受けつぐ子
この星の汚点クレタにしかられる

高野楨杉借景に合祀祭

かわいい目で見つめられると弱い僕
美しくなくてはならぬ毒きのこ

城崎で蟹食べないで去る無念

悠然と生きて明日へ弾む足

風の言葉拾い集めて一行詩

幸せは手造り野菜盛るサラダ

五欲まだ重たい古希の頭陀袋

ぬけうらの影を選んで行く日傘

大漁の大正海老はいまいずこ

深呼吸借りた命と今気付く

幅広いテーマ、抒情豊かというひろ介

さんならではの句です。これからますます磨きがかかってくることでしよう……。

次の二句は「テモテ川柳会」の句報に

載ったものです。

来世でもきつと貴女を選んでる

人の手はつなぐかたちに作られた

一つめの句は、奥様への感謝を、川柳

だからこそ思い切つて表すことが出来た

のだと思います。

二つめの句は、キリスト教徒としての

慈愛あふれるひろ介さんらしい句です。

誘われたら、頼まれたら断れません。教

会への送り迎えの運転手となり、催しで

は料理人となり、僕たちには見えなかつ

た優しさに満ちた人でした。

そうか、僕の手のかたちも、光と喜び

のみ国にいるひろ介さんとなつなぐために

作られたのか……。

第八回 春の川柳塔まつり誌上大会

第8回春の川柳塔まつり誌上大会に際し、全国から745名のご参加を戴きました。有り難うございました。また貴重な誌面に誌上大会要領をご案内、ご掲載賜りました各川柳社、個人的にそれぞれご支援、ご紹介くださいました皆さまのご厚情に心よりお礼を申し上げます。

ご投句戴きました作品は、無記名の句箋のまま6人の選者に送付し、選句をお願い致しました。お忙しい中をご選句戴きました選者の皆さまに深く感謝申し上げます

入選作品は各題とも平拔 111句、秀句 10句、特選 2句、計123句です。なお各題特選にはささやかですが賞品をお送りいたしました。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、川柳活動も儘ならぬ昨今ですが、体調管理に充分ご留意の上お過し下さい。

各 題 特 選 句

自 由 吟	許 す	窓
<p>小 島 蘭 幸 選</p> <p>カラヴァッジョ展出てしばらくは鯉呼吸</p> <p>銀河鉄道の切符下さい逢いたい</p>	<p>梅 崎 流 青 選</p> <p>一切空許すつもりの靴を履く</p> <p>許し合う心へ煮凝りが溶ける</p> <p>安 土 理 恵 選</p> <p>水に流せないから水を飲んでいる</p> <p>許されて春には父に母になる</p>	<p>森 山 盛 桜 選</p> <p>人間の窓だ格子が付いている</p> <p>北向きの窓に平常心がある</p> <p>みぎわ は な 選</p> <p>生れ立ての朝を窓から贈られる</p> <p>人生の窓は自分の手で開ける</p>
<p>片岡 加代 選</p> <p>ふり返るかすかに道ができている</p> <p>戦争を忘れましたか被爆国</p>	<p>大 阪 片岡智恵子</p> <p>大 阪 永井 松柏</p> <p>大 阪 谷口 義</p> <p>茨 城 樫村 日華</p>	<p>茨 城 佐瀬 貴子</p> <p>三 重 小河 柳女</p> <p>茨 城 樫村 日華</p> <p>兵 庫 大黒 政子</p>
<p>大 阪 西出 楓楽</p> <p>大 阪 内藤 憲彦</p>		
<p>愛 媛 兵頭 俊子</p>		

窓

みぎわ はな 選

眠れない窓です恋を知ってから
 子の帰り全開で待つ母の窓
 窓際が過ぎれば次は御退職
 アレグロもアダージョもある窓の雪
 病窓を明日が見えるまで磨く
 茶封筒手渡ししてきた汽車の窓
 頬杖の似合う窓辺のいい時間
 窓叩く風と問答する独居
 病窓の独りを癒す四季の詩
 メールきて心の窓が乱反射
 東京は窓なき部屋に四年間
 こだわりを捨てた出窓が透きとおる
 ガタビシの窓で嵐に立ち向かう
 窓際で自分自身をとり戻す
 翔ぶならば今だと窓を開け放つ
 内証内証月が窓から覗き込む
 老いてまだピーター・パンを待つ窓辺
 西日さす部屋で愛憎おわらせる

愛媛 西田美恵子
 兵庫 藤原 紘一
 京都 北野クニオ
 和歌山 三宅 保州
 兵庫 谷口 修平
 佐賀 仁部 四郎
 岡山 木下 草風
 千葉 海老池 洋
 青森 白取ひでお
 三重 北田のりこ
 大阪 堂本 秀爷
 石川 新保 芳明
 島根 眞野 吞舟
 兵庫 太田としお
 静岡 小林ふく子
 広島 岩本 笑子
 青森 高瀬 霜石
 大阪 阪本 秀子

窓際で懲りぬ男が爪を研ぐ
 百万弗の夜景泣く窓笑う窓
 曇りガラス恋と言う字を指で消す
 秘密などないから窓を開けておく
 その先を問うから窓が閉じられる
 窓際に魂ぬけた跡がある
 古稀の春許せる窓が広くなる
 明日の窓に青い鳥からの便り
 愛を待つ灯がああ窓もこの窓も
 窓明かり友の無事知るパロメーター
 ホスピスの窓から消えてゆく夕陽
 だまし絵の窓に映っている平和
 どんな日にしようか今日の窓開ける
 人間の窓だ格子が付いている
 照る日曇る日心の窓は伸び縮み
 傍観者でいさせてくれる窓ガラス
 窓ぎわが好き流れゆく雲が好き
 一本の徳利互いの窓をあけ
 ひとり走る夜道木枯し窓たたく
 文春が社会の窓をこじ開ける
 コロナウイルス世界の窓が閉じられる
 アパートの窓に小さな鯉のほり

兵庫 山崎 武彦
 大阪 土田 欣之
 愛知 山本三樹夫
 島根 松本 文子
 愛知 高浜 広川
 大阪 太田扶美代
 岡山 河相美代子
 大阪 古今堂蕉子
 広島 伊藤 寿子
 大阪 源田八千代
 青森 福士 慕情
 大阪 澤井 敏治
 兵庫 成定 竹乃
 茨城 檉村 日華
 鳥取 吉田 陽子
 奈良 居谷真理子
 大阪 中村 峰子
 奈良 長谷川崇明
 大阪 吉岡 修
 沖縄 多良間典男
 大阪 大川 桃花
 大阪 日野 愿

心の窓いつでもどうぞおししゃべりに

西窓の斜陽わたしの殻を脱ぐ

○△□いろいろな窓に棲むヒト科

鬼も福もおいで窓なら開いている

はやぶさ2宇宙の謎の窓開ける

力にはなれぬが窓は開けておく

好奇心抑えきれない覗き窓

たくましく生きてみせるぜ窓際で

カーテン開け生きていますと老いの窓

いい知らせ空が大きな窓になる

窓全開敵も味方も受け入れる

窓に猫いる家がハセガワさんち

窓開けようそこまで来てる青い鳥

小窓から性善説が抜ける音

終電の窓に切ない鬼の貌

相談の窓口丸い顔がいい

ひこうき雲君は自由の線を引く

窓際に百科事典が落ちている

底辺が見えぬ高層ビルの窓

窓閉める腹立たしさを音にして

被災地の窓の灯を見る安堵

AIが切れる男を窓際へ

大阪 石橋 直子

大阪 荻野 浩子

愛知 伊賀 武久

奈良 大久保眞澄

和歌山 石田 隆彦

奈良 小林すみえ

大阪 小山 太一

兵庫 田本 古鈴

広島 元吉 慶子

鳥根 相見 柳歩

兵庫 前川 淳

兵庫 長谷川善輔

鳥取 山下 凱柳

兵庫 富永 恭子

大阪 吉道航太郎

大阪 吉道あかね

大阪 玉山 智子

奈良 木嶋 盛隆

愛知 本多 雅子

岡山 小野美那子

大阪 坂上 淳司

兵庫 七反田順子

小窓から小つちやな春が迷い込む

母の窓いつも灯りが点つてる

窓少し開けております一人です

ケータイの窓に吸い取られる時間

忘却と言う哀しみ捨てる窓がある

指で窓つくつて視野を狭くする

現実と理想隔てる窓ガラス

カーテンはピンク幸せそうな窓

窓のない部屋から見えるまつりごと

守宮から窓ドンされる夏の夜

窓開ける好奇と勇気の遣唐使

病窓をよぎった魔女の竹ぼうき

裏窓から聞こえる人生の悲哀

夜の小窓にそつと秘密が降りて来る

戯れをせんとや窓を開け給え

窓のない部屋で見ていた雪景色

窓のない部屋でふくらむ猜疑心

窓口で幸せ行きの切符買う

窓際で恨み辛みの社史を編む

人はみな我が窓からの世を見てる

まどろみの窓でコントラパスになる

底辺の窓から覗くパラサイト

大阪 井澤 壽峰

大阪 伏見 雅明

広島 山本 恵子

大阪 前原 正美

鳥根 小沢沢歌子

新潟 相田 柳峰

山口 田中 博美

大阪 片山かずお

京都 西山 竹里

岡山 市田 鶴邨

岐阜 矢野五十二

宮城 菅野 實

奈良 五味 尚子

大阪 森 廣子

和歌山 木本 朱夏

和歌山 川上 大輪

兵庫 長島 敏子

京都 武田 悦寛

兵庫 池野 英坊

大阪 西川ひろし

大阪 鈴木 かこ

奈良 竹永 広義

本開く古人と語る知恵の窓

窓際に座れば内も外も見え

窓際へ椅子も他人の顔をする

晩学の窓をスマホが開けてくれ

独り居に窓打つ雨も友となり

見送ってくれていそうな窓明かり

窓の露ツンみぎひだりみぎあみだくじ

覗けない風呂やトイレに窓が無い

円窓に恋してしまふ春の雪

木洩れ日の窓でシクラメンの欠伸

頁繰るたびに拡がる窓がある

病室の祈りが天空の窓開く

反転で車窓に書いたアリガトウ

つぶやきに本音をかえず窓明り

窓際になつても笑顔絶やさない

窓際と初めて知つた赴任先

雲ふわりおとぎ話の好きな窓

和解した窓は三百六十度

窓の灯が幸せ色でほっとする

自分史の窓から見える蛇行跡

窓開けてプラス思考を引き寄せる

不機嫌な窓だ汚れたままである

和歌山 小林 八茶

兵庫 山口 美穂

大阪 片岡智恵子

福井 伊藤 良一

大阪 桑原ひさ子

兵庫 中岡千代美

大阪 道家えい子

兵庫 鈴木 新録

大阪 赤松ますみ

鳥取 宮田 風露

大阪 山岡富美子

大阪 藤村 亜成

大阪 関 よしみ

愛媛 月原つくし

大阪 岩佐ダン吉

鳥取 武良 銀茶

京都 森田 律子

静岡 佐野由利子

神奈川 加藤 佳子

秋田 伊藤のぶよし

大阪 小野 雅美

鳥根 澁谷由紀子

窓際の男が今日は髭を剃る

わたくしの窓は川柳かも知れぬ

窓開けよ 拉致被害者の母の声

あのビルもまだ帰れない窓明かり

虎の尾を踏んでから窓際の椅子

窓のない三畳大志抱いていた

秀句

好奇心あしたヘジャンプ窓開ける

難民が探し求める愛の窓

窓のない部屋で青空を探す

空映す窓をいちまい子に遺す

問題になると窓際呼びに行く

窓開けて善玉菌を撒いておく

ああ独りスマホの窓をまた開ける

ステンドグラスよ払拭したいことがある

職安の窓にも憂い昼の月

カーテンを降ろして窓を休ませる

特選

生れ立ての朝を窓から贈られる

人生の窓は自分の手で開ける

軸吟

磨硝子平和世界の蜃気楼

兵庫 米田利恵子

岡山 高木 勇三

広島 石原 淑子

奈良 菱木 誠

岡山 藤澤 照代

愛媛 永井 松柏

福井 島田千代子

長野 武田 香風

大阪 中川 拓真

福岡 梅崎 流青

広島 松尾 信彦

鳥取 石井 華蓮

兵庫 妻木寿美代

兵庫 上野多恵子

徳島 小畑 定弘

佐賀 横尾 信雄

茨城 佐瀬 貴子

三重 小川 柳女

窓
森山盛桜選

人間を迎えるために窓を拭く

窓付きの核シェルターはありますか

窓の外やつぱり居ない雪だるま

窓開けて光と風でアドレナリン

二重窓夫婦喧嘩は派手にやる

日向はこ窓辺の猫は哲学者

数珠かけてみんな拌んでくれる窓

春夏秋冬おんなの窓はラブが好き

窓際に座ると見える人の情

トンネルで車窓に写る老いながめ

地球の窓は全開風は吹き抜けた

新幹線車窓の富士は今日の吉

窓開ける寝呆けた月と目が合った

病窓に順番のない日を終える

ディスプレイジャー黒塗りの窓ご覧あれ

窓全開昨日と違う朝にする

窓叩く風は彼の人喪服脱ぐ

窓際で新聞読むと昼になる

さよならをするとき逢いたくなる窓辺

窓たたく木枯し亡母を連れてくる

どんな日にしようか今日の窓開ける

百万弗の夜景泣く窓笑う窓

見るために見られるために窓を拭く

一身上の都合で窓になりました

襟正す明日は我が身と知る窓辺

窓際の机に積んである誤算

窓の稲妻病に勝てというエール

視界不良それでも窓は南向き

にこにここと過ごす掃き出し窓の際

ポジティブな心が出窓から覗く

窓際に置いた辞令は花の束

単線の窓ピユアな心を取り戻す

夕映えの窓晩年の片想い

少女期の羽化を窓から解き放つ

猫の鈴一つ聞こえて窓開ける

冬からの回り舞台は春の窓

窓少し開けております一人です

窓開くまぶしい海がそこにある

私へのご褒美なのか南窓

熊本 中原たかお

鳥取 前田 楓花

鳥取 岸本 孝子

兵庫 成定 竹乃

大阪 土田 欣之

山口 山本 一

鳥根 藤井 寿代

奈良 中森 勝代

広島 笹重 耕三

兵庫 村岡 義博

和歌山 福井 菜摘

佐賀 坂本 蜂朗

愛媛 井元由喜子

兵庫 平松 直樹

広島 瀬戸れい子

鳥取 新家 完司

青森 白取ひでお

岡山 紫 しめの

大阪 山野 寿之

広島 山本 恵子

鳥取 西浦 小鹿

愛媛 山内もとこ

天窓に僕と宇宙の無限大

窓開ける山の向こうが気に掛かる

AIが切れる男を窓際へ

後悔の窓を開けたら赤い舌

格子窓昭和の恋のかくれんぼ

大落暉くれるから好き西の窓

だまし絵の窓に映っている平和

窓際も賞味期限があるらしい

降り込んでいるのに何も言わぬ窓

メルヘンが生まれる雪の日の窓辺

マンションへバズルのような窓明り

北窓を開けて不条理解き放つ

恋するとなぜか窓辺が指定席

泣いたりしない暖冬の窓ガラス

窓を開け私の鬱を引き剥がす

西日さす部屋で愛憎おわらせる

窓開ける春の気配に耐えきれず

戦など知らない窓と暮らす幸

窓際をかたちにすれば籠の鳥

寒いから心の窓も二重です

天辺の窓は閉めてはなりませぬ

メルヘンの窓から届く玉手箱

大阪 栃尾 奏子

兵庫 中村 孝子

兵庫 七反田順子

大阪 久保田清美

岡山 大石 洋子

茨城 佐瀬 貴子

大阪 澤井 敏治

兵庫 九村 義徳

兵庫 梶元 世津

愛媛 永井 松柏

東京 安澤 教子

奈良 加藤江里子

愛知 小松くみ子

大阪 オカダキキ

岡山 清水 克俊

大阪 阪本 秀子

大阪 高木 道子

島根 竹治ちかし

石川 岡本 聡

青森 稲見 則彦

兵庫 緒方美津子

大阪 鶴田 寿子

順光の景色が見える北の窓

窓ひとつ隔てて動く世間見る

古稀の春許せる窓が広くなる

天窓で絵画になったお月さま

自分史の窓から見える蛇行跡

窓際の男にだつて意地おます

窓口は僕です恋を届けます

飛び立った窓を桜で埋めてやる

耐え抜いた笑顔だ窓に映します

老いてまだピーター・パンを待つ窓辺

頬杖の似合う窓辺のいい時間

天辺の窓で見ているソクラテス

とび降りはいしないさ海の見える窓

難易度を上げて女が開く窓

窓閉める更なる不幸来ぬように

窓際のエキスパンダー引きこもる

終電の窓に切ない鬼の貌

窓のない部屋でふくらむ猜疑心

羽ばたいていようどこかの窓が開く

不条理の窓の向こうに茜雲

鈍行の窓に己の生きた道

にんげんの熱で地球の窓曇る

大阪 片山かずお

大阪 原田すみ子

岡山 河相美代子

大阪 島田 明美

秋田 伊藤のぶよし

福井 戸田 清孝

広島 半田 知弘

奈良 板垣 孝志

愛知 竹内そのみ

青森 高瀬 霜石

岡山 木下 草風

愛知 本多 雅子

奈良 安土 理恵

奈良 五味 尚子

兵庫 近藤 勝正

大阪 梶原 弘光

大阪 吉道航太郎

兵庫 長島 敏子

長野 宮尾 柳泉

鳥取 木天 麦青

岡山 藤井 智史

山口 田中 博美

陽当りのいい窓際で落着かぬ

涙目に快晴の窓齒科医院

空映す窓をいちまい子に遣す

窓開けて善玉菌を撒いておく

窓際の席が空いたぞ次俺か

和解した窓は三百六十度

窓閉める腹立たしさを音にして

煩惱を見透かすような花頭窓

窓開けて昨日と今日を入れ替える

さえずりは恋の繻れか朝の窓

窓際の椅子でゆっくり見る未来

思春期の出窓に満ちるファンタジー

天窓をケサガケにしてイワツバメ

自分にも見えない窓を探す旅

決心はつかぬか窓は閉めたまま

窓際を貫く僕のダンディズム

教室の窓から青春を見せる

窓際でそつと立つのがボスらしい

人間の窓を開けるとサスペンス

とびきりの善人に触れ開いた窓

覗き見をしたかのように閉める窓
世に出るか内に籠るか決める窓

愛媛 宮尾みのり

鳥取 武良 銀茶

福岡 梅崎 流青

鳥取 石井 華蓮

鳥取 山下 凱柳

静岡 佐野由利子

岡山 小野美那子

広島 村上 和子

大阪 安芸田泰子

大阪 奥野健一郎

岡山 赤本富美子

石川 藤村 容子

島根 石橋 芳山

山口 上村 夢香

兵庫 梶谷 和郎

兵庫 松本ゆかり

佐賀 真島 芽

和歌山 喜田 准一

宮崎 中武 弓

山口 大木加代子

大阪 奥 時雄
鳥取 副井ゆたか

教室の窓からシャボン玉が飛ぶ

どの窓を開けても雨が降っていた

無呼吸のまま生きている蔵の窓

雪積んでテロを眠らす二重窓

北斎の赤富士ぬつと機窓から

気をつけて南の窓は嵌め殺し

秀句

窓越しにこころの錆を抛り出す

不機嫌な窓だ汚れたままである

小窓から性善説が抜ける音

その先を問うから窓が閉じられる

見られてもいいから窓の外見たい

窓ごしのドラマメトロがすれ違う

あれ消してここをこうして過去の窓

今更と思うが窓を開け放つ

たこ焼き屋ぐらい出来そな窓がある

窓という窓へ逃がした蟬り

特選

人間の窓だ格子が付いている

北向きの窓に平常心がある

うっかりと窓から屋根に出してしまう

岡山 丹下 凱夫

和歌山 川上 大輪

鳥根 加本 精一

鳥根 長谷川博子

大阪 原田 正士

大阪 岸井ふさゑ

大阪 村上 直樹

鳥根 澁谷由紀子

兵庫 富永 恭子

愛知 高浜 広川

鳥取 成田 雨奇

東京 辻 直子

奈良 竹永 広義

愛知 鈴木 順子

大阪 高杉 力

埼玉 織田 和子

茨城 樫村 日華

兵庫 大黒 政子

軸吟

許す 梅崎流青選

リンを鳴らして佛さん許してよ
 しゃぼん玉許容範囲はどこだろう
 ごめんなさいそんな目をする犬なので
 肩ポンと叩いてくれた大きな手
 何もかも許す気にした紙おむつ
 ことばでは許すが許せない瞳
 許されて許して薔薇の香が残る
 わかります許せば楽になることも
 許す気になれば広がる川の幅
 あの時の君を許して空蟬に
 やつとやつと許されたのに傘がない
 礫にされてもキリストは許す
 やわらかい主張をやわらかく包む
 許しましょう壁のマリアが頷いた
 みんな忘れみんな許して枯れてゆく
 何も彼も呑み込む海の太っ腹
 許そうと月が傾きだしている

鳥取 後藤 宏之
 青森 小山内真由美
 兵庫 山口 美穂
 兵庫 中岡千代美
 福井 伊藤 良一
 奈良 菱木 誠
 青森 三浦 蒼鬼
 大阪 岩佐ダン吉
 大阪 山岡富美子
 岡山 水野 文恵
 大阪 神山 良子
 鳥取 牧野 芳光
 大阪 山野 寿之
 和歌山 木本 朱夏
 広島 大森 昭恵
 大阪 新海 信二
 神奈川 相原あやめ

許された昭和令和をどう生きる
 許しましょうそつと仏間の灯が揺れる
 直線でもし飛び込んでくれるなら
 結び目をゆつくり解いている途中
 わだかまり解けた夕日の真つ赤っ赤
 許すとは言えず空咳三つする
 憎しみは閉じ込めました皮袋
 好きにしる父の一言ほつとする
 温暖化神はヒト科を許さない
 水色の沈黙許されたようだ
 どしゃぶりを許したあとの虹の橋
 怨恨も時効となりぬ苔の墓
 監視カメラに写されている夕焼けよ
 他人なら笑ってすます事なのに
 なんとなく笑ってなんとなく許す
 手を繋ぐだけで根雪の溶ける音
 ハンカチが許す形に置いてある
 どの色も拒まず許す無色です
 原爆をいつ迄許す神よ神
 堪忍袋繕う度に子は育つ
 一日で許した家庭内離婚
 いい加減許してやれと虹が立つ

岡山 赤本富美子
 兵庫 藤本美知恵
 大阪 栃尾 奏子
 青森 北山まみどり
 宮崎 中武 弓
 大阪 嶋澤喜八郎
 茨城 佐瀬 貴子
 兵庫 永田 紀恵
 兵庫 福田 好文
 大阪 鈴木 かこ
 青森 吉田 吹喜
 和歌山 小林 八茶
 大阪 森中恵美子
 山口 田中 博美
 佐賀 真島 芽
 佐賀 真島久美子
 佐賀 真島美智子
 東京 辻 直子
 兵庫 長野 峰明
 大阪 原田 正士
 兵庫 藤岡 りこ
 大阪 鈴木 栄子

苦しみを分けた二人だ許しあう
 しばし待てコップ一杯のんでから
 許すのは鴉が白くなってから
 再稼働小判包んで許可される
 聞けばきくほど許したくなる猫背
 涙のあと残して眠る子に詫がる
 明日の米研いて居るのは許す気が
 抱きしめる事も許さぬ拉致の国
 許したらどつと涙があふれ出る
 仲なおりイチゴ大福食べてから
 歳月が角を落とした許そうか
 許しても元にかえらぬ命です
 手のひらを見せる人には気を許す
 不器用も高倉健は許された
 信号が青になるまで許さない
 唇を噛んで終わった事にする
 許すほど偉くはないとコルク抜く
 許しあえばこだわり消えて広い空
 許してはもらえぬままに弔辞読む
 にんげんの狡さを許すあかね雲
 許された形に開く春のドア
 潔く全てを許し椿落つ

大阪 上山 堅坊
 福岡 松藤移世子
 和歌山 川上 大輪
 大阪 上出 修
 岡山 坪井 新
 兵庫 森 菊江
 富山 島 ひかる
 兵庫 尾崎 一子
 愛媛 花岡 順子
 兵庫 上田ひとみ
 大阪 山根 妙子
 鳥取 西浦 小鹿
 京都 西山 竹里
 愛媛 玉井 勝順
 青森 石澤はる子
 京都 森田 律子
 奈良 宇賀 史郎
 奈良 井倉 和子
 大阪 正信寺尚邦
 大阪 吉道航太郎
 大阪 平井美智子
 大阪 島田千鶴子

暖冬も酷暑も許し桜咲く
 許そうと思う 番茶を入れ替える
 棺点火許してほしいことばかり
 許します君にも空があったから
 来し方を迎れば許すことばかり
 みな許し海は夕日の色になる
 茶を淹れる許す言葉を探しつつ
 許します空がこんなに青いから
 究極の仕返し許すことだろう
 許すにも釘一本は打つ親父
 冬の蚊よ叩かないからとんで行け
 許すとは言わぬが敷居低くする
 許されていたのか便座暖かい
 山が許してくれた猛吹雪がやんだ
 たんぼは許され天を飛び回る
 政治家は金を返せば許される
 許すため許されるため雨に濡れ
 許されたんだ母さんのにぎりめし
 半分は許しお粥を炊いている
 葛湯ふうふう母は許してくれている
 菓子折りのリボンほどけばもう許容
 独り身の自由に許し乞う墓参

広島 村田 幸夫
 奈良 安土 理恵
 兵庫 河内谷 恵
 長野 丸山 健三
 大阪 中岡 妙
 高知 辻内 次根
 石川 石倉多美子
 大阪 荻野 浩子
 奈良 小林すみえ
 奈良 長谷川崇明
 和歌山 坂部紀久子
 青森 福士 慕情
 岡山 工藤千代子
 愛媛 黒田 茂代
 鳥取 山野すみれ
 兵庫 敏森 廣光
 大阪 小林 康浩
 茨城 樫村 日華
 鳥取 吉田 陽子
 大阪 森 茜
 大阪 原 洋志
 奈良 駒居 春子

握手する手の温もりが答えです
 好きにせい父は黙って席を立つ
 歳月が許せぬ事を許したの
 万華鏡きのうの嘘をゆるされよ
 ご先祖も許してくれる墓仕舞い
 胸の奥深く刺さった棘を抜く
 許せそう今日の黒豆やわらかい
 歳月が溶けてしまった罪許す
 親不幸詫げればローンクが揺れた
 口開けて寝る妻許す他はない
 一晩で時効に出来る若夫婦
 許し請い万感胸に拾う骨
 子の嘘を許す方便見つかった
 心では許して朝のお味噌汁
 うっかりと白いカラスに気を許す
 目も口も怒っているが根は許す
 極楽に無事に着いたらみな許す
 許す気になる程々の酔いである
 母の目が笑った泣いて飛び込んだ
 反省を父の無口が待っている
 許す気になって空には鬨雲
 三回忌やつと憎しみ消えました

奈良 加藤江里子
 兵庫 山崎 武彦
 埼玉 前田 洋子
 大阪 酒井 紀華
 青森 高瀬 霜石
 島根 玉木りょうこ
 岡山 河相美代子
 千葉 潮田 春雄
 広島 山本 恵子
 大阪 吉村久仁雄
 大阪 山衛守 孝
 兵庫 谷口 修平
 佐賀 仁部 四郎
 広島 岩本 笑子
 岡山 木下 草風
 島根 山形ゆうき
 富山 板谷 達彦
 兵庫 青木 公輔
 京都 山田 葉子
 大阪 太田 省三
 岡山 宮本 信吉
 山口 平田 恵

許すとはこんなに力いるものか
 雑魚同士そこそこ許す気でいます
 木母の一途そろそろ許そうか
 明日あると限らぬ許すことにする
 手の平で溶ける淡雪なら許す
 もやもやのすべてを許し桜咲く
 秀 句
 許すとは言わず齒ブラシ替えておく
 春の雨許すことばを言えず寝る
 許しておくんままと瓢箪のくびれ
 もういいよ光に満ちた朝だもの
 裏木戸は開けておきます許します
 嘘泣きを許してしまふ観覧車
 許し合うかたちで回る夫婦独楽
 許すこと覚えライオン瘦せてゆく
 スベリ台ストーンと明日を許します
 もういいよこんなに濡れて来たんだね
 特 選
 一切空許すつむりの靴を履く
 許し合う心へ煮凝りが溶ける
 軸 吟
 骨壺の軽さになってから許す

愛媛 山本カヨ子
 兵庫 七反田順子
 岡山 畑 佳余子
 大阪 若本 安代
 島根 原 徳利
 鳥取 岸本 孝子
 大阪 谷口 義
 鳥取 安場 紫音
 大阪 赤松ますみ
 大阪 桑原すゞ代
 大阪 島田 明美
 愛媛 郷田 みや
 青森 白取ひでお
 佐賀 山口 亮栄
 奈良 古川 洋子
 兵庫 稲角 優子
 大阪 片岡智恵子
 愛媛 永井 松柏

許す

安土理恵選

許そうよそろそろ芽吹く落の臺
許された気がする朝のおみそ汁
青虫が先に味見の春キャベツ
幸せです許す心を持っています
うっかりと白いカラスに気を許す
外泊の許しが出たよひげ剃ろう
ご先祖も許してくれる墓仕舞い
蛍の光EJ離脱許容する
許します空がこんなに青いから
ミス二つ許す度胸のワンチーム
勘弁して私白には戻れない
許しとこ仕切る幹事も酔うている
肝臓にお許し願う二日酔い
許すにも釘一本は打つ親父
豆さんで逃げる鬼なら許そうよ
弱者潤う増税ならば許される
遺品整理あれこれ許し乞いながら

石川 宮田喜美子
愛知 西郷紀美代
埼玉 石川 和巳
鳥取 伊塚美枝子
岡山 木下 草風
兵庫 寺嶋恵美子
青森 高瀬 霜石
長野 錫澤 たか
大阪 荻野 浩子
宮城 菅野 實
愛媛 山内もとこ
大阪 内藤 憲彦
鳥取 竹村紀の治
奈良 長谷川崇明
大阪 日野 愿
奈良 山田 順啓
大阪 平松かすみ

茶を淹れる許す言葉を探しつつ
許された形で医者に見放され
規則です許す訳にはいきません
許されよ座を和ませる小さい嘘
許そうか雨の匂いのする女
無免許の恋脱輪を繰り返す
嬉しいねえこころ許せる友がいる
不器用も高倉健は許された
許すつて忘れ上手になることね
許される歳相応の物忘れ
許したら骨の髄までしゃぶられる
許さねばここから前へ進めない
一度許せばどんどん増える酒の量
寄らば大樹森加計桜免罪符
核兵器もう許さないこの大地
許されて耳貸している妻の膝
医師の許可あったかどうか缶ビール
許す気になれば広がる川の幅
この辺で自分許して缶ビール
ゴメンネのかわり夫が皿洗い
許されたんだ今夜はハンバーグ
手抜きする知ったか振りが許せない

石川 石倉多美子
大阪 奥 時雄
兵庫 上野多恵子
兵庫 堀 正和
岡山 従野 健一
岡山 山崎三千代
和歌山 山中 閑
愛媛 玉井 勝順
青森 北山まみどり
大阪 金川 宣子
熊本 中原たかお
大阪 西出 楓楽
兵庫 藤岡 りこ
兵庫 井上 高島
大阪 上山 堅坊
広島 常國 喜好
京都 武田 悦寛
大阪 山岡富美子
大阪 久保田清美
大阪 福山 理花
兵庫 中岡千代美
神奈川 山崎 修二

寛容な相手に負けたなと思う	兵庫	米田利恵子	まだ許す気にはなれずに落とし蓋	岡山	工藤千代子
許されて父と無言の握手する	愛媛	本田 醇子	握手して許す男対男	広島	岩本 笑子
両耳を立てて許しを待っている	大阪	中川 拓真	許された庭で暮しを建てる蟻	奈良	那須 鎮彦
にこつとされると許してしまうから困る	兵庫	能勢 利子	先ず母の許可とり父はなし崩し	佐賀	坂本 蜂朗
支払いは出世払いでええですわ	香川	大高 正和	夕茜わらい話ですませよう	大阪	桑原すゞ代
神様は許すと言わず手を離す	大阪	森 廣子	許す許せぬそんな資格は僕にない	大阪	藤村 亜成
女人禁制君だけそつと受けいれる	石川	堀本のりひろ	閻魔さんの許可証持つて極楽へ	京都	清水 英旺
俯瞰する余裕があれば許せませす	奈良	飛永ふりこ	OKはまだまだ出ないダンゴムシ	岡山	目賀 和子
失敗は一度だけなら許される	大阪	近藤 正	君の嘘許すと起きる土砂崩れ	岐阜	武藤 敏子
雑魚同士そこそこ許す気でいます	兵庫	七反田順子	許す気にさせた決め手のセラナーデ	大阪	初代 正彦
許しという靴をようやく与えられ	福岡	もりともみち	許します女の坂を越えました	愛媛	鎌田 昌子
許すより許し請うのが僕の役	大阪	坂 裕之	正直な瞳に神は許可を出す	広島	瀬戸れい子
楽になるためにアナタを許します	山口	山本 一	理不尽を許すと神様が怒る	佐賀	真島 涼
許します自己責任で願います	鳥取	狭武 紫陽	まっいいか今度は俺が許す番	石川	奥野とみ子
風は春あの日のことは許そうか	奈良	笹倉 良一	若き日の汚点自分が許せない	鳥取	山内 義徳
母の目が笑った泣いて飛び込んだ	京都	山田 葉子	令和の世戦争だけは許すまじ	大阪	中井 萌
ワインでも抜こうその顔上げなさい	大阪	吉道航太郎	何もかも許す気にした紙おむつ	福井	伊藤 良一
嫌われる勇気が無くて許してる	鳥取	太田 睦子	そのままでもいいやんあんなそのまま	兵庫	淡井恵美子
許せないこと全部忘れりゃいいのです	愛媛	大内せつ子	許します私も同じミスをした	大阪	樋口 眞
許さねば苦い思い出だけの恋	奈良	上田 幸一	無免許で親やってますすみません	奈良	居谷真理子
許しましよやがてあなたも紙おむつ	岡山	古山はつ子	許し合う糸で明日を編んでゆく	沖繩	多良間典男
ごめんねと言えば終わっていた話	兵庫	糺谷 和郎	棺点火許してほしいことはかり	兵庫	河内谷 恵

空き箱の蓋に許すと書いてある
骨壺の軽さになってから許す

宗教の恐さ異教を許さない

冬の蚊も叩かないからとんで行け

ユダ許すことができれば神の域

知らず知らず許していたかマグカップ

愛してた頃もあるから許そうか

念入りのボディチェックでとうりゃんせ

理不尽さ少し許して握手する

踏ん張った足は妥協を許さない

生も死も他者に許しは求めない

年だけは許してくれぬ若返り

嘘ひとつ許してからの深い海

昭和史に許せぬキノコ雲の影

日曜日懺悔の祈りアベマリア

他人なら笑ってすまず事なのに

わたくしを許そう春が来る前に

フィルターをくぐった恋は平凡で

許したのか許されたのか手を繋ぐ

シャボン玉許容範囲はどこだろう

許すとか許さないとか夜が明ける

拳骨一つもう許してる父の喝

愛媛 郷田 みや

福岡 梅崎 流青

奈良 加門 萌子

和歌山 坂部紀久子

大阪 澤井 敏治

兵庫 杉浦まりこ

広島 岸本 清

島根 熱田熊四郎

和歌山 小谷 小雪

愛媛 山本 毅

兵庫 岸田 万彩

和歌山 村中 悦男

奈良 細田 貴子

島根 竹治ちかし

大阪 原田 正士

山口 田中 博美

大阪 平井美智子

大阪 銭谷まさひろ

大阪 柴田 桂子

青森 小山内真由美

石川 坂 範子

秋田 伊藤のぶよし

こなごなのあの日のプライド貼りあわす
許すとは言えず空咳三つする

究極の仕返し許すことだろう

みんな忘れみんな許して枯れてゆく

許されて許して広い海に出る

許せとは精一杯の殿の愛

秀句

お許しが出てバツカスとハイタッチ

多数決許すも許さないもない

親不孝今は遺影に詫げるだけ

なんとなく笑ってなんとなく許す

許したのか諦めたのか ぼくら

約束を守れぬ時もあるだろう

直線でもし飛び込んでくれるなら

真心を包んできたら許します

やわらかい主張をやわらかく包む

許されることに繋がる許すこと

特選

水に流せないから水を飲んでる

許されて春には父に母になる

軸吟

百歩ゆずって許すと決めた一つ事

奈良 饗庭 風鈴

大阪 嶋澤喜八郎

奈良 小林すみえ

広島 大森 昭恵

大阪 吉道あかね

奈良 竹永 広義

兵庫 北野 哲男

和歌山 三宅 保州

山口 上村 夢香

佐賀 真島 芽

京都 こうだひでお

大阪 立蔵 信子

大阪 栃尾 奏子

鳥取 石井 華蓮

大阪 山野 寿之

鳥取 平尾 正人

大阪 谷口 義

茨城 櫻村 日華

大阪 谷口 義

茨城 櫻村 日華

自由吟

片岡加代選

深呼吸したくて古里へ帰る

永字八法硯の池が干してくる

定位置に戦い終えた夫の靴

いいひとと流れ解散してばかり

避難所で分け合おうて飲む水の味

越えて来た山へ想いが深くなる

老いて候牀に嘘が通じない

生きている狼煙の色を変えながら

容量もパワーも減りました加齢

革命前夜薔薇一斉に咲き揃う

愛は数式命は元素記号

嬉しいとき悲しいときよ野の花よ

生命線同じ長さに描く夫婦

人生におかわりなどはありません

ひこばえのように見守る孫曾孫

小さな手そつと開けばタンゴ虫

こわすまい足湯に下りたお月様

和歌山 三宅 保州

岡山 古山はつ子

岡山 藤澤 照代

青森 辻口風来坊

岡山 山崎三千代

富山 島 ひかる

東京 辻 直子

神奈川 相原あやめ

熊本 杉野 羅天

埼玉 宮本彩太郎

奈良 竹永 広義

大阪 澤井 敏治

大阪 廣田 和織

大阪 谷口 義

奈良 松本 柎子

大阪 南 タカ子

鳥取 吉田孔美子

争わず即かず離れず二輪草

毎年のことです春はノラの靴

女ひとり時には惚けを武器にする

二千万ないが百まで生きてやる

住所変更の知らせが届く火星から

三回目やつと血圧正常値

雲掴む形で落ちている軍手

単身赴任語り足りない日曜日

閉校の日に満開になる桜

たくさん泣いたからたくさん笑える

泥沼にやつと首だけだしている

笑おうと待っているのに下手な芸

あちこちが軋むと惜しくなる命

仲間にはキツネタヌキもいて愉快

立春の後にこのこの冬が来た

蒔いた種みんな見事に咲きました

索漠とこの世の果てのパチンコ屋

胃薬を飲んで言葉を飲み込んだ

母百歳生きてることが素晴らしい

正論の君との距離が縮まらぬ

泣き顔も笑顔もステキ要介護

大丈夫だろうか明日はあるだろうか

広島 常國 喜好

岐阜 大島 凧子

岐阜 武藤 敏子

愛知 竹内そのみ

大阪 西出 楓楽

兵庫 奥田 宗光

山口 田中 博美

広島 土居 直子

岩手 鷹薮 閔雄

奈良 山田 恭正

鳥根 石橋 芳山

大阪 振り逃げ

奈良 大久保真澄

大阪 荻野 浩子

鳥取 狭武 紫陽

大阪 中村 恵

岐阜 矢野五十二

大阪 藤田 武人

和歌山 根田よしこ

広島 山本 恵子

青森 三浦 蒼鬼

高知 広瀬 鮎美

寂しくて開けてしまった玉手箱

青森 白取ひでお

ロボットと恋をしている林住期

大阪 久保田清美

喝采はないが愛しい日々ばかり

東京 安澤 教子

もう少し付き合えるかな影法師

島根 田中 堂太

筆順をためらい漢字間違える

福井 西谷 公造

エンディングノート私の丸洗い

愛知 金子美千代

ふりをすることがだんだん増えてくる

京都 西山 竹里

明日と言う朝が正しく来るように

大阪 森 廣子

耳と口あるからいいと白い杖

大阪 小山 太一

二人にはふたりの思い欠け茶碗

兵庫 大黒 政子

同期生出世どうあれ俺おまえ

福岡 坂本 弘子

おそろいのカップに少しヒビのあと

奈良 川崎ちさと

雑巾になつてようやく褒められる

奈良 板垣 孝志

見てごらん今日もでっかい陽が昇る

大阪 新海 信二

現金の肩身が狭いキャッシュレス

大阪 前原 正美

鈍行の窓は自然の高画質

広島 松尾 信彦

ほどほどにそのほどほどが難しい

奈良 中城 裕子

お椀の舟で大海原へ帆を上げる

青森 高瀬 霜石

悲しみのどん底に居て腹が減る

大阪 木見谷孝代

夫婦っていいな背中の中の湿布薬

兵庫 藤田 紀江

恋人は居ます天国には居ます

和歌山 柏原 夕胡

メンテナンスこの身返納する日まで

大阪 オカダキキ

辛くてもしんどくつても母だもの

兵庫 六倉 ひろ

一つずつピースを埋めて来て傘寿

奈良 加門 萌子

ふっ切れてすつきり青空になった

広島 大森 昭恵

錆び付いた老いにも残る不発弾

奈良 長谷川崇明

二合瓶とくとくとくとと父の墓

兵庫 山田 耕治

火種さえあれば枯木は燃えたがる

埼玉 久保田千代

いい話親父の墓に持つてくる

徳島 小畑 定弘

充電をしにいそいと十五日

島根 菅田かつ子

リフォームの手摺父の手沁みている

熊本 田中 賢治

老いるつて一人でパンツ履けぬ事

香川 大高 正和

樟をくぐれば母の待つ施設

大阪 中島 一彌

刺はあつても真つ赤なバラは魅力的

岡山 岩崎 幸子

母は今日「リングの唄」の可愛い娘

石川 坂 範子

嵐去るひとまず明日の靴磨く

兵庫 梶谷 和郎

母が逝く星のきれいな夜でした

兵庫 吉村めぐみ

あと百秒終末時計訴える

大阪 近藤 正

しておこう春画の整理惚けぬうち

鳥取 大羽 雄大

放課後のトランペットが夕焼ける

大阪 中川 拓真

トーストがこんがり焼けた日の歩幅

奈良 林 ともこ

汗拭いた日押んでいる野良着

兵庫 谷口 修平

虐待のペランダにある三輪車

京都 こうだひでお

終焉の美学と思う夕茜

千葉 海老池 洋

断捨離へありがとうそしてサヨナラ
願わくば図書館横のケアハウス
学び直しをしよう日本史韓国史
再会が引き金恋の綱渡り
本屋さんごめんこが僕等の待合所
乱読のあと一冊の哲学書
古書店の棚でさまよう戦国史
ベストセラー聖書に勝るものはない
読み終えた余韻体を駆け巡る
積ん読の底が悲鳴をあげている
M点灯残したことが多すぎる
年金をどう振り分けるお年玉
新年のたびに余命を考える
アメリカのくしゃみ中国のウィルス
安いのが好きと財布の独り言
SOSクジラシロクマアオイホシ
わが町の標本木に訊く見頃
旅人の運転ひやり沈下橋
涼しいな夏の散歩は地下の街
胎教にシヨパン麒麟が生まれそう
生きるしがらみ蟻の列象の列
未練無しぶらりぶらりとあの世まで

宮崎 黒木せつよ
大阪 中山 春代
鳥取 斉尾くにこ
大阪 雪本 珠子
鳥取 山内 義徳
兵庫 上野多恵子
奈良 大西 将文
鳥取 牧野 芳光
鹿児島 平瀬 芙蓉
奈良 山田 順啓
大阪 堂本 秀斧
岡山 大杉 敏夫
兵庫 太田としお
大阪 奥 時雄
大阪 片山かずお
大阪 原田 正士
兵庫 萩原 狸月
和歌山 石田 隆彦
大阪 太田 省三
奈良 笹倉 良一
秋田 伊藤のぶよし
兵庫 杉浦まりこ

振り向けばいくつかあった急カーブ
返り血は覚悟のうへの墓仕舞
平凡の上を歩いていく非凡
堂々と最後に笑うのは無欲
贅肉を落としなさいと冬木立
その糸を抜けば二月が綻びる
酒が友人生千鳥足でゆく
一円切手貼られファイトの出たはがき
含め煮のような彼女に決めました
縮緬雑魚の命五十を朝食に
逢わないは逢うより激し春の雨
山の地図以外与作に用がない
源流の雫気合いの音がする
卓袱台を囲む我が家のワンチーム
横に居てあげるお話しああげる
血液がほこほこはしゃぐ一万歩
ふり返るかすかに道ができて
戦争を忘れましたか被爆国
CMに出る猫のらで生きる猫

大阪 池田 純子
奈良 小金澤貫一
大阪 土田 欣之
大阪 鈴木 かこ
大阪 吉道あかね
大阪 嶋澤喜八郎
大阪 川端 一步
三重 橋倉久美子
愛媛 山内美恵子
大阪 藤島たかこ
奈良 山部 牧子
愛媛 花岡 順子
大阪 宮西 弥生
奈良 木嶋 盛隆
岡山 増田 敏夫
大阪 宇都満知子
大阪 岩佐ダン吉
大阪 内藤 憲彦

軸 吟

特 選

自由吟

小島蘭幸選

再挑戦背中を押しした子の巢立ち

デイサービスの朝白寿の母は紅を引く

二人にはふたりの思い欠け茶碗

深呼吸したくて古里へ帰る

春風にもらう笑顔の処方箋

米を研ぐこれしか道はなかったか

お洒落してプラス思考に切り替える

わたくしを穏やかにする里が好き

永字八法硯の池が干してくる

一つずつピースを埋めて来て傘寿

誘われて2万歩春の観心寺

生きてきてよかった戦のない日本

生きるとはこんなものかと独り酌む

やさしさを忘れないよう見る鏡

君と逢う二十歳の私捜して

スマホゲーム孫が先輩風吹かす

少数派の意地だ毅然として生きる

京都 山田 葉子

兵庫 野口真核子

兵庫 大黒 政子

和歌山 三宅 保州

福島 安藤 敏彦

愛媛 西田美恵子

福井 伊藤 良一

和歌山 石田 隆彦

岡山 古山はつ子

奈良 加門 萌子

大阪 前川 佳子

奈良 南 芳枝

兵庫 近藤 勝正

鳥取 前田 楓花

兵庫 武市 清香

埼玉 中島 通則

愛媛 宮尾みのり

母の温もり朝の布団が出られない

思い出に楽しく変わる茨道

着膨れの私を笑う沈丁花

雪のない冬があってもいいですか

無垢で生まれ無垢に還っていく命

地の果てまでも届けグレタの血の叫び

笑わなくなつて久しい姫鏡

命の灯まだ川柳は辞められぬ

お掃除ロボのサボるところを見てしまう

駅ピアノの昭和演歌に皆笑顔

たばこたばこ此処にオアシス有ったはず

年金にやんわり足してくれる娘よ

自分らしく生きれば他人が好きになる

雑巾になつてようやく褒められる

トーストがこんがり焼けた日の歩幅

喜怒哀楽くぐり抜けて来た阿吽

孤と向き合い独りの自由楽しまん

恋人は居ます天国には居ます

口出しは無用の位置に居る私

堂々と最後に笑うのは無欲

一円切手貼られファイトの出たはがき

苦も哀も飲んで微笑む菩薩さま

大阪 松尾美智代

和歌山 土屋起世子

愛媛 本田 醇子

岡山 丹下 凱夫

愛媛 栗田 忠士

大阪 村上 直樹

和歌山 杉山 精子

岡山 小林 妻子

大阪 島田 明美

香川 川西 義仁

大阪 西村 哲夫

鳥取 牧野 隆昌

大阪 藤井 則彦

奈良 板垣 孝志

奈良 林 ともこ

奈良 中森 勝代

大阪 木見谷孝代

和歌山 柏原 夕胡

岡山 大杉 敏夫

大阪 鈴木 かこ

三重 橋倉久美子

広島 村上 和子

ゴキブリか忍者か真夜中のトイレ
 生きている狼煙の色を変えながら
 頑固だねあなたに添って生きて来た
 字余りに字足らず老いの力瘤
 幼き日の記憶のままにミカンむく
 虐待のペランダにある三輪車
 わたしだけの銀河で母と逢っている
 天からの試練か雨を浴びてみる
 スマホは怪物昭和シングルの生まれ
 黄の衣脱いで銀杏の寒稽古
 どこから見ても母さんの顔になる
 断捨離もしたしガンもやつつけたし
 まっすくな道で誰にも出会わない
 魔女になる杖をどこかに置き忘れ
 節分の鬼もわたしももう逃げぬ
 幸せな門灯を消す二十四時
 コンビニのカフェオレ夜を温める
 ノーサイド女ごころの様だった
 いいひとと流れ解散してばかり
 シンプルに生きるわたしの自尊心
 カーテンコールあれは幻夕焼ける
 豪快に笑うウイルス吹き飛ばす

鳥取 福西 茶子
 神奈川 相原あやめ
 愛知 竹内そのみ
 大阪 山岡富美子
 大阪 貝塚 正子
 京都 こうだひでお
 大阪 太田扶美代
 大阪 小野 雅美
 大阪 山本希久子
 大阪 中島 一彌
 大阪 鈴木 栄子
 鳥根 藤井 寿代
 茨城 櫻村 日華
 岡山 工藤千代子
 兵庫 西口いわゑ
 大阪 中山 春代
 愛媛 浜本 光子
 広島 田辺与志魚
 青森 辻口風来坊
 沖縄 多良間典男
 愛媛 山本 毅
 鳥取 伊塚美枝子

三月の男にすこし凭れよう
 弱肉強食女子会の高笑い
 余命を抱えこの世を通過中
 配役は薬物検査して決める
 きさらぎの雪女です急ぎます
 最大の防衛は妻に背かない

秀 句

大阪 森中恵美子
 佐賀 真島美智子
 鳥根 長谷川博子
 大阪 助川 和美
 兵庫 田本 古鈴
 岡山 折鶴 翔

寂しさを編むマフラーが長過ぎる
 油断すると女に戻る妻の顔
 SOSクジラシロクマアオイホシ
 閉校の日に満開になる桜
 長生きを詫げる日本の母なりや
 自然釉みたい個性出る卒寿
 ふるさとを蹴ってふるさと抱いている
 喝采はないが愛しい日々ばかり
 両の手が寒いといって泣くのです
 少しまた少し毀れてゆく夕陽

特 選

カラヴァッジョ展出てしばらくは鯉呼吸
 銀河鉄道の切符下さい逢いたい
 僕のスマホ誰も覗いたことがない

大阪 原田すみ子
 大阪 穂口 正子
 大阪 原田 正士
 岩手 鷹崎 閔雄
 青森 高瀬 霜石
 兵庫 北野 哲男
 東京 辻 直子
 東京 安澤 教子
 大阪 平井美智子
 静岡 佐野由利子
 大阪 西出 楓楽
 愛媛 兵頭 俊子

軸 吟

第八回 春の川柳塔まつり

誌上大会参加者

総数 745名

順不同・敬称略

竹盛元樹 水谷裕子 北田のりこ
橋倉久美子 御堂美智子

【京都】 木口雅裕 清水英旺 今井万紗子
武田悦寛 西山竹里 広瀬勝博 北野クニオ

藤井文代 森田律子 山田葉子 渡邊真由美

山本昌乃 こうだひでお

【大阪】 穂山常男 油谷克己 赤松ますみ
阿部俊八 荒木郁子 池田純子 安芸田泰子

井澤壽峰 石田孝純 石橋直子 石田ひろ子

入江晴菜 入江秀雄 岩崎公誠 指宿千枝子

上出 修 上山堅坊 榎本舞夢 岩口のぞみ

大浦福子 大浦初音 大川桃花 岩佐タン吉

大治重信 太田省三 岡本 勲 内田志津子

荻野浩子 奥 時雄 落葉ふみ 宇都満知子

小野雅美 貝塚正子 柿花和夫 江島谷勝弘

梶原弘光 金川宣子 川端一步 大西ともこ

川本信子 神田良子 黒岩靖博 太田扶美代

小林康浩 小山太一 近藤 正 オカダギキ

坂 裕之 酒井紀華 坂上淳司 小川賀世子

阪本秀子 澤井敏治 柴田桂子 奥野健一郎

島田明美 初代正彦 新海信二 片岡智恵子

鈴木栄子 鈴木かこ 助川和美 片山かずお

関よしみ 千田祥三 高杉 力 鴨谷瑠美子

高杉千歩 高木道子 立蔵信子 岸井ふさゑ

田中廣子 谷口東風 谷口 義 木見谷孝代

【北海道】 三浦強一 松田竹生 阿部八重子
東 考矢 青柳 忠

【青森】 稲見則彦 高瀬霜石 白取ひでお

福士慕情 三浦蒼鬼 守田啓子 石澤はる子

吉田吹喜 小山内真由美 北山まみどり

辻口風来坊 むらのひとり

【岩手】 鷹崎 閔雄

【宮城】 今野 裕 菅野 實 木田比呂朗

【秋田】 加藤円心 佐藤春子

伊藤のぶよし

【福島】 阿部久良 安藤敏彦

【茨城】 櫻村日華 佐瀬貴子

【栃木】 小堀翠泉 荻原鹿声 中西茂年

【埼玉】 石川和巳 織田和子 久保田千代

中島通則 中村伸子 根岸方子 宮本彩太郎

前田洋子

【千葉】 海老池洋 潮田春雄 日下部敦世

寺内芍薬 佐々木正康 菱山ただゆき

【東京】 安澤教子 川名洋子 川本真理子

辻 直子 齊藤由紀子

【神奈川】 芦田鈴美 加藤佳子 相原あやめ

菊地政勝 佐藤潤子 橋捨楽齋 山崎修二

【長野】 佐藤崇子 武田香風 高見澤直美

鵠澤たか 西沢葉火 丸山健三 宮尾柳泉

【新潟】 相田柳峰 伊藤幹夫

【富山】 板谷達彦 越前邦夫 伊藤のり子

大澤裕子 門田宣子 島ひかる 滋野百合子

伴よしお

【石川】 岡本 聡 坂 範子 石倉多美子

新保芳明 藤村谷子 奥野とみ子

堀本のりひろ 宮田喜美子

【福井】 伊藤良一 戸田清孝 島田千代子

西谷公造

【岐阜】 大島風子 武藤敏子 矢野五十二

【静岡】 佐藤灯人 中田 尚 小林ふく子

佐野由利子 鶴見美佐子

【愛知】 伊賀武久 白石てる 金子美千代

鈴木順子 高浜広川 富田末男 小松くみ子

彦坂石転 本多雅子 山田初男 西郷紀美代

竹内そのみ 猫田千恵子 八甲田さゆり

山本三樹夫

【三重】 小河柳女 竹島 晃 青砥たかこ

玉山智子	壇 信子	丹後屋肇	久保田清美	松尾美智代	松島きよみ	森中惠美子	福田正彦	藤井安造	藤岡りこ	七反田順子
辻村ヒロ	土田欣之	津守柳伸	桑原すゝ代	森松まつお	安田美紗江	山内規子子	藤田紀江	藤田雪菜	藤原紘一	西口いわゑ
鶴田寿子	寺井弘子	栃尾奏子	桑原ひさ子	山岡富美子	山口弘委智	山本希久子	古橋茂子	堀 正和	前川 淳	野口真桜子
富田啓二	内藤憲彦	中井 萌	源田八千代	吉田喜代子	吉道あかね	吉道航太郎	松倉正美	丸山孔一	宮崎恵子	長谷川善輔
中岡 妙	中川一男	中川拓真	古今堂焦子	吉村久仁雄	きとうこみつ	錢谷まさひろ	宮本 緑	六倉ひろ	村田 博	東内美智子
中島一彌	中蘭 清	中谷哲夫	齋藤さくら	美馬りゆうこ			本谷重子	森 菊江	森本高明	藤井美智子
中村 恵	中村民子	中村峰子	佐々木満作	兵 庫	青木公輔	赤木節子	森 玲子	村井広子	村岡義博	藤本美知恵
中山春代	西澤司郎	西出楓葉	正信寺尚邦	荒岡浩志	池野英坊	井上高島	山内 迪	山口光久	山口美穂	松本ゆかり
西村哲夫	二宮章子	原 洋志	柴本ばっは	伊藤義幸	稲角優子	上田和宏	宇田みどり	山崎武彦	山田厚江	山田耕治
原田正士	樋口 眞	秀 爷	嶋澤喜八郎	梅澤盛夫	江尻房子	大上几代	上田ひとみ	山田 昇	吉田和子	山端なつみ
日野 愿	平賀国和	廣田和織	島田千鶴子	大黒政子	大坪一徳	大西重男	上野多恵子	吉村めぐみ		
風鈴草	福山理花	藤井則彦	鈴木いさお	奥田宗光	長川哲夫	尾崎一子	太田としお	奈 良	饗庭風鈴	安土理恵
藤井康信	藤田武人	藤塚克三	高田美代子	加川靖鬼	亀岡哲子	河内谷恵	岡田さちこ	安福和夫	井倉和子	板垣孝志
藤村亜成	伏見雅明	藤原大子	滝井恵美子	川人良種	岸田万彩	北澤稠民	緒方美津子	上田幸一	上田有行	宇賀史郎
振り逃げ	古田祐子	穂口正子	出口セツ子	北野哲男	九村義徳	糀谷和郎	奥澤洋次郎	大西將文	加門萌子	木嶋盛隆
本田智彦	前川佳子	前川善之	道家えい子	幸田厚子	近藤勝正	斎藤隆浩	北山ほくら	駒居春子	五味尚子	笹倉良一
前原正美	松岡 篤	松村聡子	徳山みつこ	澤 良兼	澤 良子	梶元世津	熊谷つとむ	柴田園江	高橋敬子	竹永広義
水野黒兎	南タカ子	宮西弥生	中川千都子	鈴木新録	宗 和夫	武市清香	米田利恵子	谷川 憲	中城裕子	中森勝代
三好専平	村上玄也	村上直樹	西川ひろし	多田雅尚	田中雅子	谷内利明	杉浦まりこ	中堀 優	中山良久	那須鎮彦
森 茜	森 廣子	森井克子	羽田野洋介	谷口修平	田本古鈴	近兼敦子	住吉美和子	林ともこ	菱木 誠	古川洋子
森田旅人	森田 麗	矢倉五月	原田すみ子	敏森廣光	富永恭子	長島敏子	瀬島流れ星	細田貴子	松本柢子	南 芳枝
安田忠子	山衛守孝	山崎達彦	平井美智子	永田紀恵	長野峰明	中野文擴	谷口加代子	毛利元子	山下純子	山田順啓
山根妙子	山野寿之	山藤聖子	平松かすみ	中村孝子	成定竹乃	新阜義明	妻木寿美代	山部牧子	山本昌代	米田恭昌
雪本珠子	横山里子	吉岡 修	弘津秋の子	丹羽美恵	能勢利子	萩原狸月	寺嶋恵美子	和歌山	石田隆彦	上田紀子
吉田禮子	米澤俣子	若本安代	藤島たかこ	羽奈和子	平松直樹	福田好文	中岡千代美	柏原夕胡	川上大輪	喜田准一
										坂部紀久子

北原昭枝 木本朱夏 小谷小雪 土屋起世子
小林八茶 楠原富香 倉橋悦子 藤原ほのか
佐藤まさ 杉山精子 澄田康則 鍋嶋澄子
西川千鶴 福井菜摘 松原寿子 三宅保州
村中悦男 山中 閑 三枝真智子
まつもとともとこ

【馬取】

飯野葛子 池澤大鮎 伊塚美枝子
池田美穂 石井華蓮 伊藤昭子 岡崎美知江
伊藤嘉昭 稲垣正昭 上山一平 後藤美恵子
太田睦子 大羽雄大 大前安子 斉尾くにこ
奥田由美 加藤慎一 門村幸子 坂本とも湖
岸本宏章 岸本孝子 木天麦青 佐々木静恵
倉益一瑤 後藤宏之 狭武紫陽 田賀八千代
新家完司 竹信照彦 田中重忠 竹村紀の治
田中天翔 中井虎尾 中原章子 田中紀美恵
中村金祥 成田雨奇 西浦小鹿 谷口回春子
西谷悦子 西村海希 平尾菜実 副井ゆたか
平尾正人 福西茶子 前田楓花 山野すみれ
牧野隆昌 牧野芳光 宮田風露 吉田孔美子
武良銀茶 安場紫音 山内義則 若松由紀子
山下凱柳 山下節子 湯本貴恵 吉田弘子
吉田陽子

【島根】

相見柳歩 青山栄子 小豆沢歌子
石橋芳山 伊藤寿美 伊藤玲峰 熱田熊四郎
内田厚子 加藤和代 加本精一 川瀬きみ子

川本 畔 岸 桂子 山藤照恵 篠原紋次郎
田中堂太 中島清子 中筋弘充 澁谷由紀子
南場良枝 原 德利 藤井寿代 菅田かつ子
星出冬馬 松本文子 眞野舟舂 多久和敬子
山根邦代 竹治ちかし 梅瀬みちを
長谷川博子 増田のほる 松本知恵子
三浦モナカ 山形ゆうき 山形由美子
玉木りょうこ

【岡山】

市田鶴邨 岩崎幸子 赤本富美子
大石洋子 大杉敏夫 岡本余光 小野美那子
尾崎 貴 折鶴 翔 川上皓三 河相美代子
木下草風 國米和江 小林妻子 工藤千代子
清水克俊 高木勇三 谷川香興 戸田まさこ
谷本正義 丹下凱夫 坪井 新 古山はつ子
永見心咲 畑佳余子 原 脩二 松田龍せん
藤井智史 藤澤照代 増田敏夫 三野とし絵
丸山威青 水野文恵 宮本信吉 山崎三千代
日賀和子 紫しめの 山崎三毛 從野健一
【広島】 石原淑子 伊藤寿子 瀬戸れい子
岩本笑子 大森昭恵 鴨田昭紀 田辺与志魚
岸本 清 北村善昭 小島蘭幸 小畑宣之
笹重耕三 若年幸子 田桑恵子 常國喜好
土井輝恵 土居直子 半田知弘 飛田陽子
松尾信彦 村上和子 村田幸夫 元吉慶子
山本恵子 ロッキード田中

【山口】

赤川和子 有海静枝 大木加代子

上村夢香 坂本加代 清水美枝 田中博美
富田房成 中村雀鳴 平田 恵 平田実男
山本 一
【徳島】 小畑定弘 中村流星 橋本征介
黒田るみ子
【香川】 大高正和 川西義仁 谷本青雲
【愛媛】 越智学哲 鎌田昌子 井元由喜子
栗田忠士 黒田茂代 郷田みや 大内せつ子
古手川光 島田公恵 玉井勝郎 岡山フジエ
田中なお 永井松柏 花岡順子 川上ますみ
浜本光子 兵頭俊子 本田醇子 月原つくし
山本 毅 西田美恵子 宮尾みのり
柳田かおる 山内美恵子 山内もともこ
山本カヨ子

【高知】

辻内次根 広瀬鮎美
【福岡】 梅崎流青 坂本弘子 志岐けい子
野片博之 松藤移世子 もりとともち
【佐賀】 坂本峰朗 仁部四郎 真島久美子
真島 涼 真島 芽 山口亮栄 真島美智子
横尾信雄
【熊本】 嶋村泰昭 杉野羅天 中原たかお
田中賢治
【大分】 高木遊楽
【宮崎】 黒木栄子 中武 弓 黒木せつよ
【鹿児島】 黒木情六 平瀬芙蓉 芳 鉄心
【沖縄】 宮すみれ 多良間典男



物体を見詰める (2)

人間が創り出したものの中で、生活を根本的に変えたのは「電気」でしょう。電気は自然界にも存在しますが、人間が創り出して「コントロールしている電気」は、便利な道具の動力源となって私たちに貢献してくれています。

鉄道地図ひろげテレビの旅をゆく 山田 葉子

妻ちゃんを原発通にしたテレビ 加島 由一

薄つべらなテレビ中身と合っている 坂牧 春妙

あーあーあどのチャンネルも同じ顔 石橋 芳山

伸び切った輪ゴムテレビに向けて撃つ 大久保眞澄

電話にテレビ鳴っているのはどれだろう 若松 雅枝

家電製品というのは「家庭用電気機械器具」のこと。その中でも私たちの暮らしを革命的に変えたのはテレビジョンです。ただ、テレビ番組にも、お茶の間で旅行気分を味わえるものや、様々な知識を得られるものもありますが、「一億総白痴化」等と揶揄される「おバカ番組」も少なくありません。

爺婆を洗うばかりの洗濯機 北野 哲男

ポケットの小銭も洗う洗濯機 竹信 照彦

口答え一度もしない洗濯機 岡村水無月

僕よりもしつかり絞る洗濯機 岸本 宏章

全自動妻をすばらに変えてゆく 興津 幸代

洗濯機にしても、若い別嬪さんの下着なら張り合ひもある

でしょうが、爺さんや婆さんの衣類ばかりでは草臥れます。

口答えもせず黙々と、洗濯からすすぎ、そして乾燥までやってくれる全自動洗濯機は有り難い限りですが、奥さまだけが「省エネ」でだんだんズボラになっていくようです。

自販機が威張つてみえる無人駅 村上 玄也

大儀そな音で自販機缶落とす 米澤 徹子

自販機のお釣りビタリが面白い 横山 捷也

取り替えてくれない自動販売機 清水 隆博

お向かいの自販機うちの防犯灯 堀尾すみゑ

自販機は便利されども子を出ない 石谷 忠良

自動販売機につきましては、本欄No.77の「買い物詠う」でも取り上げていますが、重複せぬものを選びました。

売店のない無人駅でも自動販売機はあります。そこが日本の有り難いところですが、寂しい駅舎の中で自販機だけ威張っているようで、落とす缶の音まで大儀そう。また、機械でありながら釣り銭をキツチり出してくるのは健気です。

いらつしやいお疲れさまとウォシュレット 斉尾くにこ

しあわせの極み便座が温かい 柳田かおる

賢沢は温い便座で読む雑誌 山口 高明

良い発想たまに生まれる良いトイレ 阿部 治幸

おしつこが済みましたねと水が出る 増田 敏夫

トイレまで多機能ですという驕り 木田比呂朗

トイレを家電製品の仲間に入れるのは少し変な気がしますが、進化したウォシュレットは「電気のおかげ」で、寒い季節には温かい便座が最高に幸せ。その快適な環境で良い発想が生まれるのは、トイレの広さがジャストサイズで、雑念が入り込むガラクタ類が無いからかもしれません。

笑いに続くもの

板垣孝志

新型コロナウイルスは日に日に感染者を増やし人類を恐怖のどん底に引き込もうとしている。かのローマ帝国でさえ疫病によって亡ぼされたとある。一日二十人、総死者の数は一千万人との説もある。

スペイン風邪に至っては五千万人から一億人の病死者が出たという、どうやらカウント機能さえ麻痺する未曾有のウイルス禍である。特効薬のない病気は手に負えないのである。

この非常時に国会を仕切るのが未曾有をミゾウウウと読み間違え、云々をデンデンと口に出す懲りない面々である。

景気を良くして国民が元氣出せるように（お肉券）を配布しようとか（お魚券）はどうだとこの期に及んでさえも票田に繋がることを思いつく。

挙句の果てがマスクを二枚配る案に落

ち着いたようだ。中身より送料の方が高いような気がするのだが……。

その金は隔離施設の確保や新設に回すべきではないか、ポオーとしていたら国立競技場が遺体安置所、議事堂が斎場になりかねない。

どんならん政治家を選んだのも結局日本国民だからこの隙隙を括るしかない。

この時期一番必要なのは免疫力を増加させる【笑い】なのだが、このウイルスは志村けんまで連れて行ってしまった。

お笑いの追悼番組で涙を流していたのはほんならん。

エノケンの笑ひの後に続いていたものは戦争だった。

アウシユピッツや原爆の悲劇も戦争が引き起こした。あの冷酷無残はどこから来たのか、子供のころからの疑問の答が偶然買ってきた古本に書いてあった。

【人は正義だと信じたらどこまでも残酷になれる】出典は宗教にかかわっているようだが納得できる言葉である。

人間は地球という銀河系の美しい星を

壊し続けて来たのであるから、宇宙からしてみれば人間は地球に湧いたウイルスということになる。

【コロナは人間をやつつけるワクチンである】この文章も目にした。「アホなことを……」と否定できないのもつらい。

笑いやユーモアは生きる力をもたらし免疫力を高める。地下七百メートルに閉じ込められた鉱山作業員三三名もリーダーのユーモアに助けられたと語った。

抱腹絶倒できる本なら中島らも著「寝ずの番」角川文庫がある。

関東大震災で人々が逃げ惑うどさくさの中で酒屋に飛び込み腹一杯酒を飲んで寝てしまった古今亭志ん生の話や臨終間の師匠の顔を跨いだおかみさんの話。

映画にもなったので御覧になった方もおられるかも知れないが、文章で読むほうが面白い。ともかく落語家たちのハチャメチャな世界が笑わせてくれる。

志村けんの笑いに続く明日が良くなることを祈る。



(投句212名)

「緊急事態宣言」が、東京・千葉・埼玉・神奈川・大阪・兵庫・福岡に出されました。

新型コロナウイルスが猛威をふるい、人類を追い詰めています。

こんなコトバ、SF小説の中のこととしか思わなかつたのに現実のものとなつて襲ってきました。

句会にはほぼ中止とされ、家に籠もるのを余儀なくされていますが、書くのは自由です。では、ナビを。

尼崎市 近兼 敦子
影法師ちよつと細めの私です

(評) 何だか嬉しい気持ちにさせてくれる影法師、本物の自分よりスラリとして、もちろん足だつて長い。

弘前市 福士 慕情
鍵穴に合わない鍵を持っている

(評) 私が変わったのか、相手の方が変

わつてしまったのか、でも、捨てきれない鍵の切なさ。

河内長野市 穂口 正子
人生の最後の扉かも知れぬ

(評) はたしてこの扉の向こうは苦が待つのか、それとも楽の方が、どっちにせよ万感迫るものがあります。

神戸市 富永 恭子
自立した女を演じたくびれる

(評) ホントくたびれそう、自立した女つて誰にも寄り掛からないってことですよね、ムリムリ。

弘前市 高瀬 霜石
しあわせを追うから自立つふしあわせ

(評) 深いですすよねえ。追えば追うほど遠くなつてしまふしあわせ。ちよつと演歌っぽい気もしますけど。

熊本市 杉野 羅天
鍵穴が教える人生のまさか

(評) 人生に幾つかある坂の一つの「まさか」、それを鍵穴に教えられるなんてどういうこと?!

松山市 栗田 忠士
腹割つて話した後の青い空

(評) 清々しい気持ちとはまさにこのこと。相手と心が通じ、塞がっていたものが一気に取り除かれたんですもの。

大阪市 平井美智子
この街であと少しだけ生かしてみる

(評) やっぱりこの街が好き、そう思う

自分に気付けば見慣れたあれこれが一層いとおしくなつてくるのです。

枚方市 山口弘委智
浮き雲をひよいと引き寄せ鍵をかけ

(評) この軽やかさがおもしろい。気の向くままに引き寄せられた浮雲の方がビックリしてたりして。

大阪市 岩崎 玲子
文学もマンガも読んで脳ソフト

(評) くだけた文学もあれば堅いマンガもある、まあ、常識にとらわれないことが自分をやわらかく保つことでしょうか。

鳥取市 永原 昌鼓
出かけよう今日は一日いい天気

松山市 柳田かおる
玉手箱オートロックになつていたら
生駒市 飛永ふりこ
春の陽に笑われぬよう螺子を巻く

塩竈市 木田比呂朗
終章にまだ決まらないキーワード

鳥取市 池澤 大鯨
日時計で体内時計ととのえる

神戸市 上田 和宏
合い言葉言えれば通す仁王門

倉吉市 牧野 芳光
白日にさらされている貸金庫
和歌山市 古久保和子
忘却は四十五度の角度から

米子市 八木 千代
朧月に手を振ってからロックする

箕面市 酒井 紀華
カギ穴を覗けば明日がみえてくる
尼崎市 清水久美子
徘徊の母に駆けつこ強いられる
唐津市 仁部 四郎
歳月が射抜いてみせた鍵の穴
堺市 内藤 憲彦
古金庫開くまでテレビ見てしまっ
奈良市 山本 昌代
ほっとする春の陽射しに握りめし
四條畷市 吉岡 修
抜け道だ国境封鎖でも平気
豊中市 きとこうこみつ
節約のカギはウロウロしないこと
出雲市 伊藤 玲峰
逆上がり春陽と遊べ足の裏
明石市 桃谷 和郎
半地下も捨てたものではないこの世
貝塚市 石田ひろ子
陽当りの土手にたんぼぼ姦しい
佐賀県 真島久美子
再生の呪文を繰り返す真昼
防府市 坂本 加代
希望地に転動光る部屋の鍵
尼崎市 藤田 雪菜
折れそうな心に光る臍月
東大阪市 北村 賢子
合鍵を渡したことも無く老いる
仙台市 月波 与生
一人称になり影が動き出す

鳥取県 山下 節子
よい天気心の鍵は全開だ
高槻市 松岡 篤
哀愁は宮城まり子の靴磨き
豊中市 水野 黒兔
すり減った妻の合い鍵まだ錆びず
土佐清水市 辻内 次根
火星からハルマゲドンの地球見る
橿原市 居谷真理子
法律に表の顔と裏の顔
鳥取市 夏目 一粋
地獄の沙汰が近くなる無一文
寝屋川市 森 茜
焼芋屋の笛小走りで追いかける
松山市 宮尾みのり
父親の権威の死守もマンガめく
大阪市 大治 重信
鈴虫の宴会聞いて一人ねる
大洲市 花岡 順子
合鍵に少しかけりが見えてきた
香芝市 大内 朝子
泣き切った朝へ新たな日が昇る
大阪市 江島谷勝弘
先進国に責任がある温暖化
富田林市 山野 寿之
春の鍵置いて帰った雪だるま
大阪市 柴本ばつは
早よ帰りや夕陽心配してはるで
藤井寺市 鴨谷瑠美子
当分は古びた鍵と睦まじく

7月号発表
(5月15日締切)



(平本 霧石人 画)
柳箋に2句

三田市 堀 正和	三田市 堀 正和	三田市 堀 正和
大阪府 中村 峰子	大阪府 中村 峰子	大阪府 中村 峰子
美面市 広島 巴子	美面市 広島 巴子	美面市 広島 巴子
長野県 丸山 健三	長野県 丸山 健三	長野県 丸山 健三
大阪府 小野 雅美	大阪府 小野 雅美	大阪府 小野 雅美
河内長野市 大島ともこ	河内長野市 大島ともこ	河内長野市 大島ともこ
岡山県 永見 心咲	岡山県 永見 心咲	岡山県 永見 心咲
横浜市 加藤 佳子	横浜市 加藤 佳子	横浜市 加藤 佳子
大阪府 藤田 武人	大阪府 藤田 武人	大阪府 藤田 武人
和歌山市 佐藤 まき	和歌山市 佐藤 まき	和歌山市 佐藤 まき
大阪府 石田 孝純	大阪府 石田 孝純	大阪府 石田 孝純

社長さん一番乗りの町工場
ジャラジャラと私の宝カギの束
日日新たな心の扉開け一步
書面より先に届いた新任地
悩んだら飛んでごらんと母の声
哀愁の後ろ姿にまた惚れる
ちっぴけなダイヤじゃ私口説けない
朝帰り自宅の鍵が合いません
懐に忍ばせ銃をロックオン
太陽が真上に射して鍵があく
かげぼうしとだあるまさんがおそろんだ

老心ゆづり

毎月24日締切・35句以内厳守
掲載は原稿到着順となります。
楷書で誤字のないようお願いします。
編集部

川柳あまがさき(兵庫) 大浦 初音報

豊満にあつて肥満にない色気
豊かさと隣りあわせでクルーズ渦
終焉に幸せだったと義父笑う
物溢れくらしの工夫いりません
美人にはめつきり弱いおじいちゃん
デマと無知エゴが重なり紙不足
雨の中うぐいすの声春間近
借金が済んでいぬのに借りに来る
三回忌そつとあぐらに組み替える
貧しくても心豊かに夢をもち
親切も程が過ぎるとおせっかい
久しぶりめつきり老けたとも言えず
新型コロナめつきり消えたあの桜
二年生学校暮し板につく
親の説教めつきり効き目落ちてきたり

和子 厚江 菊江 千賀子 英坊 初音 新録 孝治 純 紀恵 紀華 正彦 紀彦

コロナコロナうつとおしいな春なのに こみつ
コロナ菌かいくぐつての初デート 宏造
セクハラにパワハラ更にコロナハラも 良種
大食いとダイエツトとのコンテスト 耕治
施設入りめつきり減つた言葉数 美籠
花を愛で人を愛して日び豊か ヨシエ
豊かさを追いかけ過ぎて豊か 盛夫
めつきりと歯きり減つた定年後(俗) 修平
豊かさの中で人情干涸びる 堅坊
生命の限界神に決められる 雅美

きやらぼく川柳会(鳥取)後藤 宏之報
ヒートテック着ても老体温もらぬ 恵子
コロナウイルスグロバル化を知らしめる 美穂
寒風に見た目を捨てる丸い背 俊久
いつの間に老後百才私喜寿 令位子
暖冬でスノータイヤが悲鳴上げ 久直
ワntenボずれる口惜しさ趣味の会 治代
今日よりも明日はいい日になるように 宣子
出血であける令和の初句会 紀の治
遅い雪春の準備が後ずさり 汪
欲言うまい今の私は幸せだ 多美子
八十二才元気な心もえてくる 美草
温かいジャンパー脱いで冬脱皮 瑞枝
リハビリのその一言にはげまされ 菜々
さよならのマナー優しく手を振ろう 千代

送料無料にとにかく弱いです
今日の日を残しまぶたがふさがらぬ
唄い合う宴会だった車座で
宏之 日枝子 雨奇

南大阪川柳会 松岡 篤報
語るよう青空を舞う切れた風
母になる予定ハイヒールは履かぬ
靴箱と言わず下駄箱とはなんだ
行くところもないのに高い靴を買う
靴底の検疫なくていいですか
九条を守り軍靴を遠くする
月末に数えて収支また合わぬ
百均へ小銭数えてシヨッピング
平方根延々続く数の列
還付税金算用で税務署へ
西暦が数えやすく便利です
数え唄卑猥な歌が酒のアテ
数えるたびだんだん減つてゆく味方
点滴を数える夜の深い闇
数えるのと惨めになってくる資産
答弁が何時もぐらつく安倍総理
考えがぐらぐら老後のあと始末
風向きを気にしすぎてはいませんか
グラグラの腰が支える自尊心
考えのぶれることなく今がある
軸ぶれて非難石から左から
弘委智 シマ子 修 実
柳右子 柳伸 国和 満作 峰子 克己 昌紀 敏治 亜成 歌留多 ひさ乃 ダン吉 弘子 直子 俊雄

血圧がグリーンと跳ねる七十五
もう少し聞きたかったなあポヤキ
幸せに過ごした振りて生きてます
退屈になればポケットから新書
ゆとりない暮しジョークが通じない

和歌山三幸川柳会

西川 千鶴報

簡条書きの挨拶をする初対面
介護保険きつと役立つ時がある
車窓からくしゃみで見えなくなった富士
手話仲間だけに通用するサイン
幸せにきつとするよに付いて来た
深く老いのサインを受け入れる
折りより食が楽しい伊勢詣で
踏まれても咲くすべ知っているきつと
凜としてサインをくれた冬の菊
世渡りは欲の数だけ拌みます
大根を抜いた穴にも初春の風
ライバルもきつと握っている拳
サインした紙の重さに嘖まれ
人間のルーツ辿れば皆家族
透明になって初心を取り戻す
花占いきつとが出たり隠れたり
初恋の人に似てると嘘ばかり
幸せはきつとあなたの傍にある
カビバラのとろけ顔して冬至の湯

勝弘 東風 郁夫 一步 楓 楽
和子 起世子 かず子 保州 ひろ子 純子 一雄 富香 昭枝 准一 当代 菜摘 倅子 敏照 幹子 日出男 智三 宏枝 まき

一日のドラマ吸い込む茜雲
談笑で知恵のカクテル作ります
拌むから助けてくれと思う時
きつとまた会える日来ると信じてる
指切りげんまんきつときつと木霊する
都合上忘れることにするきつと
ゴーストもらったような空の青
サインなどせぬのに蟻が作る列
誕生の無垢なのちを抱く畏れ
きつとくる天災へまだ油断する
涙いろいろ出ない涙もきつとある
百寿まできつと生きると言われても
今泣けば明日はきつと笑顔です
洪水とひでり温暖化のサイン
拌んでも拌み足りない人と居る
初期化する事柄多い年始め

八重子 昇 よしこ 康則 知香 美枝子 あき子 明子 理恵 眞智子 悦男 俊介 みつ江 義泰 美羽 千鶴

他人との袖摺り合って今がある
他人ごとウワサ話に花が咲く
他人でもおしくらまんじゅうあったかい
うちの子を甲乙丙と呼ばないで
叱られて他人の痛み知る涙
老老介護他人事でない昨日今日
赤ちようちんの椅子よ他人と思えない
流水下踊るクリオネ春を呼ぶ

竹原川柳会(広島)

古田比呂子報

他人との袖摺り合って今がある
他人ごとウワサ話に花が咲く
他人でもおしくらまんじゅうあったかい
うちの子を甲乙丙と呼ばないで
叱られて他人の痛み知る涙
老老介護他人事でない昨日今日
赤ちようちんの椅子よ他人と思えない
流水下踊るクリオネ春を呼ぶ

弘子 節夫 千代美 輝恵 栄香 敬子 蘭幸 幸子

辻内次根選

初ものはお先祖様が味見する (古)和子
原色の主張は他人を寄せつけず 惠
公園の鳩と話せる車椅子 (柿)和夫
母の顔五百羅漢の中に見た 淑子
ご飯炊く役割がありボケられぬ 章子
傘寿より若く見えます二才程 瑠美子
張り手して勝ち星ですかご無体な (寺)恵美子
いい笑顔永久保存しておこう (竹)千賀子
そやかてなおらへんかったあなたしか (寅)寅夫
手にすると何とも言えぬ重みあり (安)和夫

佳句地十選

(4月号から)

川崎 ひかり 選

晩酌は今日一日の句詠点 哲男
初ものはお先祖様が味見する (古)和子
折りに選んだ道に今がある 桂子
いい笑顔永久保存しておこう (竹)千賀子
痛いところ無かった頃は金も無い 瑞子
ハムスターにもかかりつけ医がちゃんといふ こみつ
年輪を刻んで大樹神となる 千鶴子
味付けは舌が覚える母の味 ほんのか
意地張って張って縮んだ僕の影 (鳥)美智子
本心をはがすキャベツの葉のように 野霧

その先は胸におさめて踊る日々
ビエロだとわかつていてもまた踊る

盆踊り君の浴衣の凜凜しくて
踊ってる桜観る人招く人

港町汽笛海鳴り守り唄
光いっぱいイルカと泳ぐ海広し

ハネムーンは海の見える部屋でした
火の海はもう沢山と言うコアラ

戦争が静かに眠る海の底
インフルにコロナ来ないでマスク不足

友はもう来ない道行く一人杖
七草粥頂く七草の名を言つて

歩いて来たんだね私の影法師
無病息災村人絵出神明祭

節分会運氣好転する予感
卒業へ六年間は早かった

くもまではとどかなかつたよちかたこ
四歳ちか

川柳同友会みらい(鳥取)吉田 陽子報

ああ布田家路せかせる黒い雲
おふくろの味出揃つて迷い箸

ポラントニア抜きで復興語れない
初雪へわずらわしさと嬉しさと

離農して先祖へお詫び手を合わす
私をほめてくださる人素敵

節子

鬼焼

夢香

淑子

節生

宣之

比呂子

寿子

慶子

昭紀

歩美

規代

貞子

笑子

初音

厚子

史子

か

初日浴び二礼二拍の音高く
良縁を願う賽銭けちらない

ありがとうあれやこれやの介護の手
天気予報つい目を止める子の任地

諦めねば夢はいつかは掴めると
少しずつやればよかつた大掃除

寝違いの回らぬ首は余所見せず
今までに追い風なんかあつたかな

見守れずやっかいですね老婆心
取るだけの齢にあてがうものがない

汗すべて実を結ぶとは思わない
仮払いのまま今生を終えそうな

プータンの幸福論を学ばねば

はびきの市民川柳会(大阪)徳山みつこ報

経営の神様になる幸之助
バワハラを恐れ課長のひとり酒

辞めるのか君の代りはたと居る
荒波へこぎ出す船出入社式

荒波を越えた男の力瘤
荒波の人生こえていまがあり

ウイルスが超荒波になつてきた
荒波に鮪と勝負する勇姿

荒波を潜つてかわす生きる知恵
コロナ菌に飛び込む医者使命感

世の中の荒波もまれ人となる

節子

安子

美恵子

和郎

恵子

真帆

清春

真樹

あゆみ

千恵子

陽子

ダン吉

游子

公弘

一文

みつこ

ゆみ子

正義

荒波を越えたんだらう顔の艶
インバンド減つてミナミの灯が揺らぐ

貧困を減らし豊かな世の中を
虎の子が減る一方の年金者

あやふやな答弁支持率を減らす
札が減り小銭ふくらむ財布持つ

夢が減り貯金も減つて酒量増え
残されて酒一合と独り酒

靴底を減らしノルマを上げていく
体重も口も減らない妻である

ひっそりと桜の名簿処分する
ひっそりと竹む寺に身が締まり

ひっそりと孫の財布に札入れる

川柳茶ばしら(愛知) 関本かつ子報

先代の税を換えて代替わり
これまでの積み重ねですこの身体

物忘れ動作も遅く四苦八苦
コロナ禍の鎮火するまで引きこもり

愚痴ばかり拾い集める友に距離
ふうもん吟社(鳥取) 山下 凱柳報

無学でも礼状ために書いてます
ポケットから銭も出たがる止めるなよ

花粉症に追い討ちかけるコロナ菌
一本の紅バラ万札より好き

信じてたサブリも年になわらない

鐘 旭

瑠美子

久仁子

雄太

フジ

いさお

かつ美

洋一

美代子

大子

まつお

真

さくら

冬のト

三樹夫

美千代

雅美

まみ子

団票になってコロコロ認知症

コロコロと回る地球を壊す奴

コロコロと変わる介護制度に身が持たぬ

拉致の母とうとう抱けず旅立たれ

卵抱くツバメは人を信じてる

根回しという抱き込みをして打って出る

満たされぬ想いを抱いた蝶の乱

エリートが重たいものも抱いている

マリオにも魔女にも無敵ドラえもん

アニメには目玉のかいい人ばかり

孫栗立ち漫画の本が留守番だ

漫画なら学がなくても笑えちゃう

包丁が切れずたくあん数珠つなぎ

近未来漫画のように生き返る

三次会みんな漫画の主人公

葬式の手順漫画にしておこう

本当は何歳ですかサザエさん

大砂丘風は足跡つけ駆ける

川柳塔みちのく(青森) 稻見 則彦報

根の生えた妻に小言は無用です

ラブレター改訂版はまだ続く

胃薬の苦さ知ってたオブラート

言うだけははつきり言って話聞く

いいじゃないか若い恋沙汰ふたつ三つ

壊れてからおもむろに読む説明書

読むことを鍛えてくれたゴニンカン

石花菜

照彦

美知江

貴恵

富隆

大鯨

みゆき

芳光

重利

公恵

紀美恵

滋

翡翠子

三津子

完司

宣子

紀の治

くにこ

高齢化昔ばなしの世界だぬ

改善案は地球まるごと解熱です

空気読み付度励み生きのびる

腕組みをしたまま意見聞き流す

襟正す句会欠席まず減らす

働き方を改革しよとアリ誘う

結局は酒で手を打つ多数決

初めての古文書這つているミミズ

シャイだから意見を言えず悩んだ日

今日もまた人という風読んでいる

順風が吹くまで待てぬ雑魚の質

重い雪掻き通行人に勞られ

足許の一円玉に啜われた

人間で良かった生きている美学

八十路坂生命線のどの辺り

夢にまで酒が切れない二日酔い

子の風に令和の空をあげようよ

入院の朝は引つ越し気分なり

顔馴染み心も癒えるローカル線

ハッピーニューイヤール笑顔が集う初句会

不具合の連続 蘭でも買いましょ

川柳ねやがわ(大阪) 籠島 恵子報

敵父の優しさ時には恐ろしい

ウィルスに負けてならぬと酒を飲む

晴れの日は妻がたしなむ薄化粧

化粧水だけで足りてる八十歳

吹喜

柳子

孝子

慕情

規子

初枝

きよし

ちづ子

京子

真由美

のぶよし

英子

黙人

龍馬

ふさゑ

花峯

あゆ

霜石

洋子

吞舟

和香子

倉吉川柳会(鳥取) 竹信 照彦報

甲冑を脱いで話せる友が居る

地球から楽しい文字が逃げ出した

無観客どうなる事か楽しみだ

コロナ風邪楽しいことが全部消え

満足な化粧に合わせる服がない

高齡も十年買おう日記帳

定員に春の口紅選ばせる

安倍君は黒塗りて出す宿題帳

コロナウィルス神もマスクも当てならぬ

町工場宇宙制覇の夢無限

さっと身をおわされました咳一つ

解決へあかりいつ見る拉致の海

B29くぐった命卒寿越え

長生きはしたいが懐が寒い

一病を得て長生きのコツ掴む

極楽でうんと長生きするつもり

長生きを自慢する人詫びる人

春近い樹樹の蕾が紅をさす

夢いっばい予定を入れたカレンダー

百歳を視野にビタミンABC

椿ではないとさざんか散っている

恵子

博泉

尚世

麗

和織

高鷲

壽峰

銀杏

賢子

千賀

朝子

信子

弘一

郁夫

弘委智

ルイ子

かすみ

恵子

節子

次男

隆昌

けいこ

風露

瑞子

日出子

紀美恵

今無いなあ縁談話運ぶ人

真心をベッドに運ぶ介護の手

幸運を運ぶ女神がまだ見えぬ

ジェット機でゴーンを運ぶ楽器箱

我八十路生きる努力を運ぶ今日

国会で秘書が運んだメモを読む

振り向かれずかさず目線宙に向け

ふんわりとすかさず返すお断り

問われずすかさず答え出て来ない

自転車で転ぶすかさず辺り見る

大臣の椅子は失言待ちゲーム

知事さんはすかさずジョーク返します

トランプがむんずと地球廻しとる

マスクひもむんずと締めていざ出陣

いななく悍馬のむんずと取る轡

洒落臭い鼻をむんずと捻じ伏せる

君の心むんずとつかみ今がある

詰め放題むんずとむんずと驚ぶかみ

新コロナむんずと人に絡みつく

長柳会(大阪)

辻村

ヒコ報

老人会揃っています芸達者
難問に俄然はりきる脳パズル
欲望がもしも失せれば朽ち果てる
詐欺師達実に見事に芝居する
一言も聞きもらさじと前のめり
芸ひとつ我が家の猫はどや顔す

ヒロ
おくみ
洋二
ゆき
千代
弘美

さちこ

美知江

大鯰

茂夫

恭子

祐子

雄大

龍枝

智恵子

由紀子

野蒜

醉芙蓉

石花菜

鬼一

重忠

宣子

玲子

萩江

照彦

老々介護浮世離れの会話する

春だから少しやんちゃに飛び跳ねる

恋煩いのウイルスならかかりたい

う・ふふふ二番煎じの春が来た

木登りも高所と妻が怖い僕

不摂生今に切れそう蜘蛛の糸

病癒え家族総出の祝い膳

小卒の父母の生きざまから学ぶ

未来背負い小さな家族仲間入り

コロナ菌せきやクシヤミで疑われ

コロナ菌五輪が遠くかすみだす

適当に牙先変える年の功

米寿祝で百歳までと言われても

コロナ禍に孫二人来て和ませる

恥らいも埃も多少浮かぶ祖母

男偏がんばりとおす瘦せ我慢

青春の初恋浮かぶ喜寿の会

妻病んではじめて知った守備範囲

川柳塔さかい(大阪)

内藤

憲彦編

失敗は待針のせいママのせい
四畳半老母は今でも針仕事
ウイルスに文明国の強縫策
仮縫いのままで歩いていたらしい
雑巾も縫わず百均飼う時代
切腹の縫目自慢の手術跡
人様のつもりが欲で夜叉になる

ゆみ子
ばっは
時雄
扶美代
妙子
光雄
唯教

光弘

一男

和美

正子

和子

フミ

直樹

たけし

淳司

ともこ

靖博

孝

隆明

登美子

孝代

隆彦

旅人

規之

敬二

見積りで納得してた筈なのに

皮算用つもり見たつもりでも確かめる

白いまま春を迎えたカレンダー

大輪を咲かせるつもり種を蒔く

毎日をにっこり生きていくつもり

終活の心積もりが空回り

松茸を等分にして下山する

その噂仲間はみんな知らぬ振り

仲間には切なさ残る家族葬

仲間ではあるが一目置いてる

春野菜詰まった箱に友の文

リハビリの待合室に居る仲間

マスクのお陰やつと美人の仲間入り

論吉のつもり千円札で恥をか

もう一花咲かすつもりストレッチ

人生はつもりつもの積み重ね

パーチャルのめがねかければつもの世

鍵かけた消したつもりが増えている

言うつもりないと言いつつ愚痴を言う

抜かりなくやつたつもりが水漏れる

飲んだつもり薬が一個落ちてる

蒲焼きを食べたつもり深呼吸

日本へのこのコロナへばりつく

二番手でのどこか過ぎす平和です

日本を乗っ取るな可愛変な菌

憎めない喉を詰まらす下手な嘘

にこにこものらりくらりも返事です

八千代
満知子
佳子
みつ江
雅美
みつこ
満作
愿
富美子
美津子
玄也
志津子
敏治
清
舞夢
ひろ子
としお
敬子
憲彦
雅明
世紀子
淑子
輝子
堅坊
禮子
五月

句会名	日時と題	会場と投句先
川柳 藤井寺	投句句会 締切5月15日(木) 許す(共選)・つらい(共選)	〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-303 鈴木いさお
岸和田 川柳会	16日(土)14時締切 風景・遊ぶ・淡い・タブー	岸和田市立福祉総合センター 南海電鉄「岸和田」駅東へ5分 〒596-0076 岸和田市野田町2-13-19 中岡香代
川柳塔 みちのく	16日(土)17時締切 一气・慌だしい・ゴール	弘前市御幸町13-1「大成小学校地域交流室」TEL0172-32-2591 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稲見則彦 宛 TEL0172-36-8605
豊中 もくせい 川柳会	投句会 締切16日(土) 兼題：砂糖・絞る・薄い・自由吟	投句先： 〒569-0073 高槻市上本町5-26 初代正彦
南大阪 川柳会	17日(日)13時30分締切 タイガース・つぶやく・ぎりぎり 雑詠	大阪市立住まい情報センター 5F 研修室 メトロ谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒569-1124 高槻市南芥川町9-28-901 松岡 篤
川柳塔 すみよし	投句句会 締切5月18日(木) 溶ける・ひげ・枯れる・自由吟	〒580-0026 松原市天美我堂3-130-2-404 森松まつお
川柳 たちばな	20日(水)13時45分締切 印象吟・腹(互選)・流れる 自由吟	立花北生涯学習プラザ(尼崎市塚口町3-39-7) 06-6422-6741 阪急塚口駅北へ10分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
和歌山 三幸川 柳会	23日(土)13時15分締切 貝・働く・メール	和歌山商工会議所 4階 〒640-8570 ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸川柳会」宛
はびきの 市川柳 会	24日(日)14時締切 余談・治す・わくわく・席題	陵南の森公民館 近鉄南大阪線「高鷲」駅下車 北へ徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8 徳山みつこ
川柳 ふうもん 社	24日(日)13時から 自由吟・穴・鮮やか・減る 席題	県民ふれあい会館 4F 鳥取市扇町21 〒689-0202 鳥取市美萩野2-171-3 中村金祥
川柳 あまがさき	中止	〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
川柳大阪	中止	〒534-0021 大阪市都島区都島本通4-11-6 山崎珠生
川柳 さんだ	中止・ もしくは投句句会に変更予定	〒669-1545 三田市狭間が丘5-10-19 谷 祐康

★「緊急非常事態宣言」後、各地句会の変更が予想されますのでご承知ください。

5 月各地句会案内

(開催日順)

句会名	日時と題	会場と投句先
城北会 川柳会	投句句会に変更 締切ました	〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14 江島谷勝弘
川柳 とんだばやし 富柳会	2日(土) 14時締切 軒・潰す	富田林市立中央公民館 近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ200m 〒584-0064 富田林市不動ヶ丘8-31 山野寿之
倉吉会 川柳会	2日(土) 14時締切 出直す・友人・呪文・席題	倉吉市明倫公民館 〒689-2221 鳥取県東伯郡北栄町由良宿2072-17 谷口次男
川柳塔 まつえ 吟社	2日(土) 13時30分締切 「染み・シミ」・凄い・税金・ 「増加・増える」	松江市雑賀公民館 〒689-1223 松江市美保関町釜浦222-1 相見柳歩
あかつき 川柳会	投句句会 締切5月7日(木) 消印有効 リクエスト・海・三角・時事吟	〒543-0013 大阪市天王寺区3-6 木村ビル2階 あかつき川柳会
六甲会 川柳会	投句句会 締切5月7日(木) 茶・正直・重い・問う 自由吟	〒657-0011 神戸市灘区鶴甲4-11-11 上田和宏
川柳塔 なら	8日(金) 投句句会に変更 隣・ええやん・残す	〒633-0054 桜井市阿部787 安土理恵
川柳塔 打吹	9日(土) 13時30分締切 石・派手・ほとほと・席題	倉吉市上灘町9 上灘公民館 〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光 方 川柳塔打吹 事務局
川柳塔 さかい	9日(土) 締切 病気・好き・ミニ・折句:そ・う・ま	投句句会に変更
八尾市民 川柳会	10日(日) 14時締切 夏山・ここから・救う・雑詠	八尾市安中町3-5-1 洪川・安中集会所 JR「八尾」駅から徒歩5分 〒581-0083 八尾市永畑町2-1-7 土田欣之
川柳塔 わかやま 吟社	10日(日) 14時10分締切 兼題=響く・塩・バトン 課題吟=増	和歌山商工会議所 4階 和歌山市西汀丁36 兼題 〒649-6253 岩出市紀泉台366 藤原ほのか 課題吟 〒592-8349 堺市西区浜寺諏訪森町東2-208-5 柴原道夫
西宮北口 川柳会	投句句会 締切5月11日(月) クイズ・気づく・電車・厳しい 自由吟	〒663-8141 西宮市高須町2-1-31-830 福田正彦
ほたる 川柳 同好会	12日(火) 13時30分締切 背・飛ぶ・がらがら	豊中市立蛭池公民館 阪急・モノレール蛭池 蛭池駅前ビル 5F 〒561-0813 豊中市小曾根2-4-1 水野黒兔
川柳 ねやがわ	投句句会 締切5月15日(木) すばらしい・落書き・考える 自由吟	〒572-0063 寝屋川市春日町9-9 高田博泉

柳界展望

秀句 高田美代子
神風が吹いてニッポン
負けました

秀句 新家 完司
胸底に風が生まれるま
で黙る

▽出版△
○森山文切川柳句集「せ
つえい」、序文・真島久
美子、跋・森山盛桜。A
5判105頁。発行・毎週w
e b 句会。

▽新誌友紹介△
各務原市 喜多村正儀
次回常任理事会
5月・6月本社句会中止
のため7月7日(火)AM 10
時頃の予定。

天位 山下 凱柳
カミソリと言われた俺
も好々爺

▽動向△
○「はびきの市民川柳会」
(大阪府) 四月より会長
に吉村久仁雄氏が就任。
○第9回各地句会交流会
(関西圏) が3月1日、
川柳塔社事務所で開催。
13句会の会長・代表者が
出席。

★「第16回川柳信濃川・
新春誌上大会」は、参加
者686名。同人成績。

▽お詫びと訂正△
○4月号、P42上段13行
目。杉本文子→松本文子。
▽訃報△
○中川ひろ介さん(常任

天位 池田 美穂
神様をジューピーエスで
追跡だ

理事・羽曳野市) 3月12
日に逝去。享年72。
○阿部紀子さん(同人・
生駒市) が3月26日に逝
去。享年82。

★「第125回中部地区誌上
川柳大会」は、参加者54
名。同人成績。

お願い
最近、愛染帖・檸檬抄・一路集・ナビに柳
箋以外の、たとえば句箋で投句される方が
おられます。整理の都合上、川柳塔柳箋で
お願いします。

天位 高瀬 霜石
清濁飲んでふわりこの
世に浮いている

本誌綴り込みの同人・誌友投句用紙裏の「投
句について」の規定を今一度、ご確認の上、
ご協力お願いします。

★「第10回ふるさと川柳」
誌上大会は、参加者478名。
同人成績。

▽訃報△
○中川ひろ介さん(常任

秀句 平井美智子
真っ直ぐな風です 結
婚しませんか

理事・羽曳野市) 3月12
日に逝去。享年72。
○阿部紀子さん(同人・
生駒市) が3月26日に逝
去。享年82。

▽お詫びと訂正△
○4月号、P42上段13行
目。杉本文子→松本文子。
▽訃報△
○中川ひろ介さん(常任

理事・羽曳野市) 3月12
日に逝去。享年72。
○阿部紀子さん(同人・
生駒市) が3月26日に逝
去。享年82。

コロナウイルスの蔓延に伴う 句会・大会の変更・中止

(4月末日現在)

- 5月2日(土) 川柳塔まつえ・月例会
(投句方式に変更)
- 5月16日(土) 筒井祥文追悼「らくだ忌」大会
(2021年に延期)
- 5月16日(土) 宿場町やかげ川柳大会(岡山)
(誌上大会に変更・締切4月末日)
- 5月23日(土) 井笠川柳会第21回笠岡大会(岡山)
(事前投句の部のみ誌上大会として実施)
- 6月7日(日) すばる川柳会創立15周年記念大会(神戸)
(無期延期)
- 6月14日(日) 全日本川柳秋田大会(秋田)
(10月11日(日)に延期)
- 6月20日(土) よつがね・はばたき150号記念大会
(誌上大会に延期)
- 6月28日(日) 鈴鹿市民川柳大会(三重)
(2021年6月27日(日)に延期)

第26回 川柳塔まつり

と き 2020年(令和2年)10月3日(土)

開場:午前11時 出句締切:正午 開会:午後1時

ところ ホテル アウィーナ大阪 4階 金剛の間

大阪市天王寺区石ヶ辻町19-12 (近鉄上本町・地下鉄谷町九丁目下車) 電話 06-6772-1441

《同人総会・議事》午前10時より

2019年度事業経過報告・同決算報告・会計監査報告
2020年度事業計画・同予算案・役員人事・その他

《各賞表彰式・記念句会》

表彰式 路郎賞・川柳塔賞・愛染帖賞・檸檬賞・一路賞・各地柳壇賞

おはなし「光を失って手にした五七五」

RP-net 川柳会「もやい傘」代表 山本 進 氏

兼 題 「プライド」	川柳塔社	栃尾 奏子 選
「しっかり」	川柳塔社	鈴木 いさお 選
「織る」	川柳塔社	永見 心咲 選
「元気」	川柳塔社	竹村 紀の治 選
「混ぜる」	番傘川柳本社	西 美和子 選

事前投句「扉」(8月31日必着) 川柳塔社 主幹 小島 蘭 幸 選

◎各題2句・勝手ながら欠席投句は拝辞させていただきます

出句締切 正午(午後5時頃終了予定) ※各題の「天」位に賞呈

◎会費 2,000円(当日頂きます) ご昼食は各自でお済ませください

◎呈 記念品

《懇 親 宴》

と き 令和2年10月3日(土) 午後5時～7時

ところ ホテル アウィーナ大阪 3階 葛城の間

☆会費 7,000円 先着申込み 130名様

*事前投句および懇親宴のお申込はチラシに刷りこみのハガキ(ご希望の方は事務所)にて
8月31日(月)までに本社事務所宛、お送りください。

*懇親宴のご送金(句会費除く)は同封の振込用紙でお願い致します。

主催 川柳塔社

大阪市天王寺区大道1丁目14-17-201
〒543-0052 ☎・FAX 06-6779-3490
振替 00980-4-298479

編集後記

★チューリップ胡蝶の奈落
かも知れず 薫風

★増加の一方を辿るコロナウイルスの感染者。感染経路が特定できない不気味さ。最大の感染源は、「自分の手」とは新型インフルエンザ撲滅にも関わったこともある医師の言葉。手でむやみに顔を触らない、手洗いは30秒ほど念入りにすること、人と人の接触を避けること、そしてマスクしか予防の方法が無いという。この原稿を書いている4月7日の段階でいまだにマスクを買う行列が…。

★知人が手作りの布製マスクを送ってくれた。市販のマスクを参考に私も作ってみた。引き出しに仕舞ったままのガーゼやフランドのハンカチをつぶして、久し振りにガタガタのミシンを踏んだ。知人のように丁寧ではないが満更でもない出来映え。懇意にしている人の姪っ子の中学校ではマスクをしていないと学校に入れないときいた。マスクの無い子は学校で借りてあとで返すらしい。もちろんプサカワの何枚かを送ってあげた。えっプサカワつてなに？ 不細工で可愛い略語である。

★ある朝集合住宅の階段にネズミの死骸が転がっていたことから始まるカミユ作『ベスト』が読まれているという。献身的にベストと闘う医師と封鎖された都市の物語。現実が小説の世界をはるかに凌駕する。ここまで書いていてアメリカの動物園の虎が感染したというニュースを聞いた。動物界にもコロナ菌は蔓延するのだろうか。胸が痛い。

★和歌山から大阪へJRで1時間余。天王寺駅は半年前には外国からの観光客が溢れていた。今は閑散としているとはいえず直のところ大阪へは行った

ひとこと

ちよつと変わった旅

外国語など全く喋れない私だが、兵庫県国際交流協会友の会の賛助会員になっている。その活動の一つに県民交流団の派遣がある。兵庫県と友好提携を締結している国・地域を訪問し、現地での記念式典等への参加などを通じて現地住民との草の根交流を行う。参加者が現地の魅力を発見し、兵庫県との交流についての理解を深めることを目的に実施されている。

私がこれまで参加したのは、韓国慶州南道・ブラジルパラナ州・西オーストラリア州だ。この度はハバロフスク地方提携50周年記念式典への参加がメインだが、ウラジオストクやハバロフスク市内視察と日本語学習者やダーチャでの昼食作りの交流等もあった。

訪問地の挨拶とありがとうだけは覚えてゆくが、新しい出会いがあり、日本が新鮮に見える。快眠会食快便で旅が出来ることに感謝。(山端なつみ)

くない。行きたくないが編集業務がある。4月7日、東京、大阪他の都市に緊急事態宣言が発令された。皆さま体調管理に充分ご留意ください。

(朱夏)

○腰の手術で、1月下旬を病院で過ごした。コロナウイルスが、武漢やクルーズ船を襲った騒ぎをテレビで見ている。エライこっちゃと思いつつもまだ対岸の火事

に近い受け止め方だった。○31日退院の日、看護師さんに「マスクをして帰ってね」と言われ、私も夫もマスクを頂いた。

○翌日、マスクを買いに行くと、店の棚は空っぽだった。以来マスクにお目にかからない。

○2月末にトイレットペーパーを買いに行くと、これまた空っぽ。これには焦った。買い占めが起きている

と後で知った。○3月末、東京のスーパーは買いだめをする人が列をなしていた。大震災の時も略奪や暴動は起きなかった日本だが、自分だけという気持ちがある。ごまかしきれないようだ。

○句会も中止となり、高齢者は塾居したいところ。使い回しのマスクをして外出の自粛が望ましい大阪で編集は続く…。(眞澄)

川柳塔誌新規購読申込書

きりとりせん

年 月 日

<input type="radio"/> <input type="radio"/> 年 年 月 月 から から 一年 半年 9800円 5000円 } 該当の方に○をつけて下さい	紹介者	電話	住所	氏名
		—	〒 —	

〒543-0052

大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201
川柳塔社 (電話 06-6779-3490)

振替 00980-4-298479

◎この用紙は新規購読申し込みのみにご使用下さい

お知らせ

新型コロナウイルスの収束の見込みが立たない現状を鑑み、5月7日、6月8日の本社句会は中止と致します。
皆さま体調管理に十分留意してお過ごしください。

作品募集

7月号発表 (5月15日締切)

川柳塔 (8句) 小島蘭幸選
水煙抄 (8句) 川上大輪選
愛染帖 (2句) 新家完司選
檸檬抄「なつむぎ」(2句) 水野黒兎共選
インスピレーション・ナビ(2句) 大西泰世選
一路集「騒ぐ」 藤田武人選
「酔」 川島良子選
初歩教室「仕掛け」(3句) 居谷真理子担当
初歩教室「仕掛け」は8月号発表

8月号
檸檬抄「浅い」
一路集「招く」「散歩」
初歩教室「洗う」

★7月7日(火)路郎忌句会は中止します。代って誌上投句会会の予定です。詳細は6月号に掲載です。

川柳・俳句・エッセイ・小説
新聞・広告・ポスター・伝票等

あなたの思いをかたちにします。



美研アート

〒531-0061 大阪市北区長柄西1-1-10
TEL (06) 4800-3018
FAX (06) 4800-3028
E-mail: bikenart@ea.mbn.or.jp

定価 八百円(送料100円)
半年分 五千円(送料共)
一年分 九千八百円(同)

発行人 小島和幸
編集人 木本朱夏
印刷所 美研アート

〒543-0052 大阪市天王寺区大道一丁目一七番
花野ビル201号室
発行所 川柳塔社
電話(06)六七七九一三四九〇番
振替〇〇九八〇一四一九八四七九番

川柳塔のホームページアドレス <https://senryutou.net>

オニザキのプレミアムロースト

つばなごま

杵つき製法の「すりごま」

袋を開けた瞬間に広がる、
香ばしい薫り。舌と記憶に
しっかりと残る、深いコク。

料理をより美味しくする
ゴマを作りたい、真つすぐな
想いから生まれた逸品。

それが「プレミアムロースト」。
素材本来の良さを余すこと
無く引き出した、オニザキの
自信作をお届けします。



株式会社 オニザキコーポレーション
〒862-0951 熊本県中央区上水前寺1-6-41 OCOビルディング

TEL 0120-30-5050

心を尽くし 思いを尽くし 知性を尽くし
力を尽くして全人的に仕える医療と福祉

医療法人社団 湯川胃腸病院



消化器科 放射線科 脳神経外科
緩和ケア（ホスピス）
デイサービスセンター併設



大阪市天王寺区堂ヶ芝2-10-2 TEL 06-6771-4861

<http://www.yukawa.or.jp>